

継続的な改善活動のために！

2014

在学生・卒業生・教職員

KIT総合アンケート調査結果 [報告書 (抜粋)]

学校法人 金沢工業大学

KIT総合アンケート調査結果について

学長 石川 憲一

周知のように、'70年代を境目として我が国における大学を始めとする高等教育は大きく変化し、最近に至ると修学年齢世代の約50%が大学・短大へと進学する所謂「大学教育のユニバーサル化現象」が生じてきております。このような状況は一面においては、資源小国である我が国にとって人材と言う『財』を然るべく育成し、国民の知的水準を向上することは望ましいことではあります。一方では卒業生の質的保証や当該大学に対する満足度等に関しては、従来から不明な点が多いのが現状であります。

金沢工業大学は、開学以来47年の歴史を着実に刻み、'12年4月より工学部、情報フロンティア学部、環境・建築学部、バイオ・化学部、から成る4学部14学科体制を有する理工系総合大学に移行しております。このような展開の中にあって、'95年度以来実践して参りました教育改革の成果の内、外部評価の一環として'02年度には機械系並びに材料系、'03年度には環境系並びに建築系、'05年度には電気系、'08年度には化学系の教育プログラムに対して『日本技術者教育認定機構：JABEE』の認定を受け、加えて'12年度に日本高等教育評価機構が実施した大学機関別認証評価の判定結果として、「金沢工業大学は、公益財団法人日本高等教育評価機構が定める大学評価基準を満たしている。」と認定されました。これからは、全ての教育プログラムのJABEE認定を目指すと共に、日本経営品質賞等の視点やメジャーの異なる外部評価を受ける予定であります。そして、'03年度に文部科学省が実施いたしました『特色ある大学教育支援プログラム：GP』に「工学設計教育とその課外活動環境」が採択されたことを受けて、更に本学教育改革を推進させるために、'96年並びに'02～'13年に引き続いて在学生・卒業生・教職員の各位に対して10種類のアンケートを依頼致しました。

通常、この種のアンケートは自己点検・自己評価の下に行われる訳ですが、本学では第三者である(有)アイ・ポイントにアンケートの設計から調査結果の評価並びに分析に至るまで全てを依頼いたしましたので、より客観性のある報告書になり得たものと考えております。

本アンケートはこれからも継続して実施すると共に、今回得られた結果を踏まえて本学の工学教育・技術者教育へフィードバックしながら、卒業生・修了生の質的保証や在学生の更なる満足度の向上に資することに致したく思っておりますので、忌憚のないご意見をお寄せいただければ幸いです。

最後になりましたが、本アンケートにご協力いただきました関係各位に対しまして、衷心より感謝申し上げる次第であります。

目次

※本報告書(抜粋)のページ番号は、報告書(全文)の目次に対応しているため、連動しておりません。

<1>	本調査の全体像	1
<2>	在学生、卒業・修了生の基本属性	7
<3>	在学中の目的・目標意識	11
<4>	大学に対する満足度	17
<5>	授業・学習支援の評価	35
<6>	大学院進学に関して	65
<7>	教職員と大学の改善取り組み状況の評価	75
<8>	KIT-IDEALSに関して	83
<9>	卒業時の能力	93
<10>	卒業・修了生アンケートの分析結果	99
<11>	新入生アンケートの分析結果	109
<12>	教職員アンケートの分析結果	127
<13>	全体のまとめ	141
<14>	フリーアンサー集	165
<15>	調査票見本	293

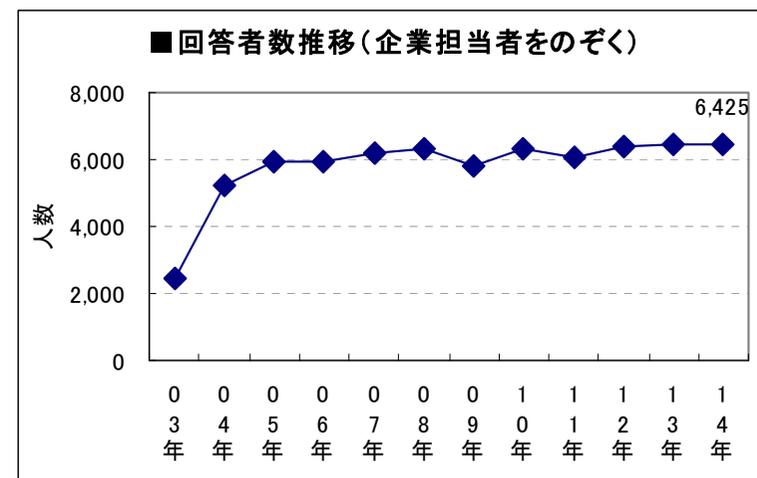
<1-1> 調査の目的と概略

■ 調査目的

- 本調査は金沢工業大学(以下、KIT)を取り囲む関係者の中から、「在学生(新入生～卒業・修了直前)」「卒業・修了生」「教員」「職員」を対象として、KITに対する評価や満足度を聞き、過去の回答と比較しながら現状を把握することを主目的としている。
- そして、上記の各層が「KITをどのように見ているか?」「各々の見方にはどのような違いがあるのか?」「以前とどのように変わっているのか?」といった基礎的な情報を把握し、今後の学校運営、広報の検討に活用できるようとりまとめている。
- 本調査は2003年より実施しており、今回が12回目となる。同一内容で比較できる設問に関しては時系列変化で分析している。

■ 調査方法

調査時期	<ul style="list-style-type: none"> ・ 2014年2月～4月に実施。 ・ 2005年の調査より、在学生への調査期間を年度当初(4月)から年度末(2月)に変更している。
調査方法	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「在学生」は学内で配布、「教職員」はメールで配信し、回収ボックスで回収した。「卒業・修了生」は郵送によって配布、回収した。 ・ すべて『無記名式』とした。
回収数	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今回の全回収数は6,425サンプルであった。 ・ 属性別の回収数は下記の通り。
調査主体	学校法人 金沢工業大学
集計分析	(有)アイ・ポイント



■ 年度別回収数

対象者	調査時点での属性	03年 回収数	04年 回収数	05年 回収数	06年 回収数	07年 回収数	08年 回収数	09年 回収数	10年 回収数	11年 回収数	12年 回収数	13年 回収数	14年 回収数	学科体制・ 備考
新入生	入学直後	724	1,672	1,610	1,747	1,642	1,652	1,568	1,723	1,607	1,745	1,886	1,614	新新学科 (4学部、 14学科)
1年次生	1年次終了時点	106	1,007	1,379	1,364	1,505	1,461	1,369	1,293	1,411	1,299	1,562	1,587	
2年次生	2年次終了時点	49	792	1,533	1,313	1,267	1,455	1,146	1,185	1,022	1,321	1,059	1,337	
3年次生	3年次終了時点	106	449	441	599	768	793	643	760	781	756	741	769	新学科 (4学部、 14学科)
卒業・修了直前	卒業・修了直前	976	914	610	549	669	664	711	960	808	873	829	790	
卒業・修了生	卒業・修了生	163	107	97	80	90	57	110	137	149	146	144	104	
教員	在職中の教員	143	133	151	157	136	118	118	112	115	108	118	131	—
職員	在職中の職員	187	131	134	153	144	109	155	148	202	139	143	93	—
企業担当者	卒業生が就職した企業	—	—	485	—	—	660	—	—	686	—	—	秋に予定	—
合計(企業除く)		2,454	5,205	5,955	5,962	6,221	6,309	5,820	6,318	6,095	6,387	6,482	6,425	

※2014年より、「卒業・修了直前」は「卒業直前」と「修了直前」に、「卒業・修了生」は「卒業生」と「修了生」に分けて調査票を作成したが、件数としては合わせた数で表示している。

■集計に関して

分野	注意点
無回答に関して	<ul style="list-style-type: none"> ・ 無回答はすべて集計から除外した。 ・ 割合を見る分析、加重平均を見る分析ともに、無回答は除外して集計した。
加重平均に関して	<ul style="list-style-type: none"> ・ 各調査項目を属性毎に比較するため、加重平均値を多く活用している。 ・ 今回の調査では、選択肢を「そう思う～どちらかといえばそう思う～どちらかといえばそう思わない～そう思わない」などのように4択式で構成した。なお、「あてはまらない、分からない」は無回答として処理した。 ・ 加重平均は上記の選択肢に、+10点、+5点、-5点、-10点を掛けて回答者数で除して算出した。従って、最高点が10点で最低点がマイナス10点となる。 ・ 「あてはまらない、分からない」「無回答」は回答者数に含めていない。
グラフに関して	<ul style="list-style-type: none"> ・ 折れ線グラフは主に時系列変化を見る際に利用されるが、この報告書では加重平均を属性毎に比較する際に本来の棒グラフでは見にくくなるため、折れ線グラフで表現しているものもある。

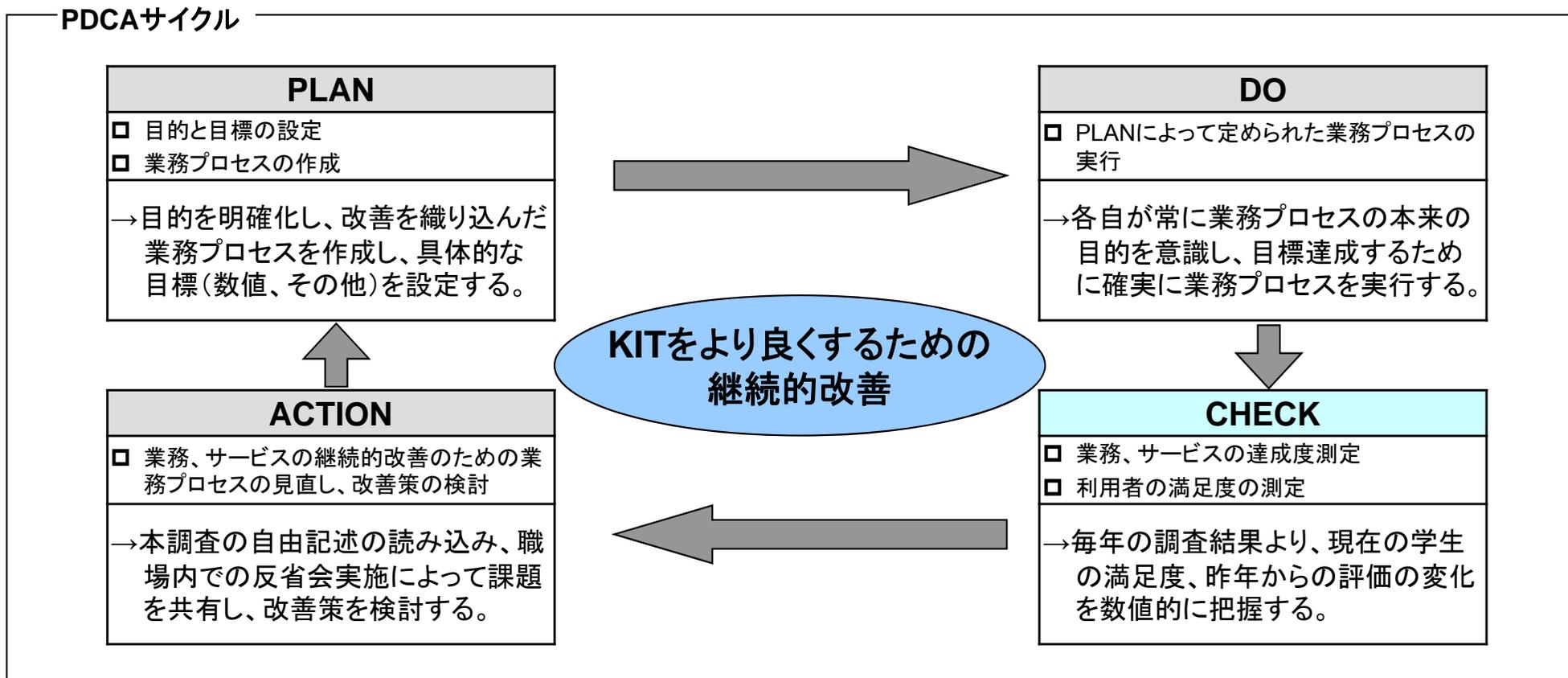
■回収率

属性	配布数	回収数	回収率
新入生	1,646	1,614	98.1%
1年次生	1,871	1,587	84.8%
2年次生	1,631	1,337	82.0%
3年次生	1,562	769	49.2%
卒・修直前	1,693	790	46.7%
在學生計	8,403	6,097	72.6%
卒業・修了生	1,393	104	7.5%
教員	351	131	37.3%
職員	282	93	33.0%
全体計	10,429	6,425	61.6%

<1-2> 調査の位置づけ

■ PDCAサイクルの中での本報告書の位置づけ

本報告書は前出の目的に基づいて作成されているが、具体的なPDCAサイクルの中では下記のように位置づけられる。



- 今回の調査によって得られた「KIT関係者のKITに対する評価、満足度」は、上記「PDCAサイクル」の中の「CHECKステップ」に相当する。
- 「PDCAサイクル」は一時的なものではなく、継続的な改善を目指すものである。従って「他の施設や機能と比較して評価がどうであったか？」という相対的な結果を見るよりも、「昨年と比較して評価がどう変化したのか?」「自らが設定した目標は達成したのか?」といった変化を見る方が、よりPDCAのサイクルに則した見方ができるものと思われる。
- また、今後の改善策を検討するためには「自由記述」が有効であり、多くのヒントが含まれているものと思われる。
- 本調査企画は昨年から改善を重ねて内容を見直しているため、質問方法、選択肢などが異なる部分もあるが、今後はこれらの違いをできるだけ少なくし、より比較検討が行いやすい内容にしていく予定である。

<2-1> 在学生・卒業生の基本属性

■ 所属学部、出身高校の課程、入学に至った入試

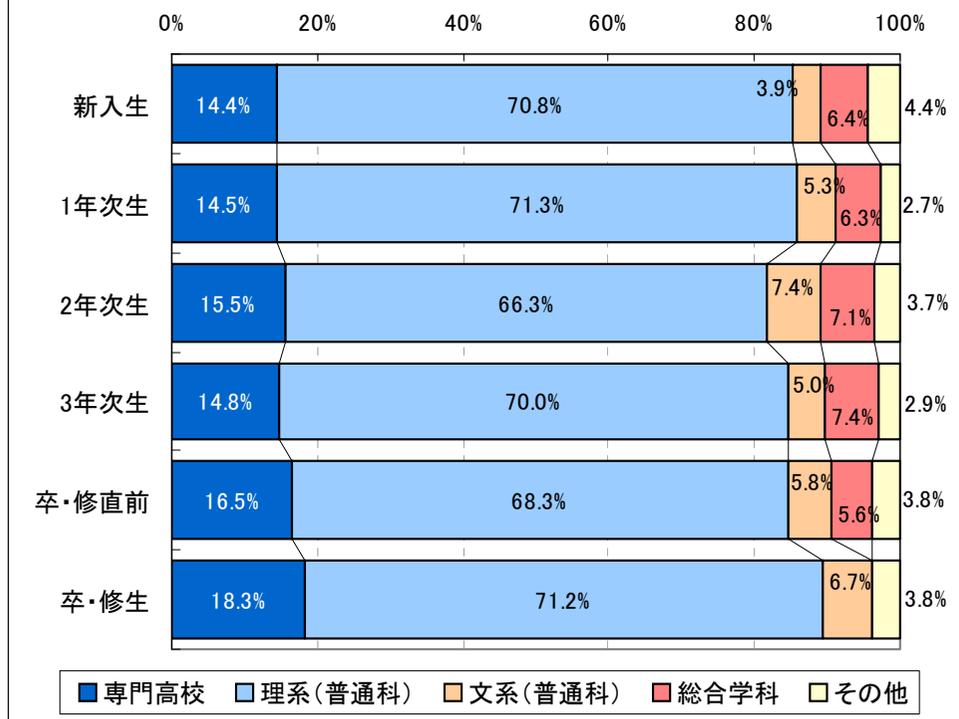
■ 在学生・卒業生の所属学部

(単位:人)

属性	工学部	情報フロンティア学部	環境・建築学部	バイオ・化学部	無回答	全体
新入生	859	267	334	153	1	1,614
1年次生	861	247	287	189	3	1,587
2年次生	666	232	263	172	4	1,337

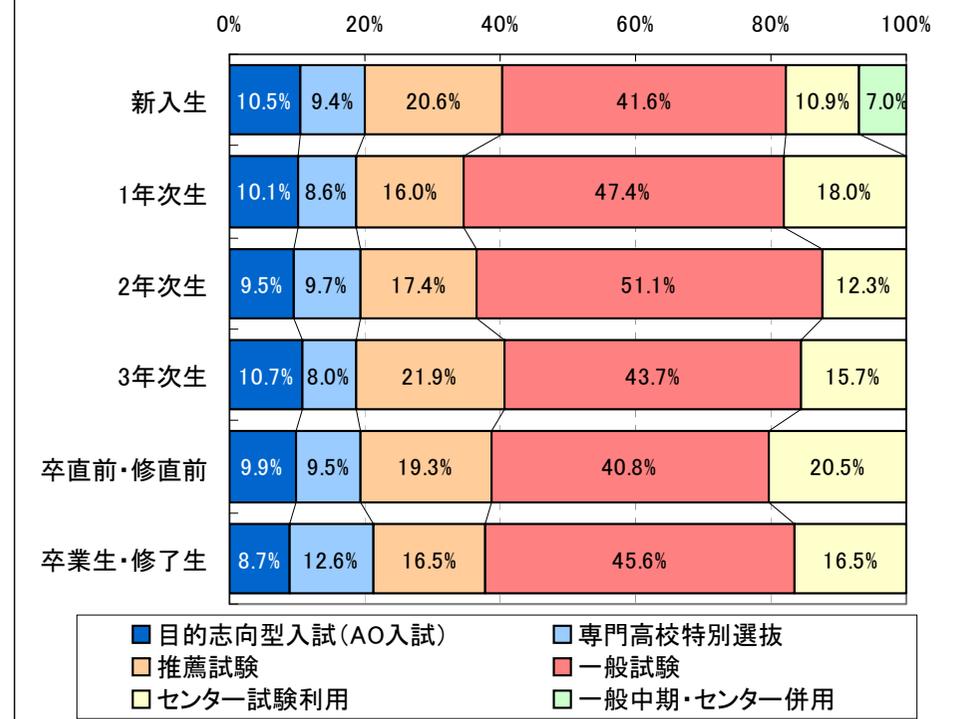
属性	工学部	情報学部	環境・建築学部	バイオ・化学部	大学院	無回答	全体
3年次生	293	218	160	95	—	3	769
卒・修直前	311	218	102	101	57	1	790
卒・修	36	19	10	15	23	1	104

■ 出身高校の課程



※「総合学科」は「修了直前」「卒業生」「修了生」には聞いていない。

■ 入学に至った入試



※「推薦試験」は「修了直前」と「卒業生」では「推薦試験・女子特別選抜」となっている。

※「一般中期・センター併用」は「新入生」のみ対象となっている。

■ 在学生の出身地域

■ 在学生の出身地域

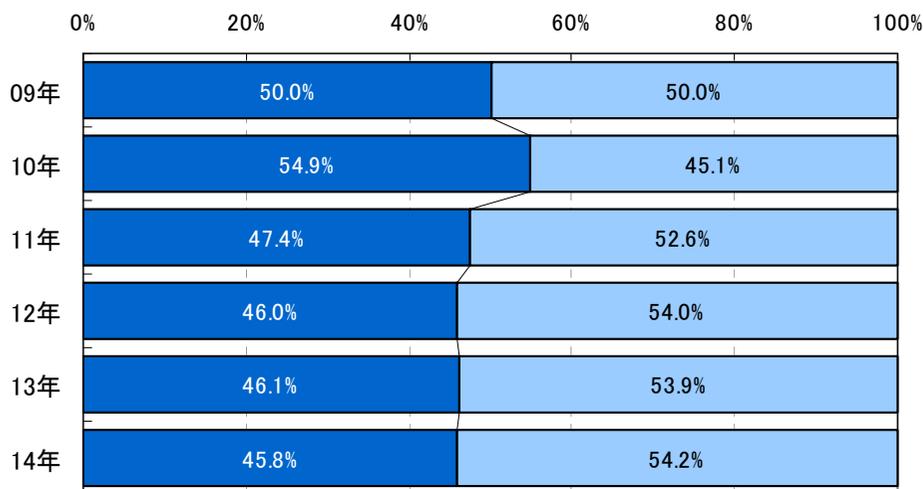
	北海道・東北	関東	甲信越	北陸	東海	関西	中国・四国	九州・沖縄	全体
1年次生	74	79	227	745	228	133	51	40	1,577
	4.7%	5.0%	14.4%	47.2%	14.5%	8.4%	3.2%	2.5%	100.0%
2年次生	58	55	201	608	206	135	49	19	1,331
	4.4%	4.1%	15.1%	45.7%	15.5%	10.1%	3.7%	1.4%	100.0%
3年次生	28	22	112	368	113	77	37	9	766
	3.7%	2.9%	14.6%	48.0%	14.8%	10.1%	4.8%	1.2%	100.0%
卒・修直前	31	23	128	378	93	79	37	15	784
	4.0%	2.9%	16.3%	48.2%	11.9%	10.1%	4.7%	1.9%	100.0%
全体	191	179	668	2,099	640	424	174	83	4,458
	4.3%	4.0%	15.0%	47.1%	14.4%	9.5%	3.9%	1.9%	100.0%

<3-1>在学中の目的・目標意識

■現在の目的・目標意識

- 「大学生活を送る上で何らかの目的・目標を持っていますか？」という質問に対しては、「目標あり」が45.8%、「目標なし」が54.2%であり、「目標なし」の方が多かった。
- 以前と比較するとほとんど変化は見られないが、「目標あり」の割合はわずかに前回を下回っており、これまでで最も低かった。
- 学年別・年度別のグラフで2014年の学年別比較を行うと、「新入生」では「目標あり」が77.5%と最も多く、「3年次生」「1年次生」と続いており、「卒・修直前」が最も低かった。
- 学年別の年度別推移を見たところ、「新入生」は「目標あり」が77.5%と、これまでで最も高かったが、その他の学年では高いものは見られず、「卒・修直前」と「卒・修生」は継続的に低下してこれまでで最も低く、「1年次生」「2年次生」は横這い、「3年次生」は前回よりわずかに高いという状況であった。

■現在の大学生活での目的・目標意識（在学生）

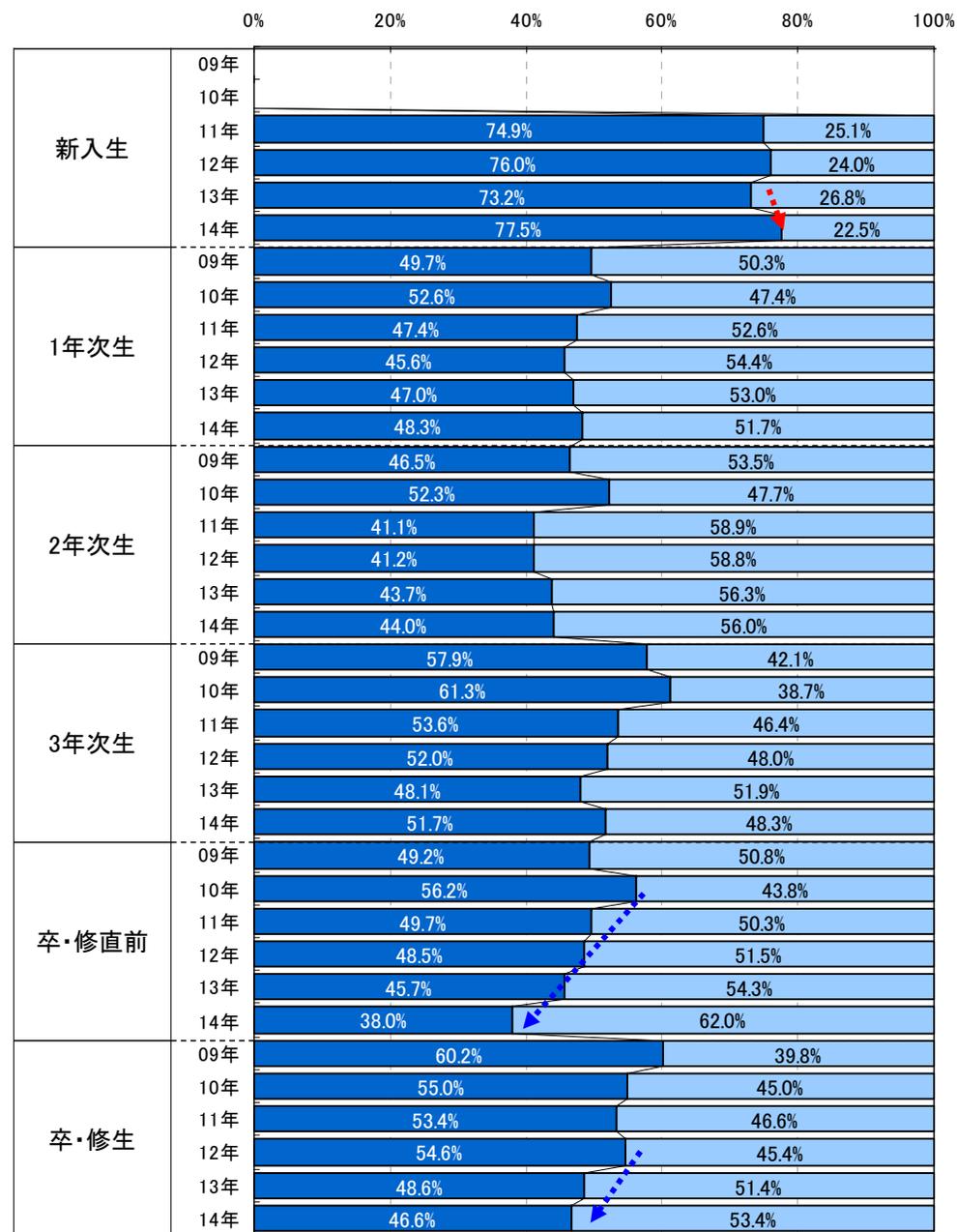


※この質問は「新入生」「在学生」「卒業生」に聞いているが、上記グラフは「在学生(大学院を含む)」のみを対象として比較している。

■ 目標あり

■ 目標なし

■現在の大学生活での目的・目標意識
学年別・年度別比較

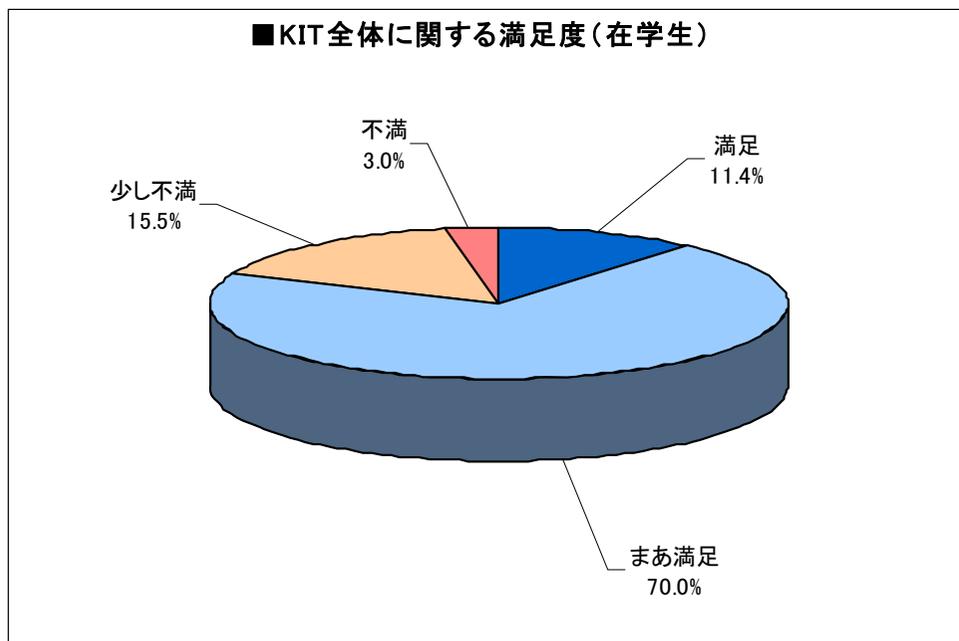


※上記グラフでは、「新入生」には今回から「大学に入ってこれがやりたいという目的・目標を持っていますか？」と聞いている。

<4-1> KITの総合満足度

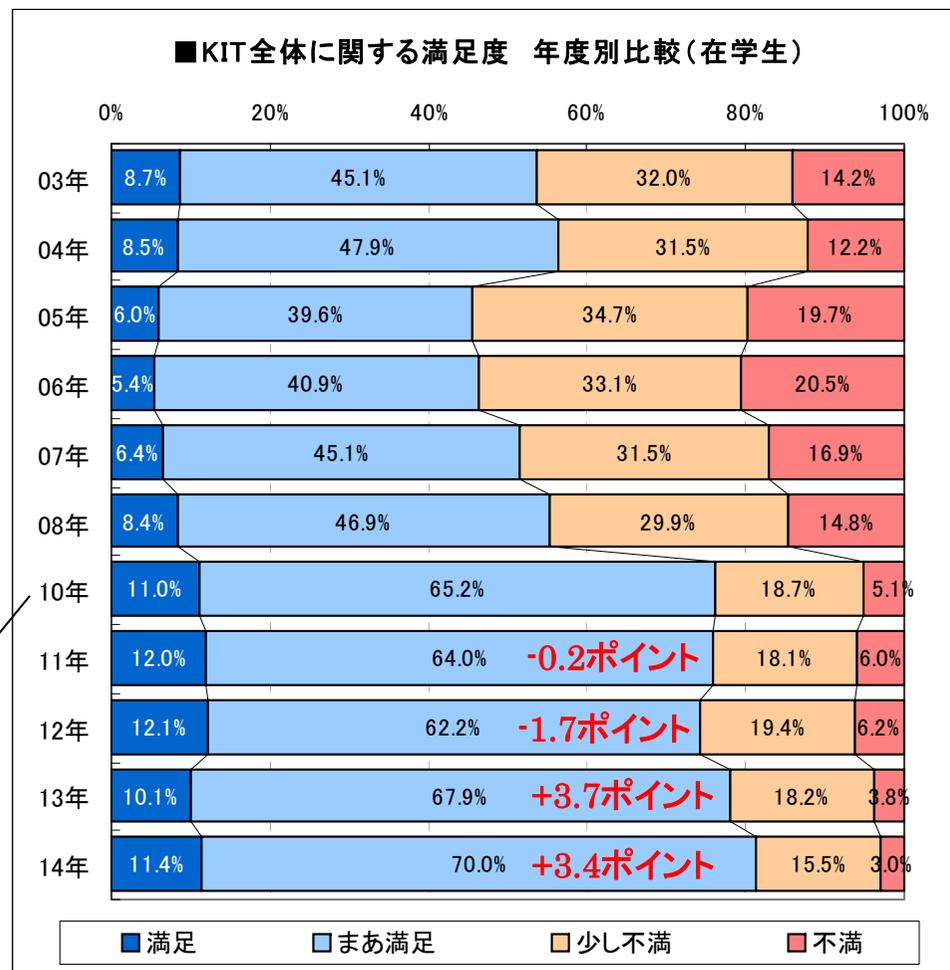
■KIT全体に関する満足度

- 「KIT全体に関する満足度」に対しては、「満足」が11.4%、「まあ満足」が70.0%であり、合計すると満足しているという意見は81.4%であった。
- KITの総合満足度については、08年までは「今のKITに満足していますか?」と聞いており、09年には質問自体を削除している。そして、10年からは「KIT全体に関する満足度」として「満足」～「不満」を選ぶ聞き方になっている。
- 以前の聞き方では、05年から08年にかけて満足度がわずかずつ増加していた。10年に聞き方が変わった影響が出たと思われるが、一気に7割以上が満足しているという回答になっており、12年まではほぼ横這いとなっていた。
- 12年以降は満足度の向上が続いており、今回は前回は3.4ポイント上回って、これまでで最も高い満足度となっていた。



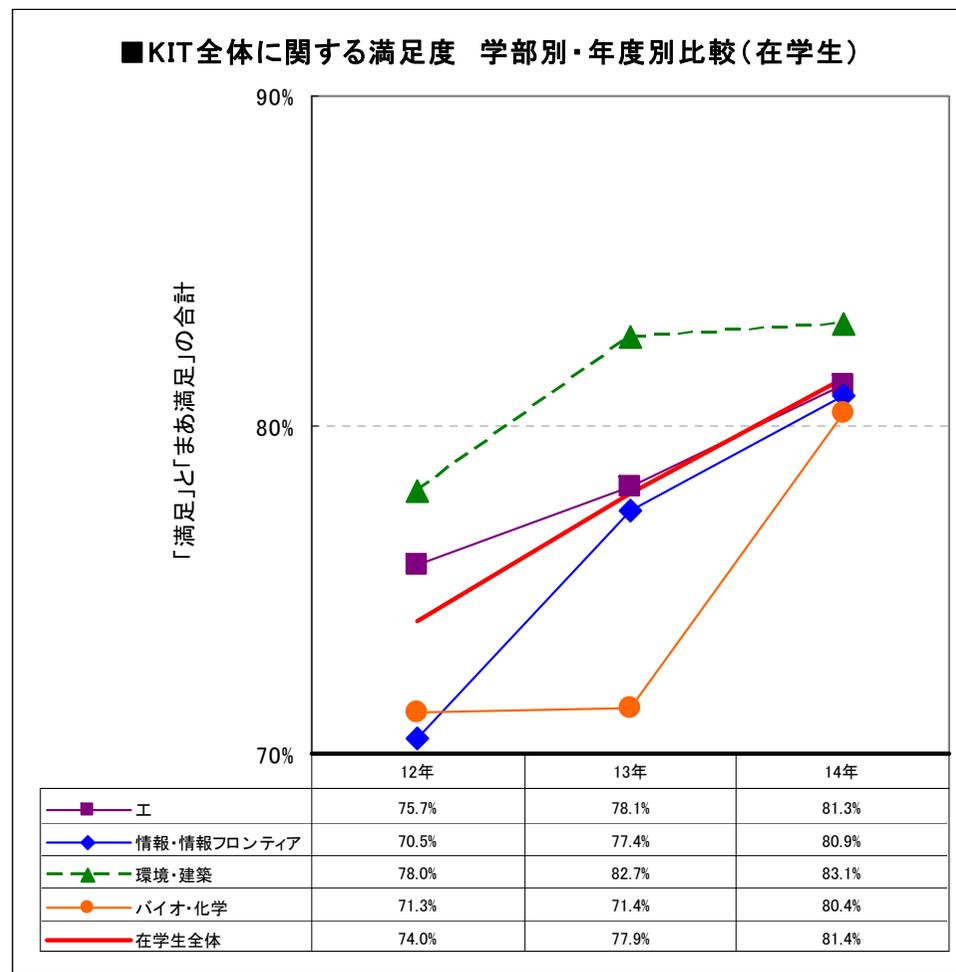
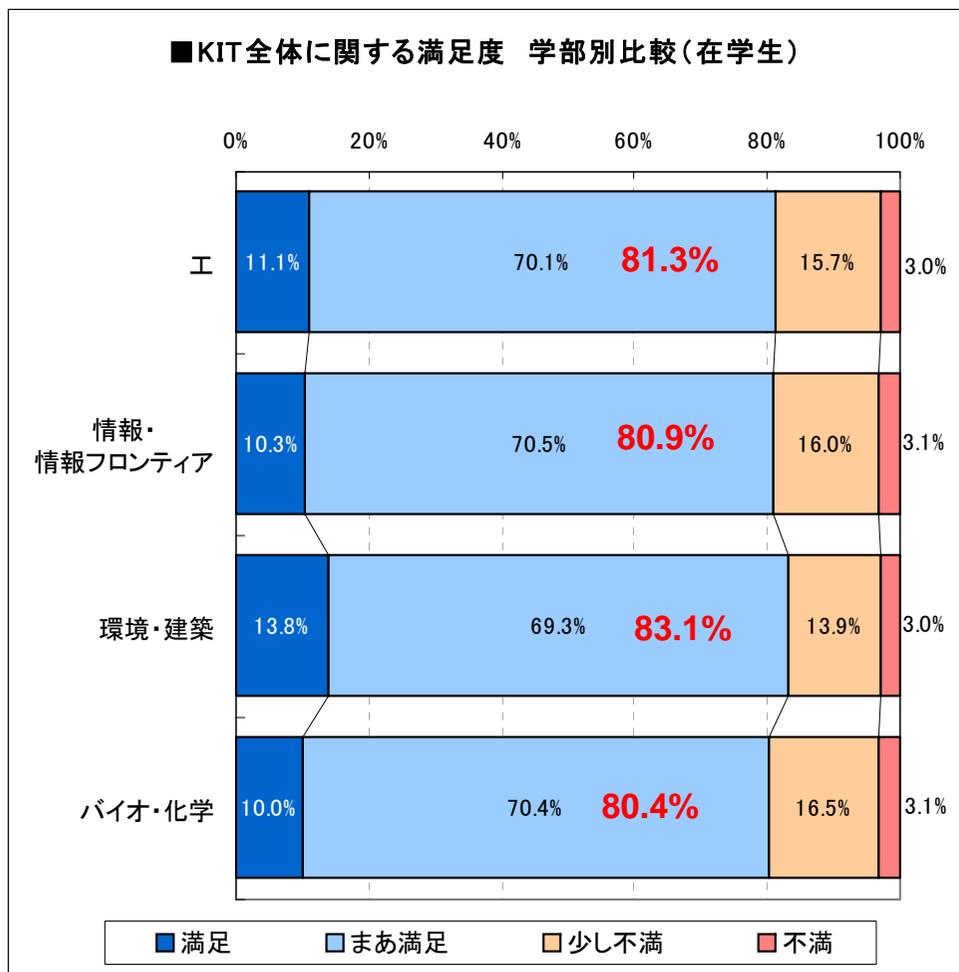
満足している(81.4%) > 不満を持っている(18.5%)

10年から聞き方が
変わっている



■学部別比較

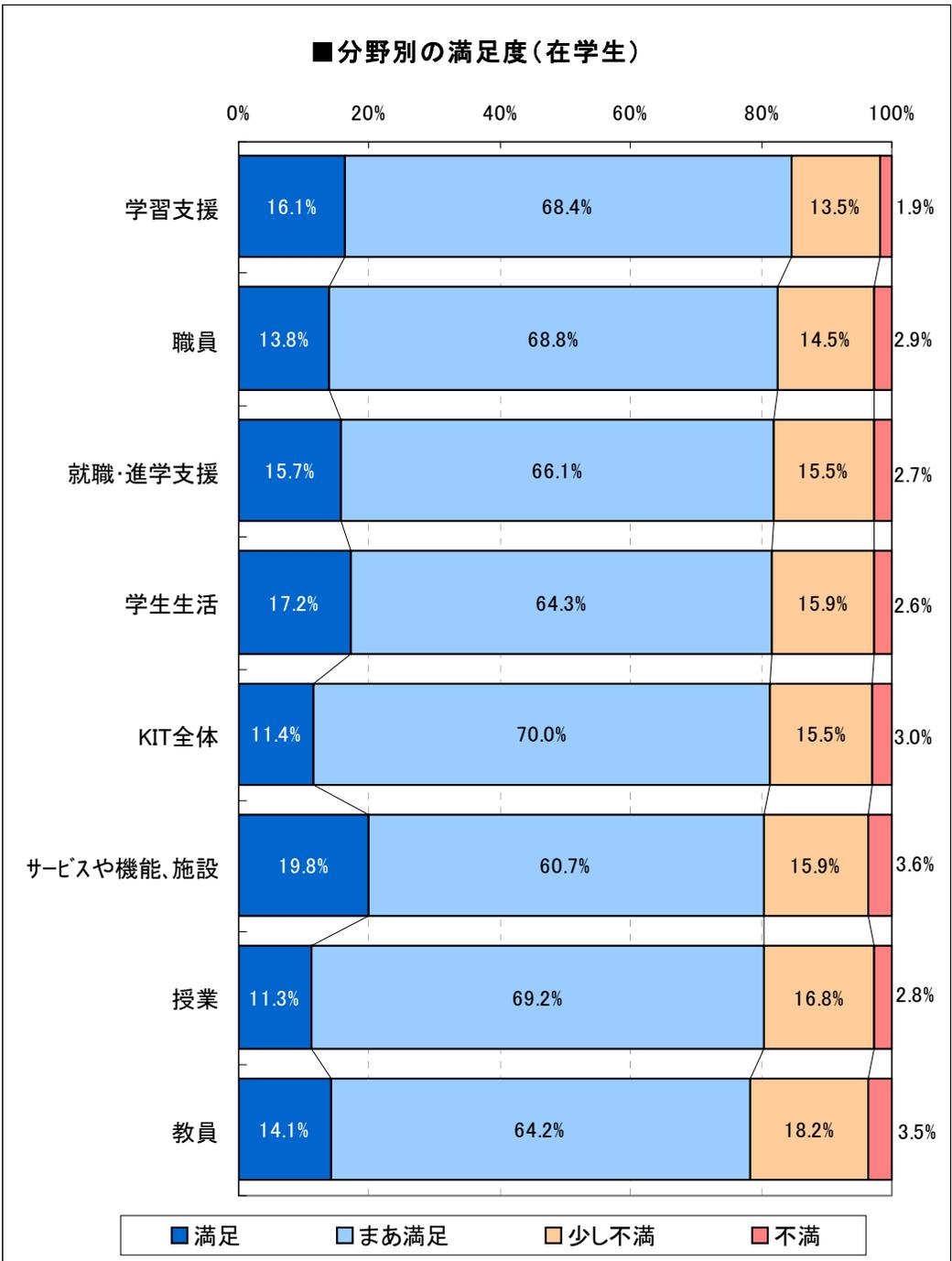
- 学部別の比較では、学部構成が異なる「修直前」を除いて4学部で集計を行っている。
- 「満足」と「まあ満足」の合計で比較すると、「環境・建築」が83.1%と最も高かった。全体的に学部による差は大きくはなかったが、「工」が81.3%、「情報・情報フロンティア」が80.9%、「バイオ・化学」が80.4%と続いていた。
- 全学年が4学部制となった2012年以降、学部別・年度別の比較を行っている。これを見ると、全体的な傾向として12年と13年には学部による差が見られたが、今回は非常に差が小さくなっていった。
- いずれの学部も12年から継続的に満足度が上がってきていた。「工」と「情報・情報フロンティア」の満足度は年々段階的に向上していたが、「環境・建築」と「バイオ・化学」では横這いと急上昇という局面が見られた。



<4-2>分野別の満足度

■分野別満足度

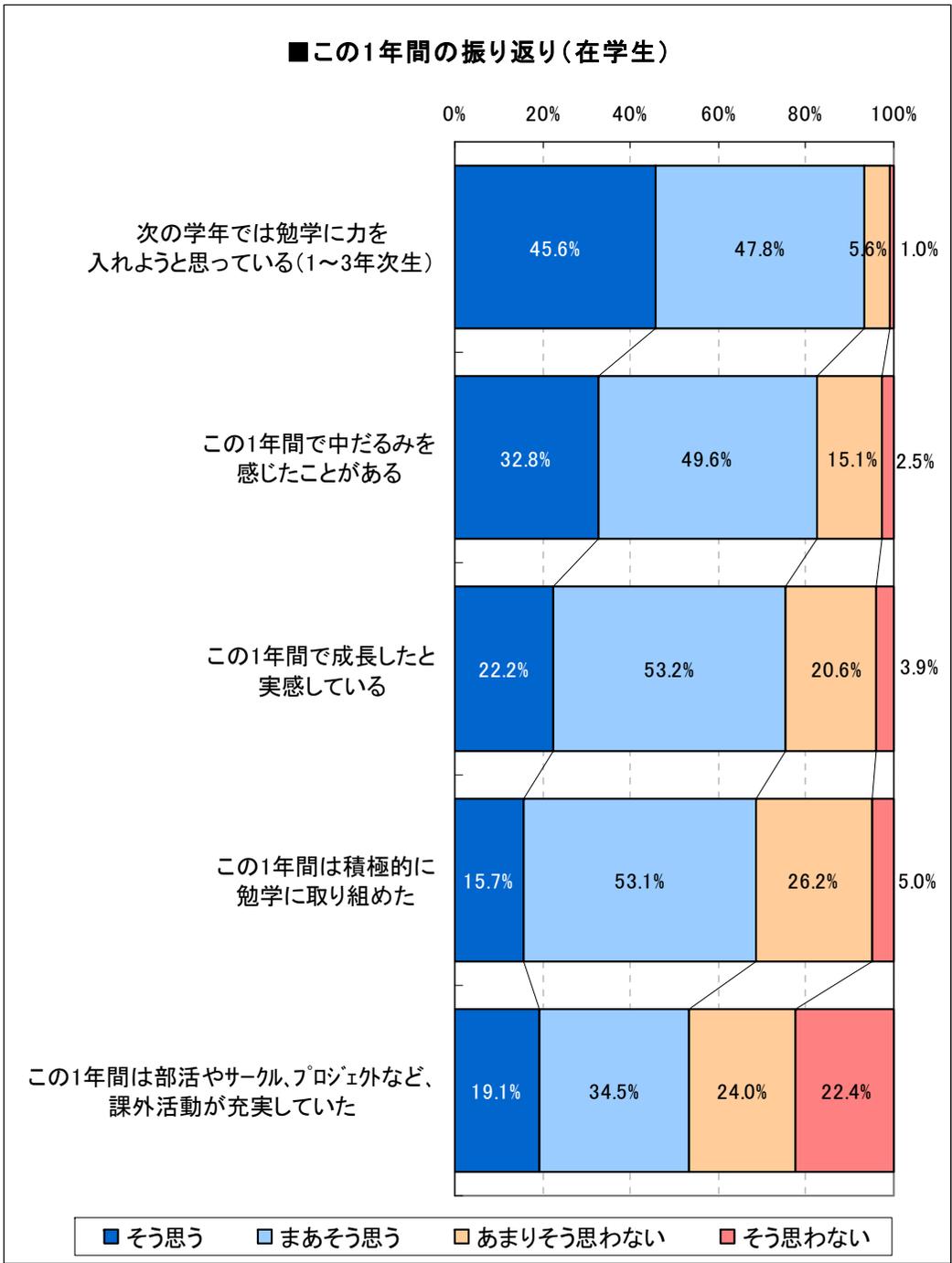
- 在学生の分野別の満足度を見たところ、最も満足度が高かった分野は「学習支援」であり、「満足」と「まあ満足」を合わせた肯定的な回答は84.5%であった。
- 次いで「職員」が82.6%、「就職・進学支援」が81.8%と続いていた。
- 一方、最も満足度が低かった分野は「教員」で、満足している割合は78.3%であり、この項目だけが8割に満たなかった。続いて低かったのは「授業」と「サービスや機能、施設」で、満足度は80.5%であった。しかし、「サービスや機能、施設」については「満足」という回答だけ見ると19.8%と全体の中で最も高く、一部の学生が強く満足している様子がうかがえる。



<4-3>この1年間の振り返り

■この1年間の振り返り

- 「この1年間の振り返り」については5つの質問をしているが、1年次生から3年次生のみ聞いた「次の学年では勉学に力を入れようと思っていますか」では「そう思う」が45.6%と半数近くを占めており、「まあそう思う」と合わせると肯定的な意見が93.4%となり、次の学年に向けての意気込みが感じられる回答となっていた。
- 上記に対して「この1年間で中だるみを感じたことがある」では82.4%が肯定的な意見であり、やや反省が感じられる回答となっていた。ただし、「この1年間で成長したと実感している」では75.4%、「この1年間は積極的に勉学に取り組めた」では68.8%が肯定的な意見であり、7割前後の学生は充実しているという回答であり、複雑な胸中がうかがえた。
- 課外活動に関しては、「この1年間は部活やサークル、プロジェクトなど、課外活動が充実していた」という問いに対して53.6%が肯定的な回答をしており、半数近い46.4%がこの点では充実していなかったと答えていた。また、この質問では「そう思わない」という回答が22.4%と多い点特徴的であった。

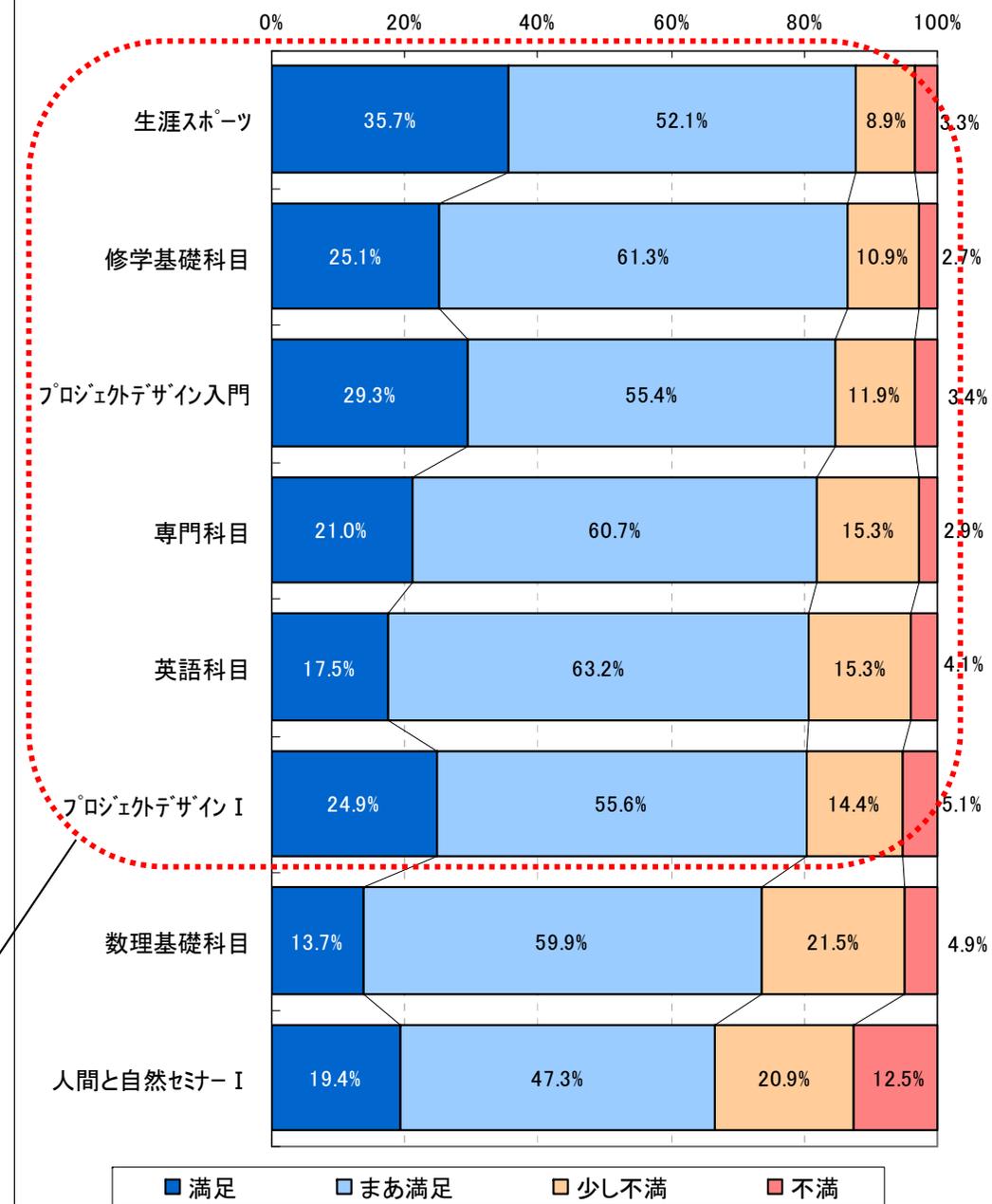


<5-1> 授業の評価

■ 授業の評価 1年次生

- 授業の構成が学年によって異なるため、前回の調査より学年別に集計を行っている。
- 「1年次生」では全体的に満足度が高く、「満足」と「まあ満足」の合計が8割に満たなかったのは「数理基礎科目」(73.6%)と「人間と自然セミナー I」(66.7%)の2科目だけであった。この2科目の中でも「人間と自然セミナー I」に関しては「満足」が19.4%、「不満」が12.5%と両極端の意見が多めであるという特徴が見られた。
- 一方、最も満足度が高かったのは「生涯スポーツ」であり、肯定的な意見が87.8%であった。次いで「修学基礎科目」が86.4%、「プロジェクトデザイン入門」が84.7%と続いていた。
- 「満足」という回答だけで見ると、「生涯スポーツ」(35.7%)に次いで「プロジェクトデザイン入門」(29.3%)、「プロジェクトデザイン I」(24.9%)が続いており、プロジェクトデザイン系の科目で強い満足感を感じている学生が多いようであった。

■ 授業の満足度(1年次生)

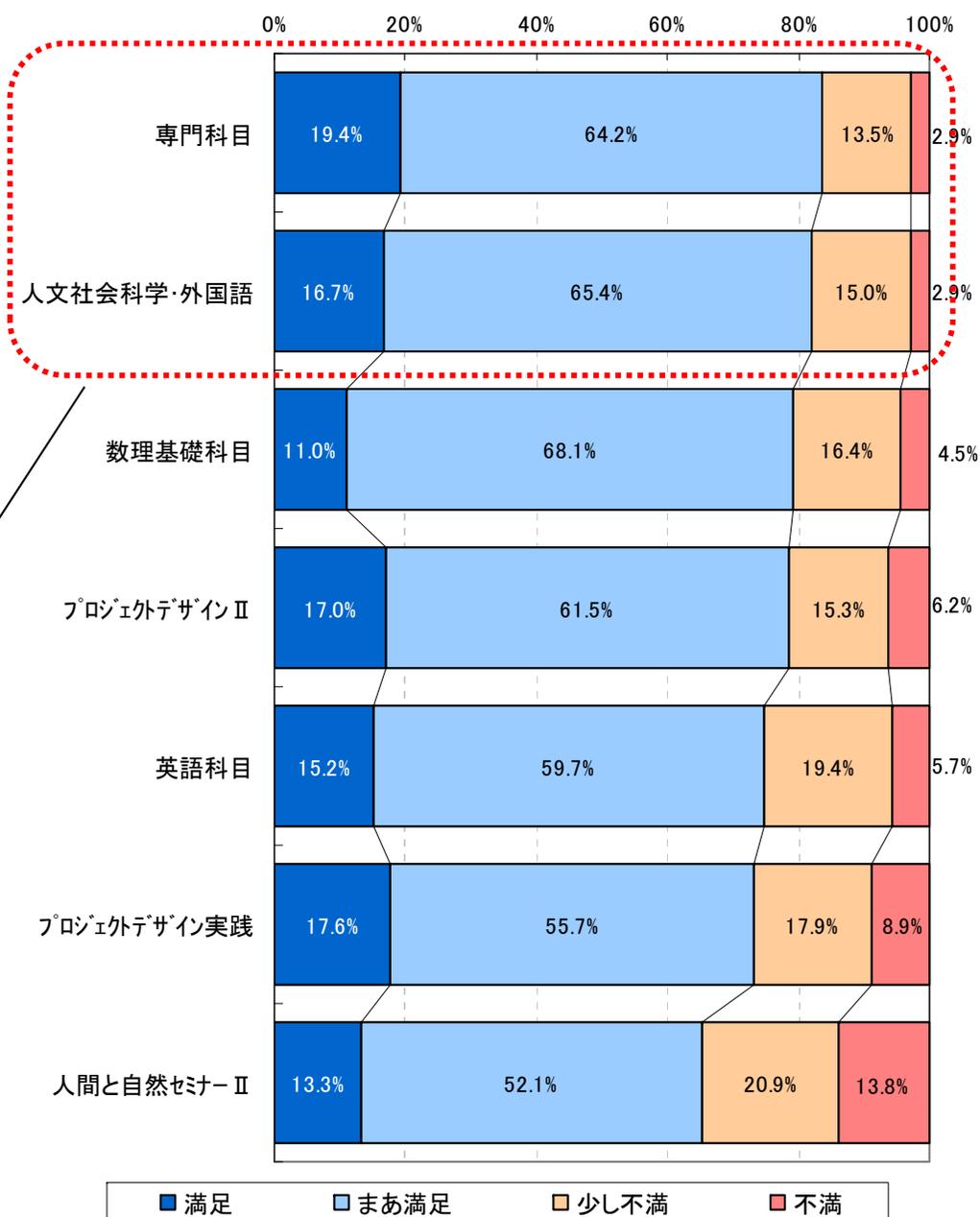


■授業の評価 2年次生

- 「2年次生」で「満足」と「まあ満足」の合計が8割を超えていたのは「専門科目」(83.6%)と「人文社会科学・外国語」(82.1%)の2科目であった。「数理基礎科目」は79.1%と、わずかに8割に届いていなかった。
- 次いで「プロジェクトデザインⅡ」が78.5%、「英語科目」が74.9%と続いていた。
- 一方、満足度が最も低かったのは「人間と自然セミナーⅡ」であり、満足している肯定的な回答は65.4%であり、他の科目と比べると少し差が見られた。

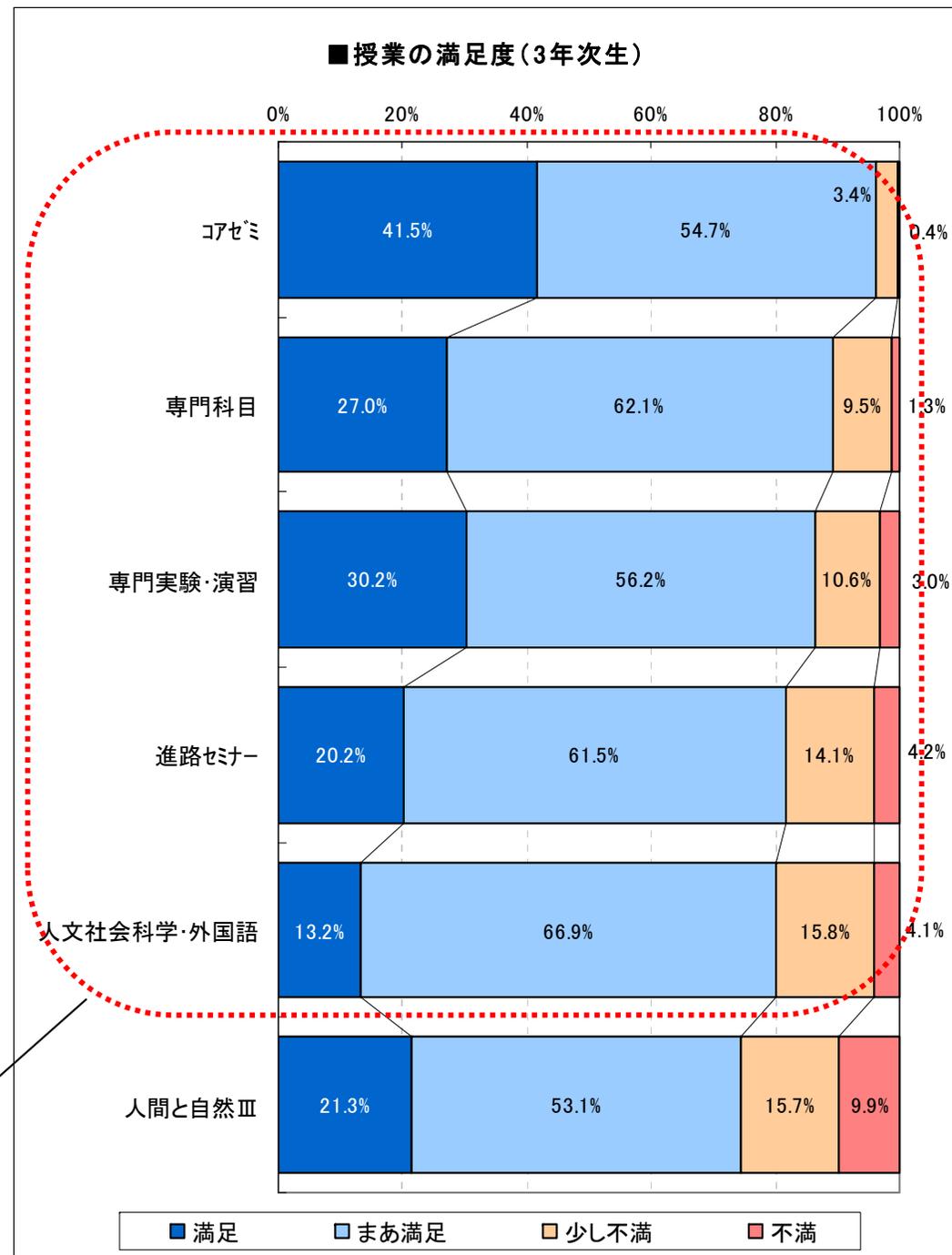
満足している層が
8割以上

■授業の満足度(2年次生)



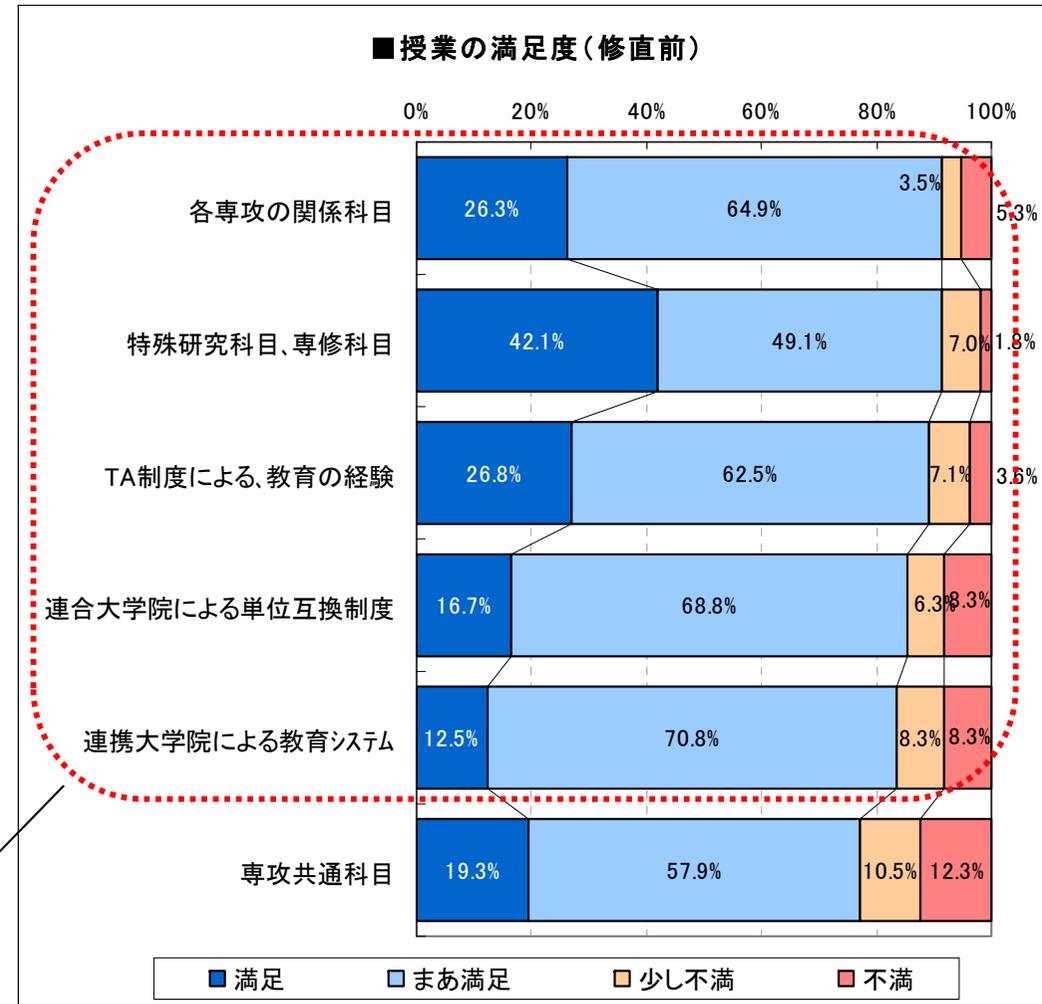
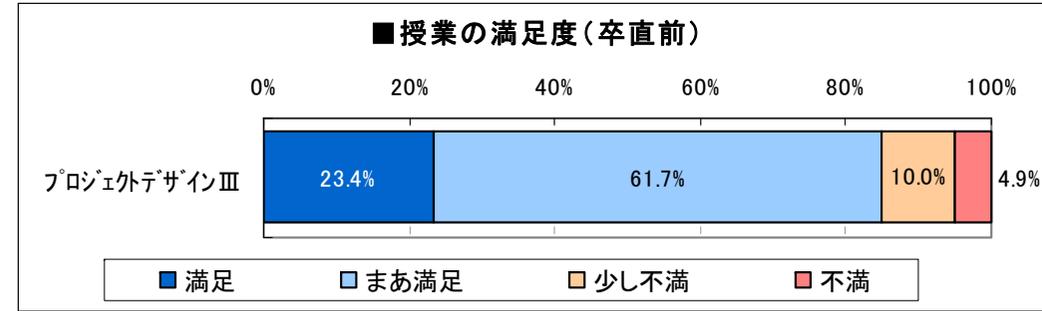
■授業の評価 3年次生

- 「3年次生」は6つの科目を挙げているが、5つまでは満足している割合が8割を超えており、満足度の高さがうかがえる結果であった。
- 最も満足度が高かったのは「コアゼミ」であり、「満足」が41.5%と非常に多く、「まあ満足」と合わせると96.2%が満足していた。
- 次いで「専門科目」が89.1%、「専門実験・演習」が86.4%であったが、「専門実験・演習」では「満足」という回答が30.2%を占めていた。
- 一方、最も満足度が低かったのは「人間と自然Ⅲ」であったが、満足している割合は74.4%と決して低いものではなく、「満足」という回答だけを見ると21.3%となっていた。



■授業の評価 卒直前・修直前

- 「卒直前」と「修直前」は前回まで同じ科目を提示して聞いていたが、今回から別の構成とした。
- 「卒直前」には「プロジェクトデザインⅢ」の満足度だけを聞いているが、満足している割合は85.1%であり、満足度は高かった。
- 「修直前」には6つの科目の満足度を聞いているが、5つまでは満足している割合が8割を超えており、全体的に満足度は高いと言える。
- 「修直前」で最も満足度が高かったのは「各専攻の関係科目」と「特殊研究科目、専修科目」であったが、「満足」という回答だけを見ると「特殊研究科目、専修科目」の方が高く42.1%を占めており、満足度は非常に高いと言える。
- 一方、最も満足度が低かったのは「専攻共通科目」であったが、この科目に関しても満足している割合は77.2%であり、決して満足度が低いというわけではなかった。

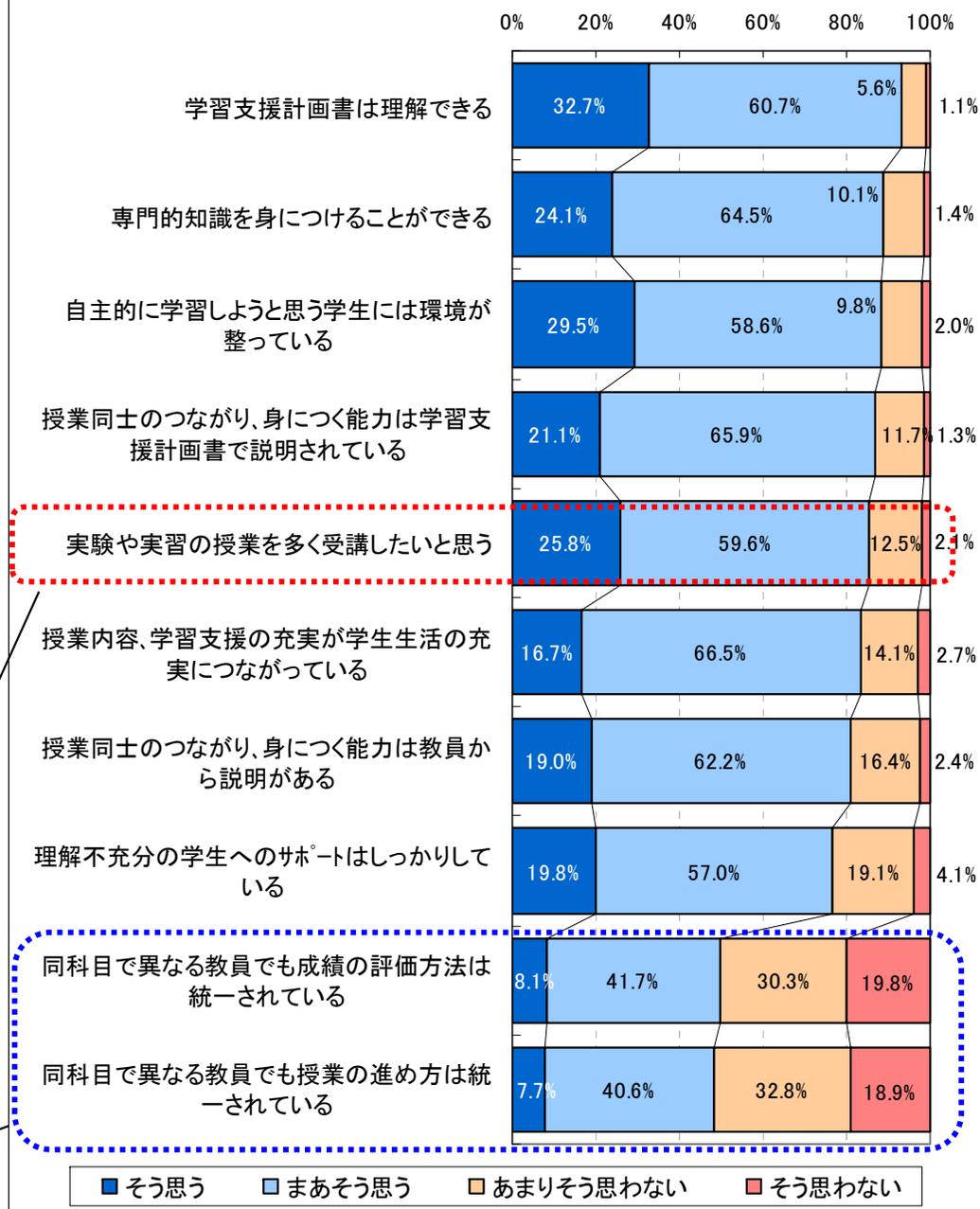


<5-2> 授業の仕組みの評価

■ 授業の仕組みの評価

- 授業の仕組みの評価では、現状の評価を聞く質問と要望を聞く質問が混在しているが、要望を聞く質問である「実験や実習の授業を多く受講したいと思う」では85.4%が肯定的な意見であり、実験・実習に対する強い要望が感じられた。
- 上記以外は現状の評価を聞くものであるが、最も評価が高かったのは「学習支援計画書は理解できる」であり、93.4%が肯定的な意見であった。
- 次いで「専門的知識を身につけることができる」では88.6%、「自主的に学習しようと思う学生には環境が整っている」では88.1%が肯定的な意見であった。
- 全体的に評価が高かったが、肯定的な意見が8割以下だったのは「理解不十分の学生へのサポートはしっかりしている」(76.8%)、「同科目で異なる教員でも成績の評価方法は統一されている」(49.8%)、「同科目で異なる教員でも授業の進め方は統一されている」(48.3%)の3項目であり、特に「同科目で異なる教員の対応」に関する2項目では否定的な意見が半数以上を占めており、大きな不満が感じられた。

■ 授業の仕組みの評価 (在学生)



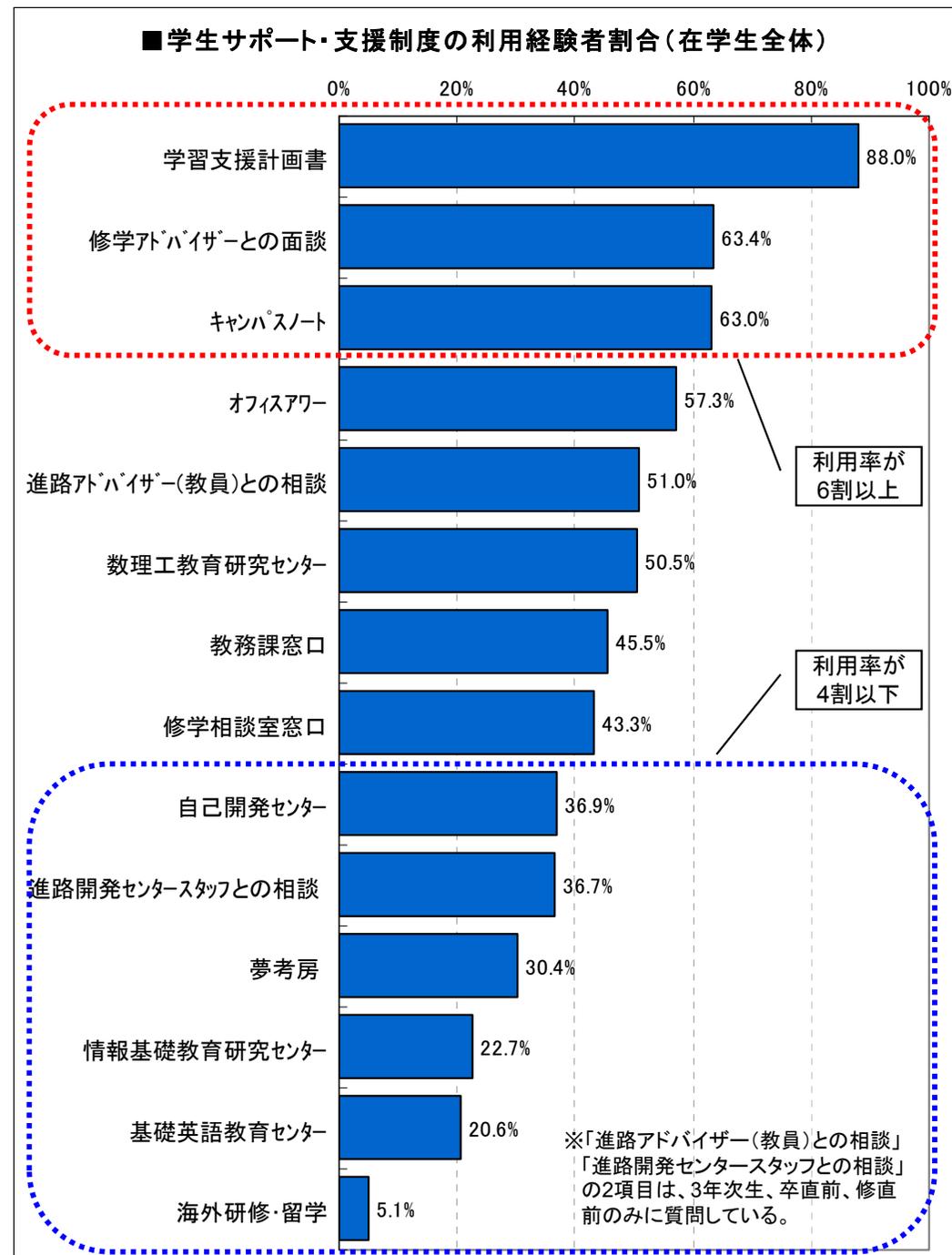
要望を聞く質問

「同科目で異なる教員」の対応に大きな不満がある

<5-3> 学生サポート・支援制度の利用状況

■ 学生サポート・支援制度の利用経験者割合

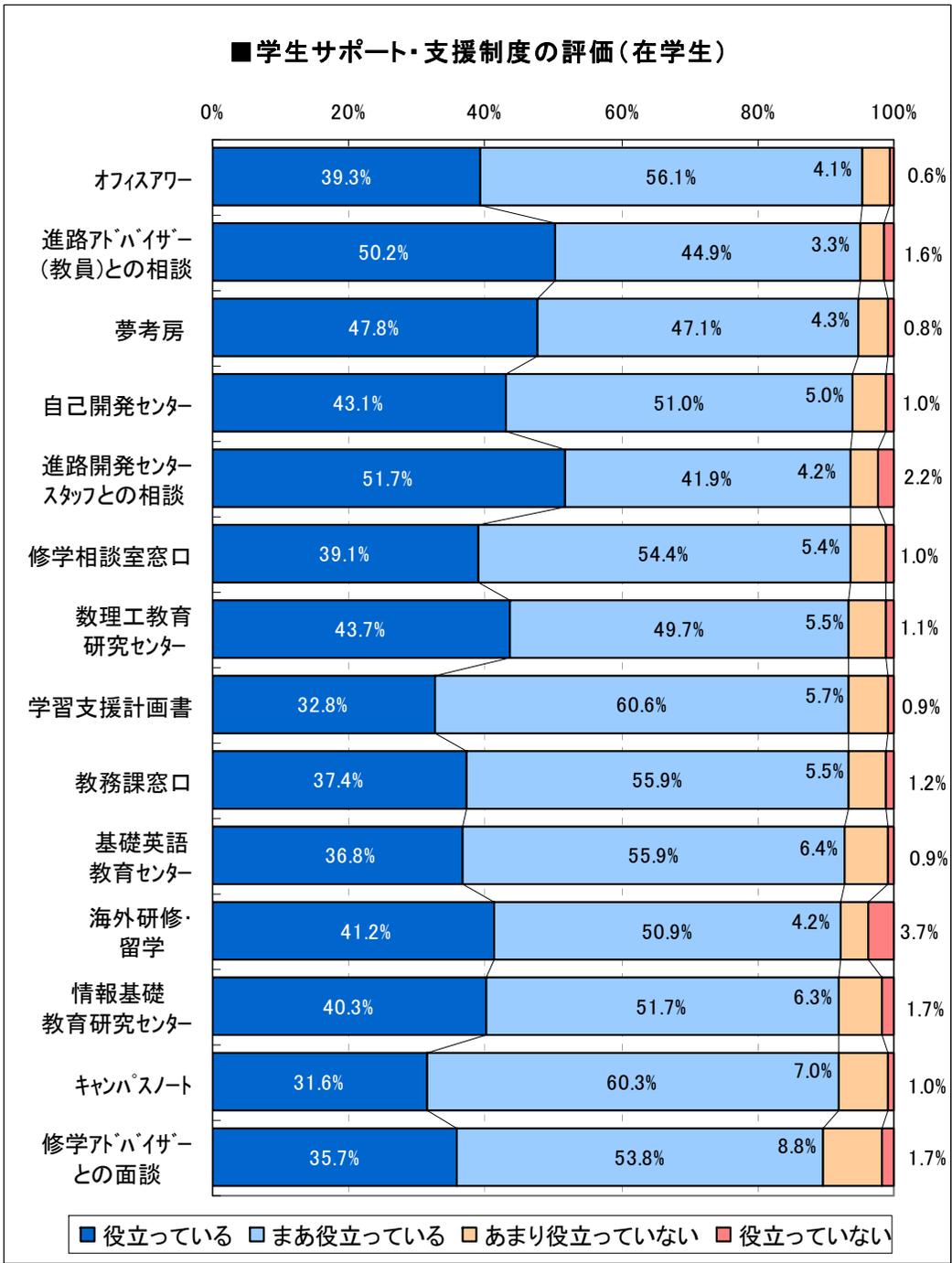
- 学生サポート・支援制度は、利用経験と経験者の評価を聞いた。利用経験は右のグラフのようになる。
- 最も利用経験者割合が高かったのは「学習支援計画書」であり、88.0%が利用経験があると答えており、他と比べて利用経験者の割合は突出していた。
- 次いで「修学アドバイザーとの面談」が63.4%、「キャンパスノート」が63.0%と続いており、ここまでの3項目は利用経験者の割合が6割を超えていた。
- 一方、最も利用経験者の割合が低かったのは「海外研修・留学」であり、利用経験者は5.1%であった。そして、「基礎英語教育センター」「情報基礎教育研究センター」「夢考房」「進路開発センタースタッフとの相談」「自己開発センター」の6項目では、利用経験者の割合が4割に満たなかった。



<5-4> 学生サポート・支援制度の評価

■ 学生サポート・支援制度の評価

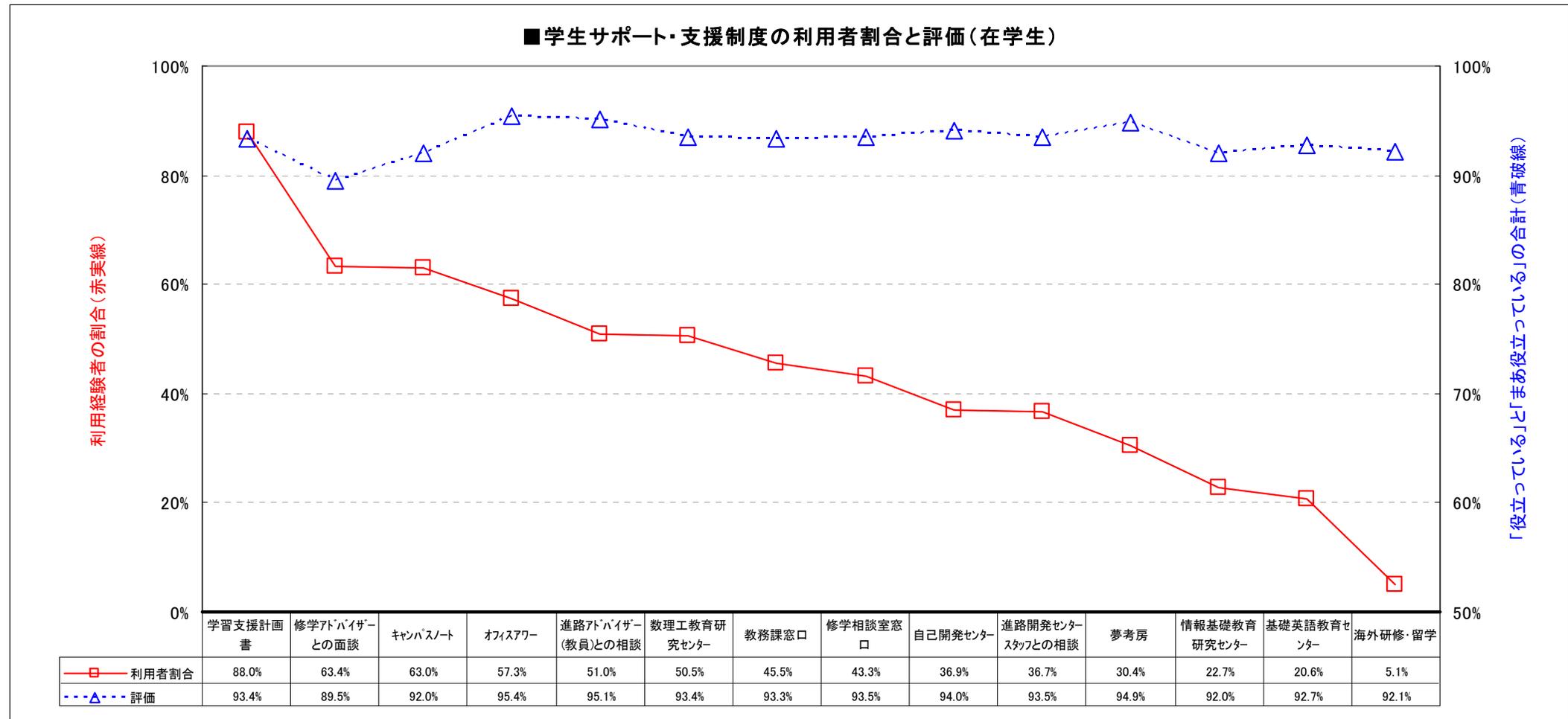
- 各学生サポート・支援制度を利用したと答えた学生に、各機能が役立っているかを聞いた。
- 「役立っている」と「まあ役立っている」を合計すると、ほとんどの項目で9割以上であり、評価は非常に高かった。
- 最も評価が高かったのは「オフィスアワー」であり、95.4%が肯定的な意見であった。次いで「進路アドバイザー(教員)との相談」が95.1%、「夢考房」が94.9%、「自己開発センター」が94.1%と続いており、いずれも高い評価となっていた。
- 最も評価が低かったのは「修学アドバイザーとの面談」であったが、役に立たなかったという意見は10.5%であり、評価としては高いと言える。
- 「海外研修・留学」の利用経験者割合は5.1%と非常に低かったものの、経験した学生からの評価では92.1%が肯定的な意見であり、内容的には高い評価を受けていることが分かった。



<5-5> 学生サポート・支援制度の利用者割合と評価

■ 学生サポート・支援制度の利用者割合と評価の比較

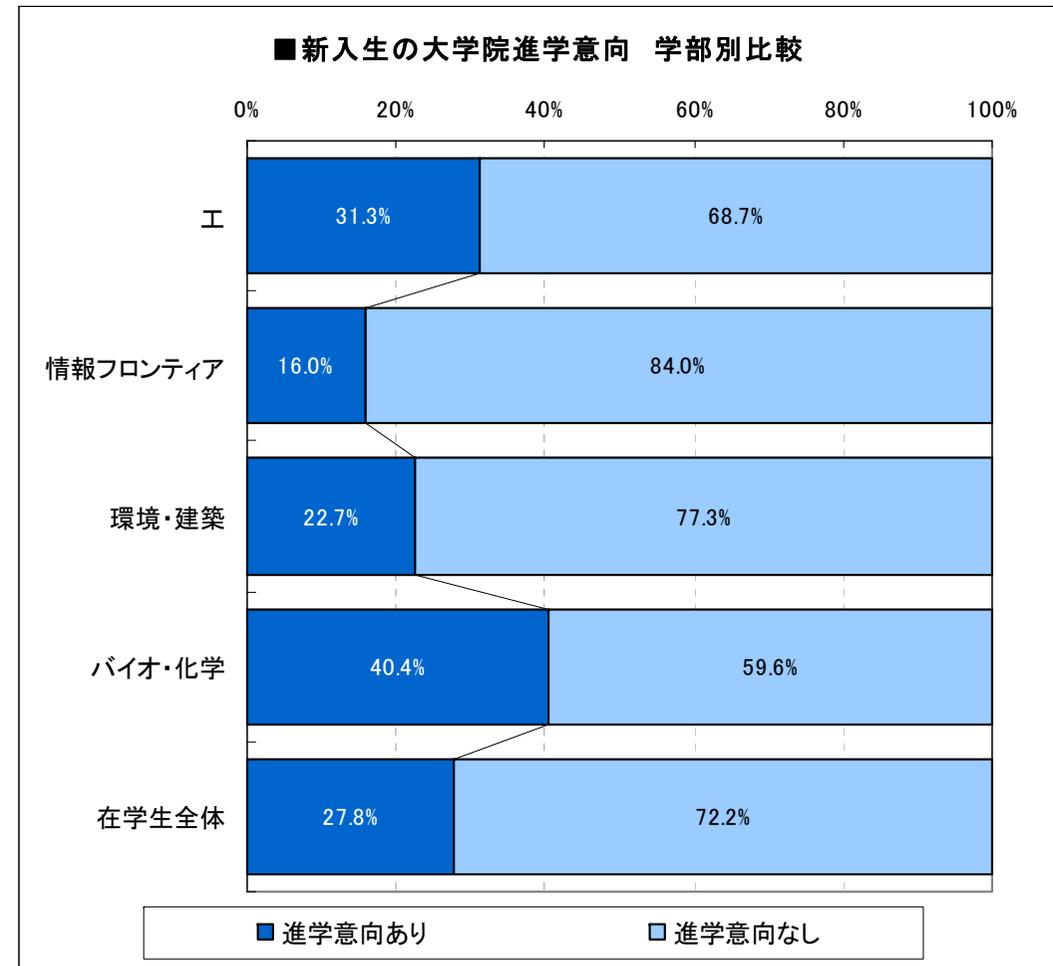
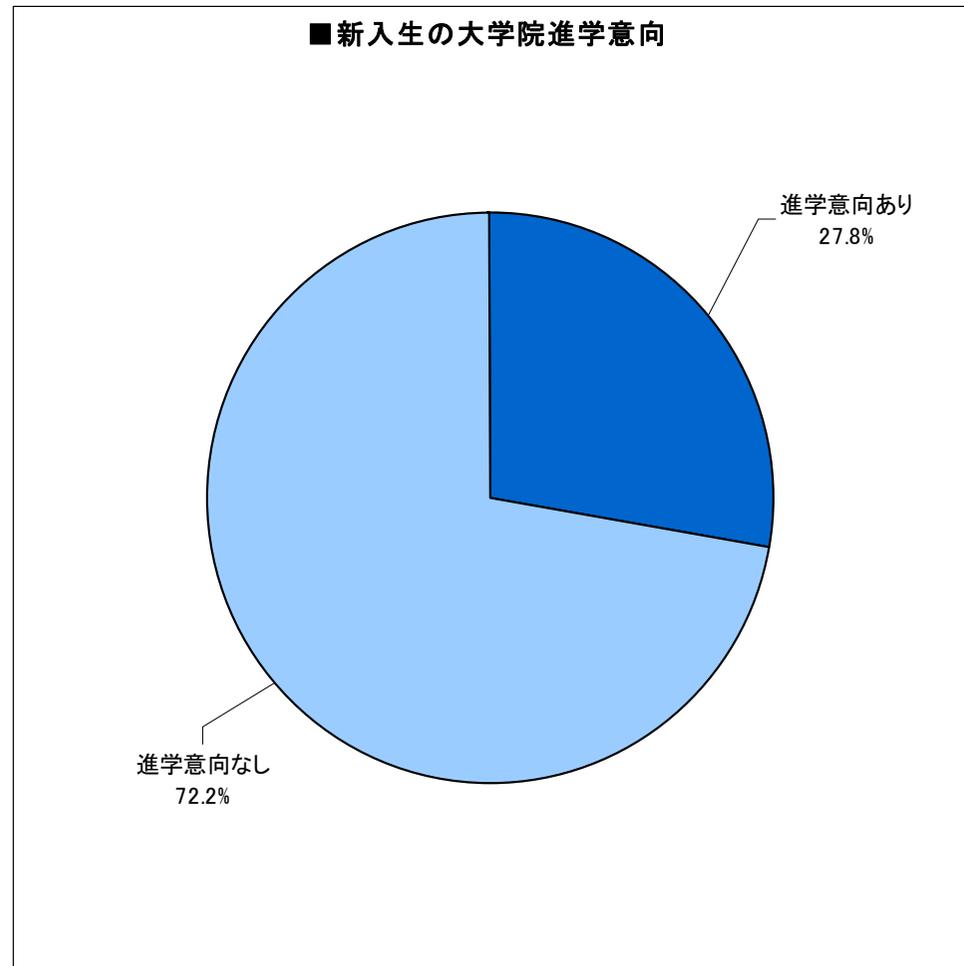
- 学生サポート・支援制度の利用経験者の割合と内容評価をまとめると、下記のグラフのようになる。赤い実線が利用経験者の割合で、グラフの左側の数値軸に対応しており、青い破線は「役立っている」と「まあ役立っている」の合計で、右の数値軸に対応している。
- 利用経験者の割合は「学習支援計画書」から「海外研修・留学」まで非常に大きな差が見られたが、評価に関してはほとんどの項目で9割以上が役に立っていると回答しており、いずれの制度についても利用者からは高く評価されていることが分かった。



<6-1> 大学院への進学意向

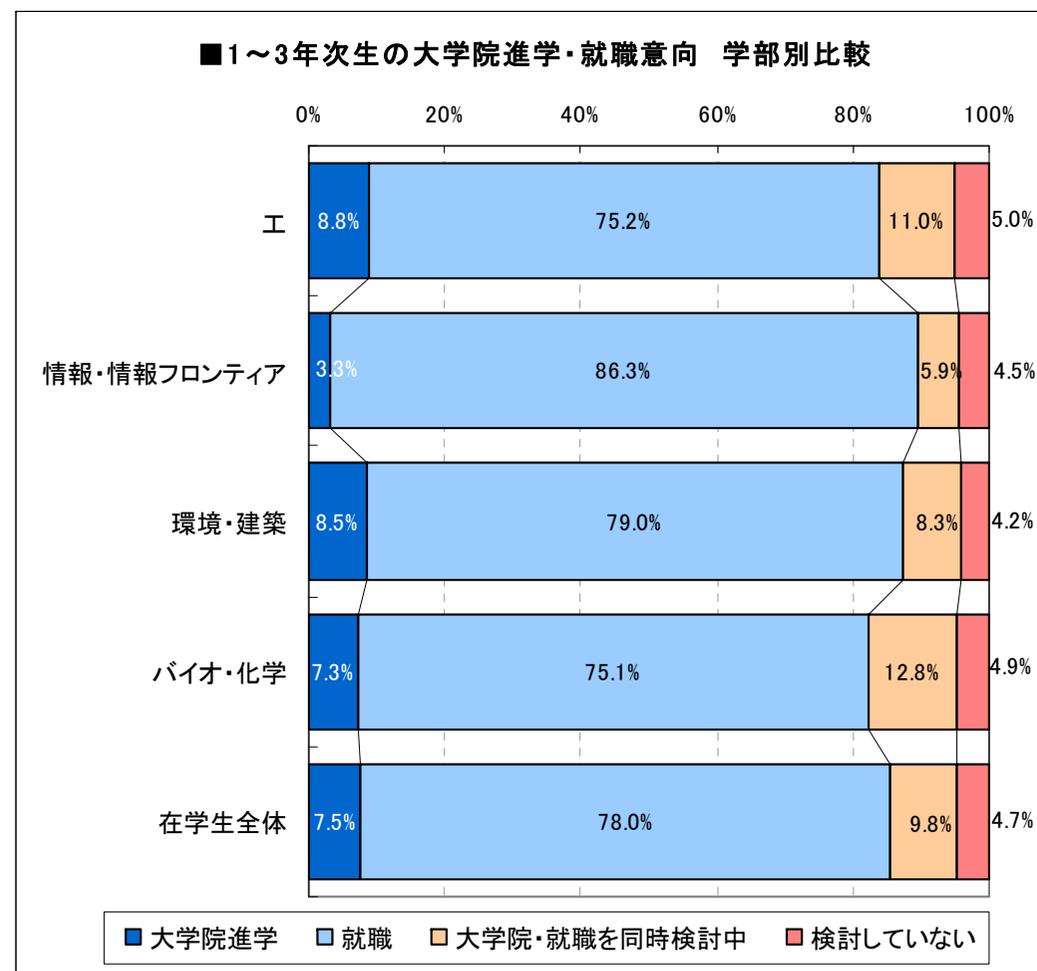
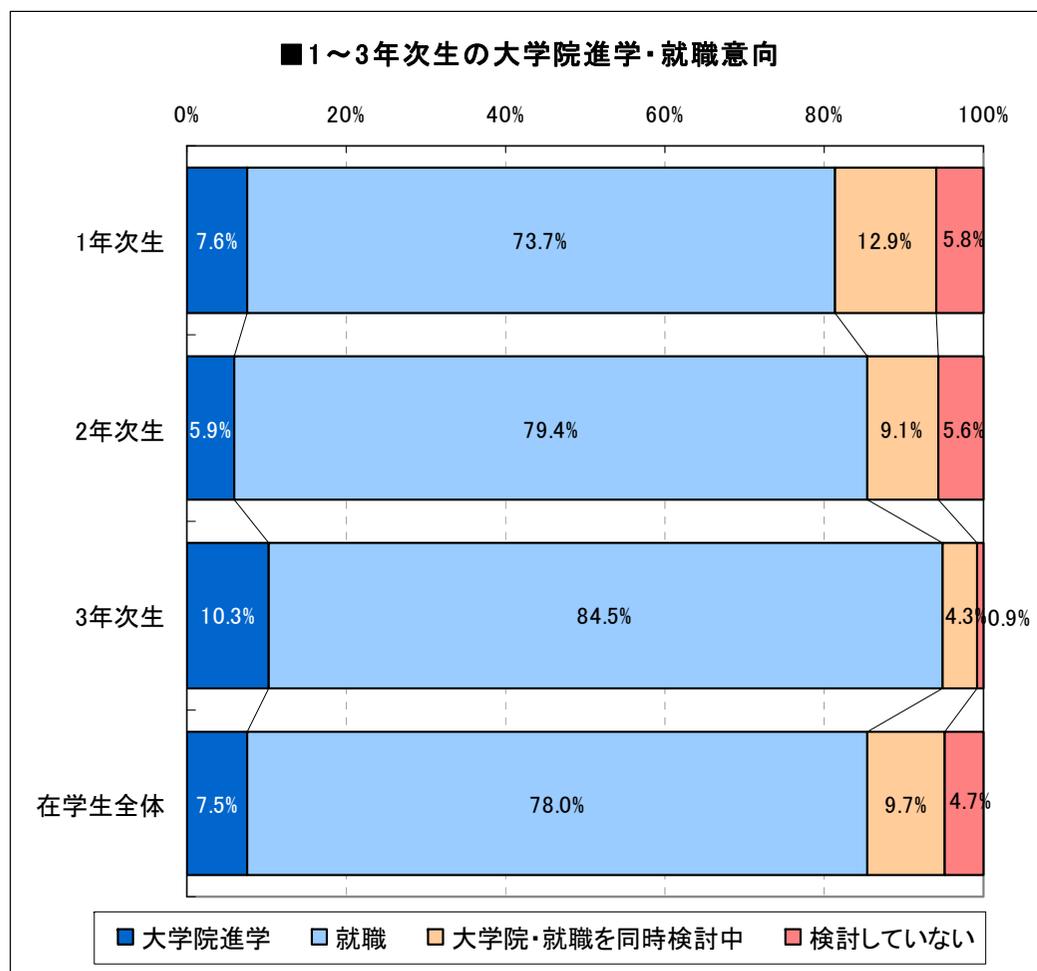
■ 新入生の大学院進学意向

- 大学院への進学意向は今回から加えた質問であるが、「新入生」には「進学意向あり」と「進学意向なし」の2択で聞いており、「進学意向あり」が27.8%、「進学意向なし」が72.2%という結果となっていた。
- 学部別に比較すると、「バイオ・化学」で進学意向が強く、40.4%が「進学意向あり」と答えていた。次いで「工」が31.3%、「環境・建築」が22.7%、「情報フロンティア」が16.0%という割合であり、「バイオ・化学」と「情報フロンティア」との差は24.4ポイントと大きな差がついていた。



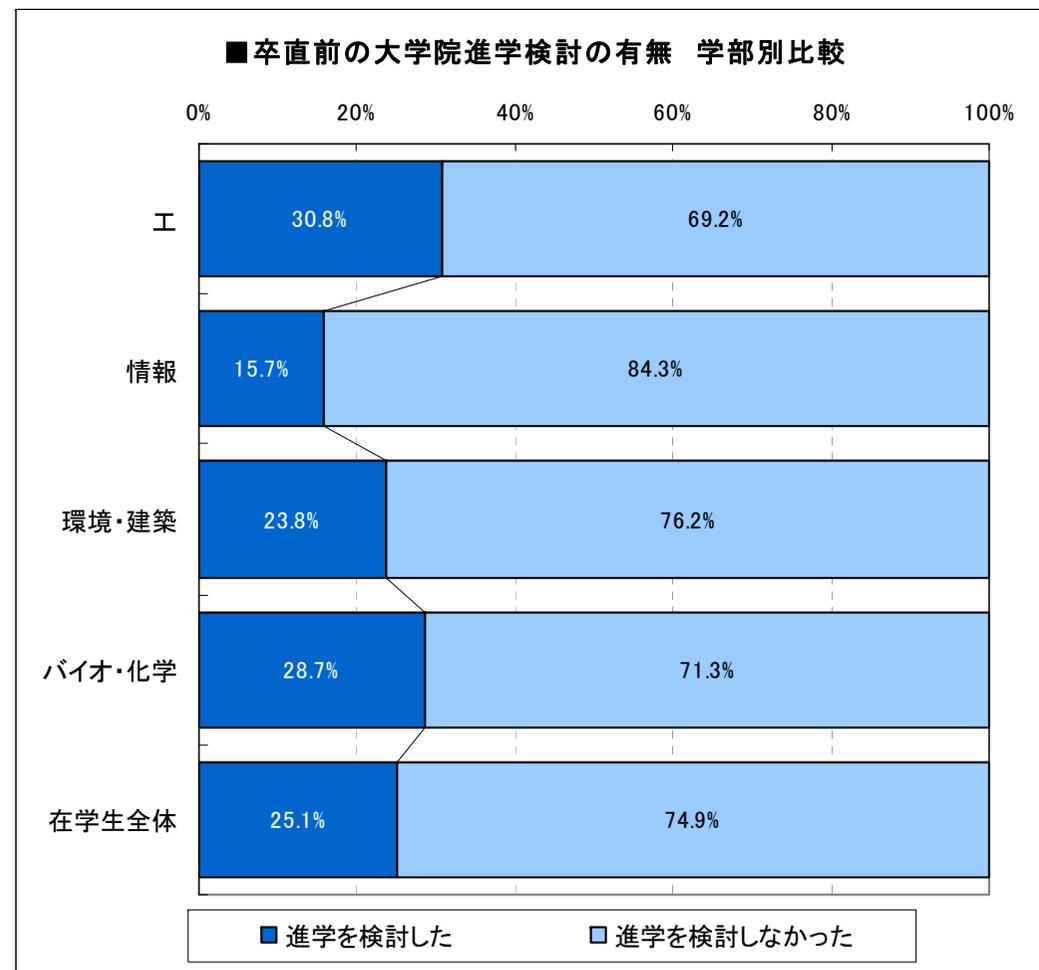
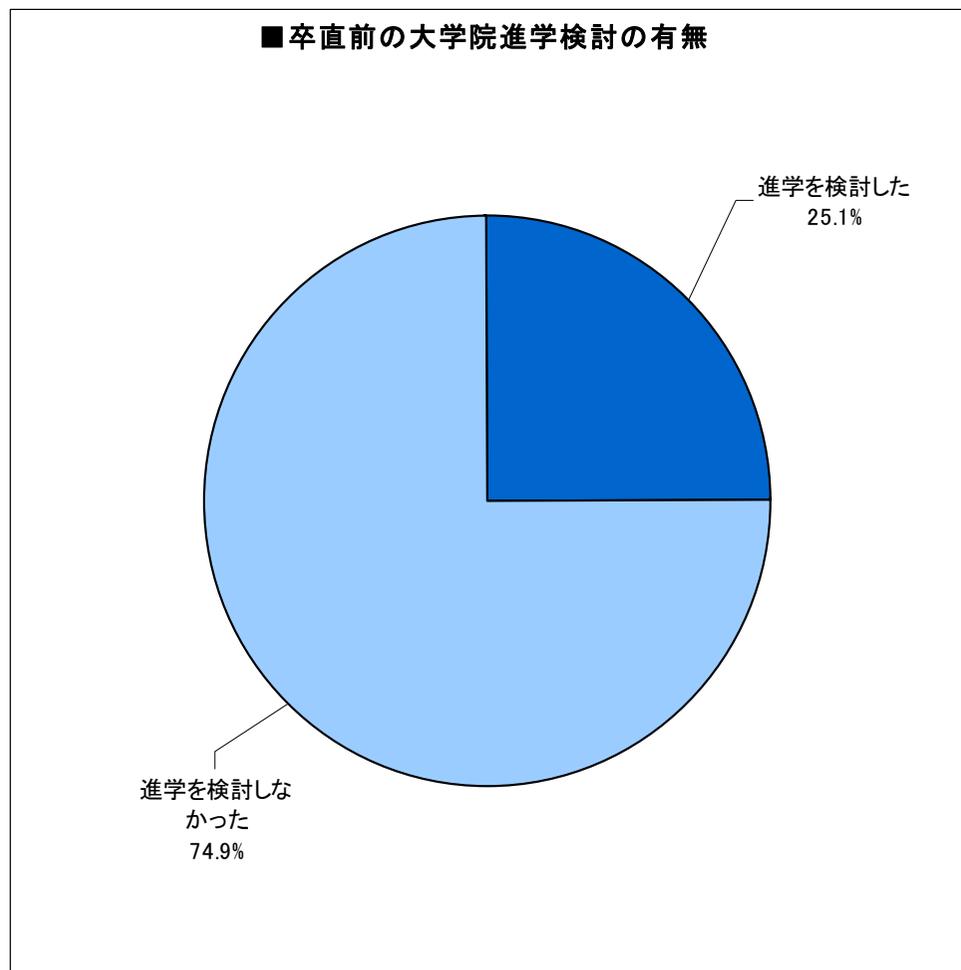
■1～3年次生の大学院進学・就職意向

- 1～3年次生には4択で大学院進学意向を聞いているが、全体としては「就職」が78.0%と大多数を占めており、「大学院進学」は7.5%、「大学院・就職を同時検討中」が9.7%、「検討していない」が4.7%となっていた。
- 学年別に比較すると、高学年ほど「就職」が増加し、「大学院・就職を同時検討中」が減少する傾向が見られ、徐々に進路が決まっている様子うかがえる。「大学院進学」は「1年次生」から「2年次生」にかけて減少して「3年次生」で増加していたが、これらの変化に関しては学生群によって異なるのではないかと考えられた。
- 学部別の比較では、それほど大きな差は見られなかったが、「情報・情報フロンティア」では「就職」が多くて「大学院進学」が少なかった。その他では「工」と「バイオ・化学」で「大学院・就職を同時検討中」が多く、迷っている様子うかがえた。



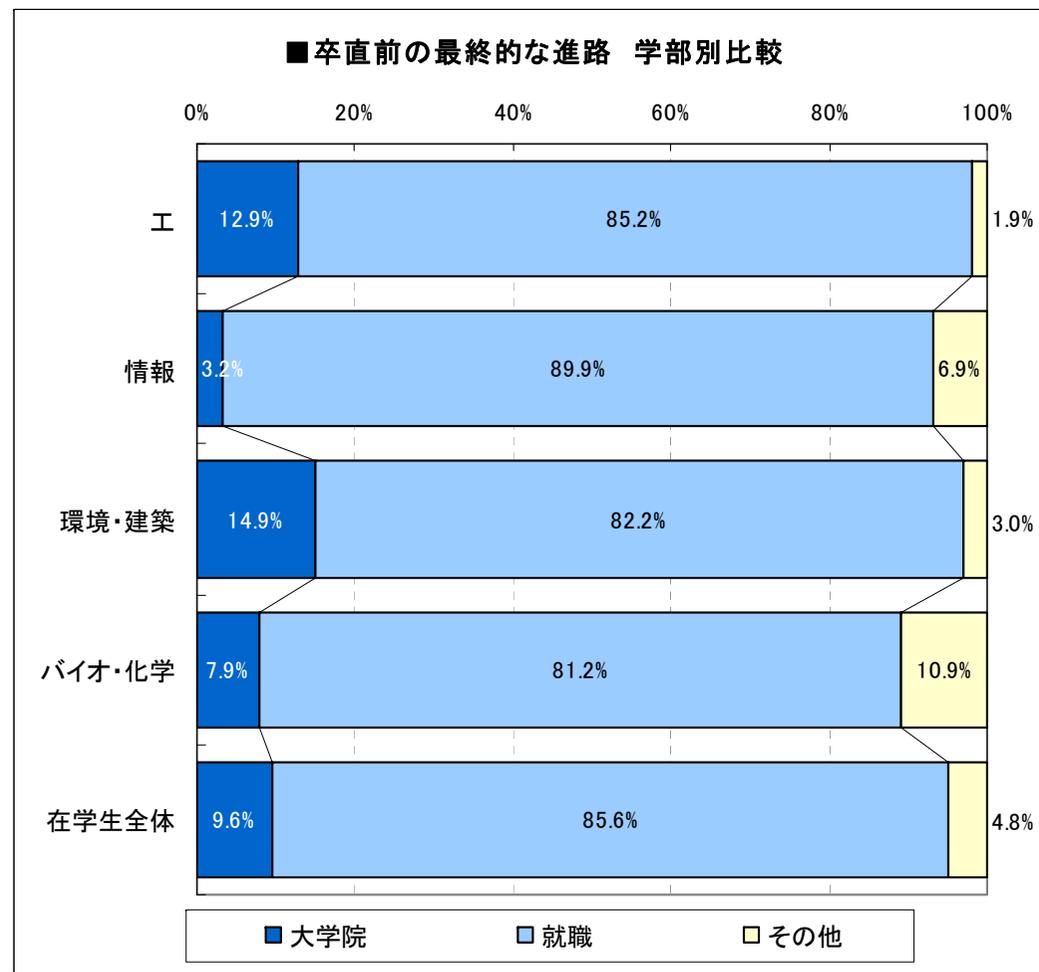
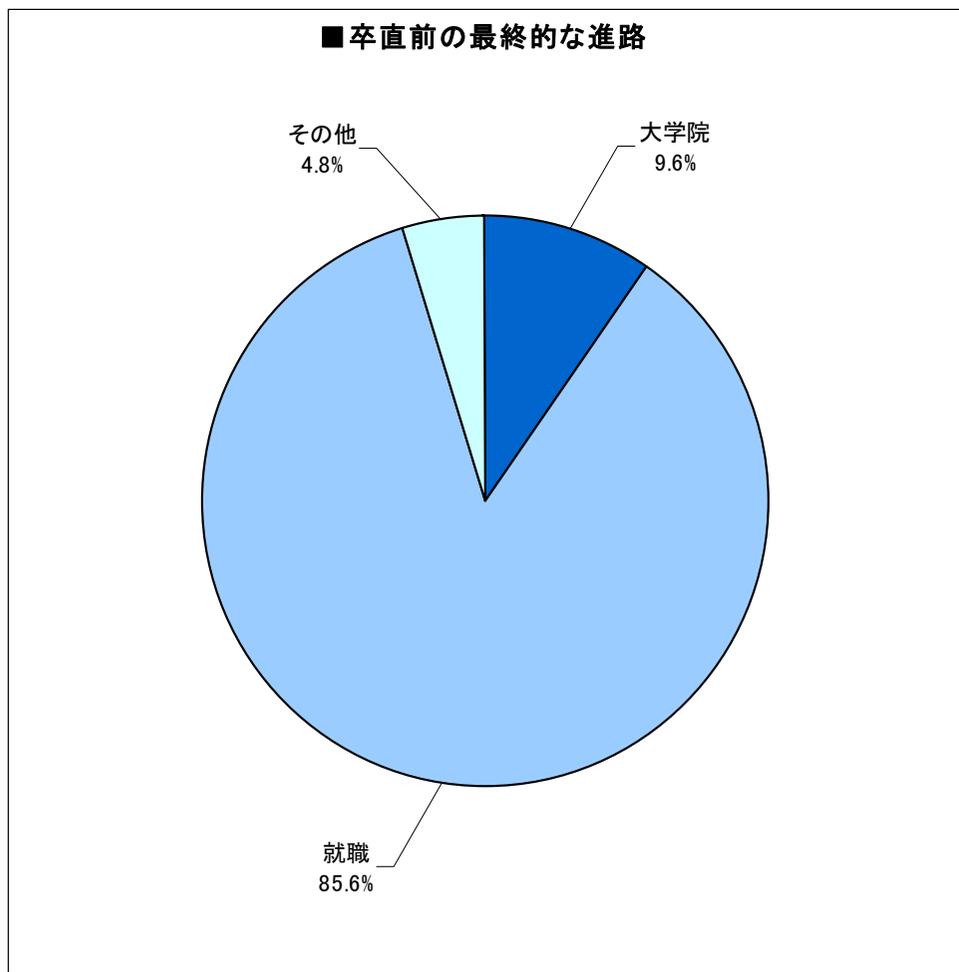
■卒直前の大学院進学検討の有無

- 「卒直前」だけに「大学院への進学を検討しましたか？」という質問をしたところ、25.1%が「進学を検討した」と答えており、74.9%は「進学を検討しなかった」という回答であった。
- 学部別に比較したところ、「工」が30.8%と最も多く、次いで「バイオ・化学」が28.7%、「環境・建築」が23.8%、「情報」が15.7%という割合であり、「工」と「情報」との差は15.1ポイントであった。



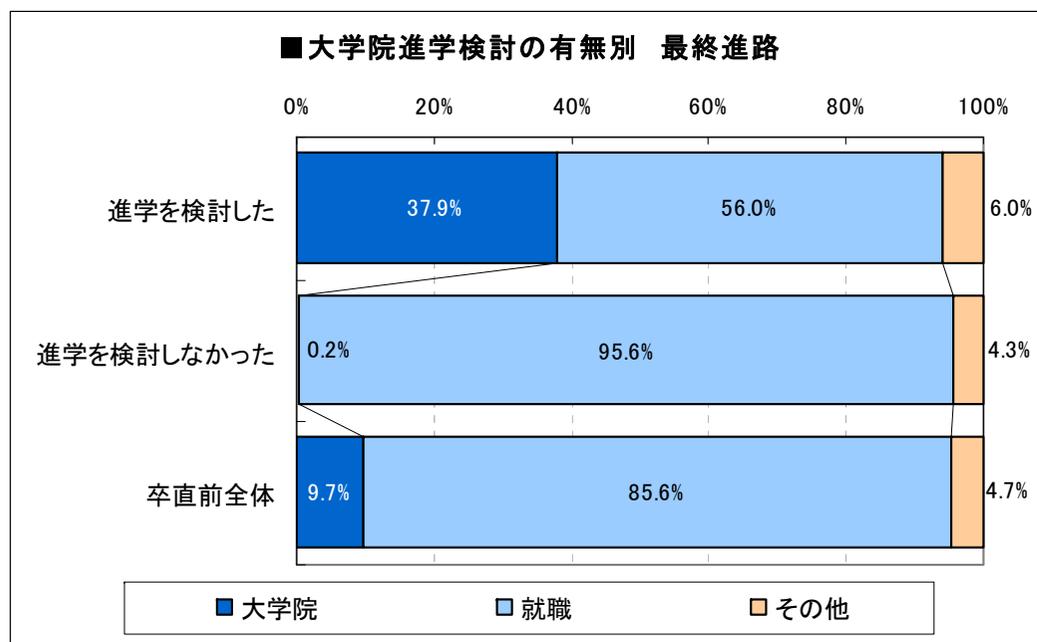
■ 卒直前の最終的な進路

- 「卒直前」だけに「最終的な進路」を聞いているが、「就職」が85.6%であり、「大学院」は9.6%、「その他」は4.8%となっていた。
- 学部別に比較すると、「就職」は「情報」で89.9%と最も多く、「工」で85.2%、「環境・建築」で82.2%、「バイオ・化学」で81.2%となっていた。そして、「大学院」は「環境・建築」で14.9%と最も多く、「工」で12.9%、「バイオ・化学」で7.9%、「情報」で3.2%となっていた。



■大学院進学検討の有無別の最終進路比較

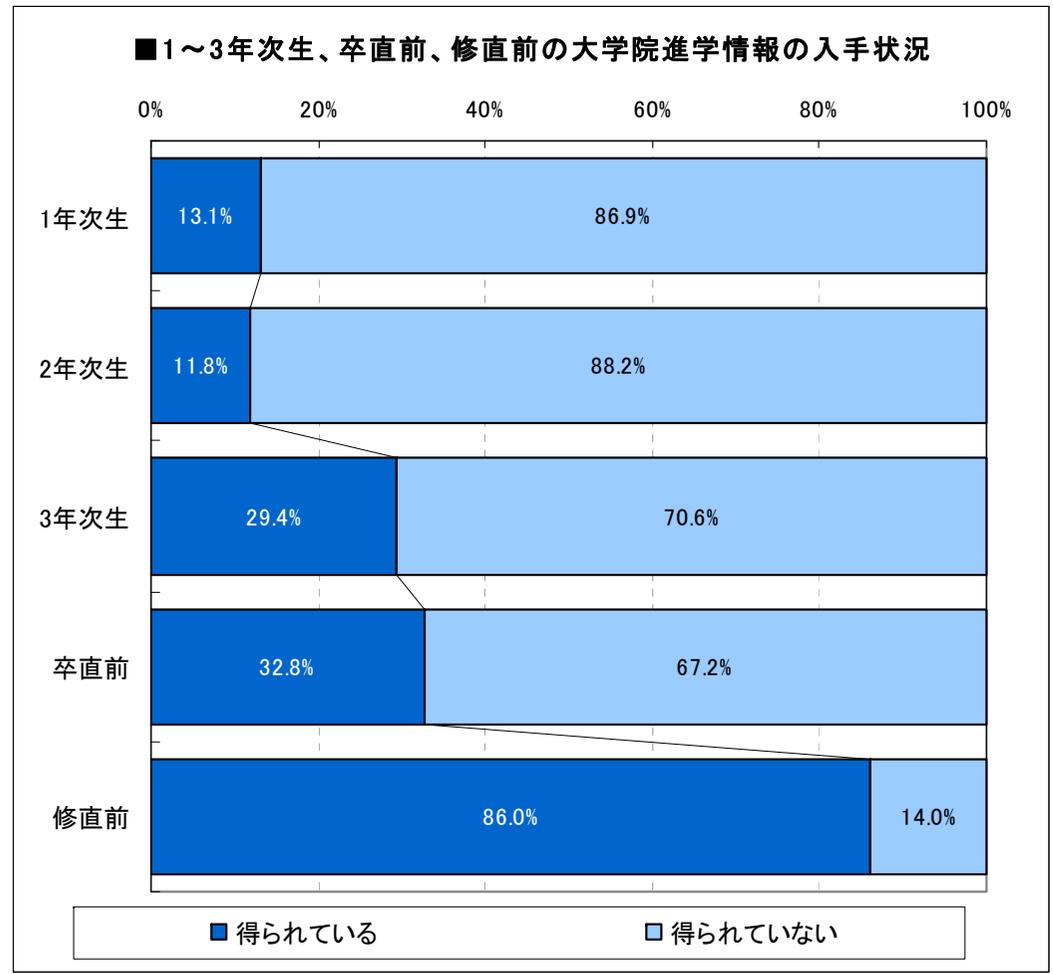
- 「卒直前」に対して聞いた「大学院進学検討の有無」の違いによる「最終進路」を比較したところ、大学院進学を検討した学生の37.9%は最終的に大学院に進学しており、56.0%は就職しているということが分かった。
- 一方、大学院進学を検討しなかった学生は95.6%と、ほとんどが就職を選択していることが分かった。



<6-2>大学院進学への情報入手状況

■1～3年次生の大学院進学情報の入手状況

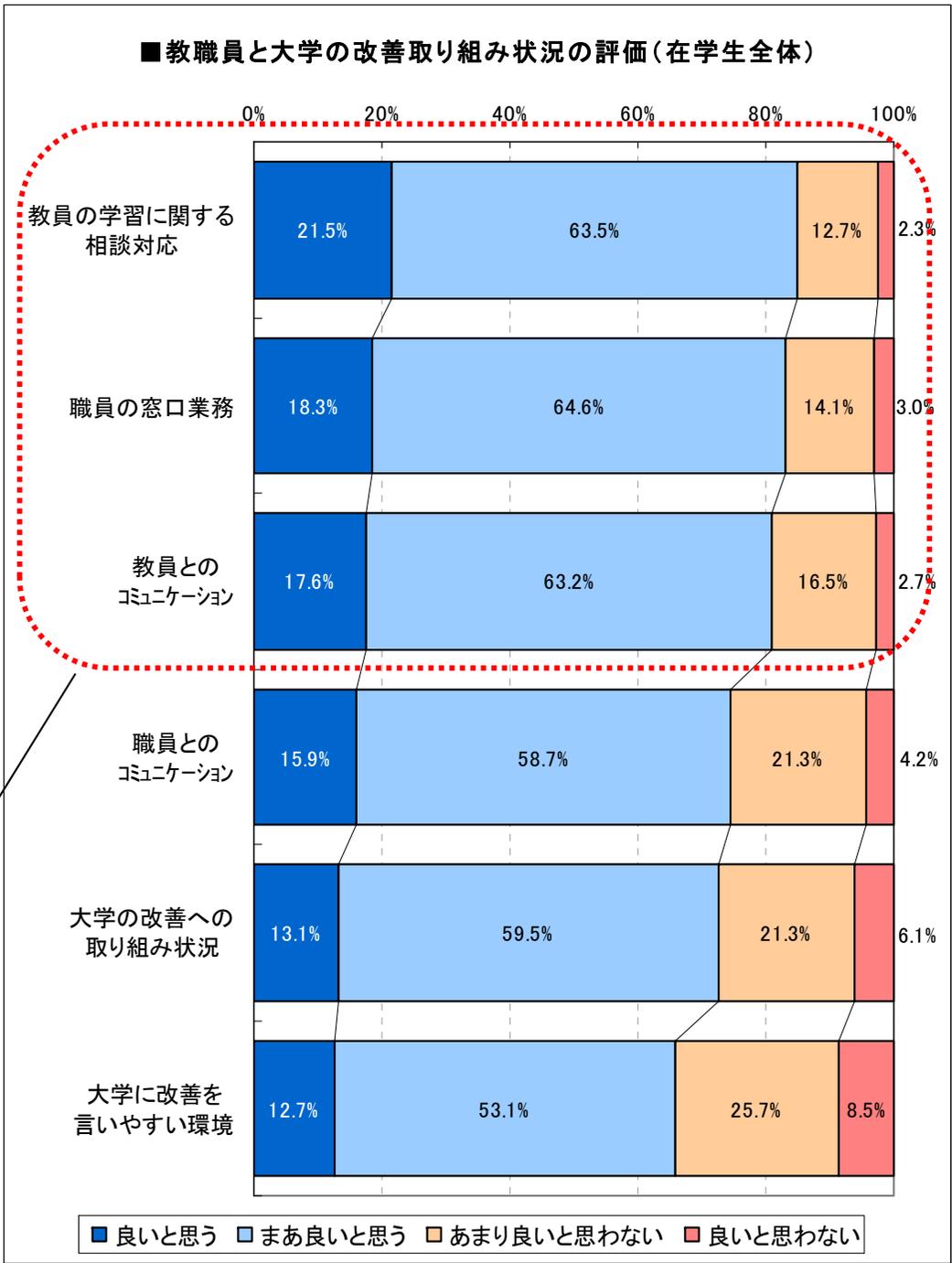
- 1～3年次生に「大学院進学への情報は得られていますか？」と聞いたところ、例外はあるものの高学年ほど「得られている」という回答が多くなっていた。
- 「得られている」の割合は高学年ほど高くなってはいるものの、「1年次生」と「2年次生」では1割程度、「3年次生」と「卒直前」では3割程度であり、情報入手に関しては2つの山がありそうであった。そして、「修直前」は当然のことながら情報を入手している割合が高く、86.0%が「得られている」と回答していた。



<7-1>教職員と大学の改善取り組み状況の評価

■教職員と大学の改善取り組み状況の評価

- 教職員と大学の改善への取り組み状況の評価については6つの質問をしているが、最も評価が高かったのは「教員の学習に関する相談対応」であり、85.0%が肯定的な評価であった。
- 次いで、「職員の窓口業務」で82.9%、「教員とのコミュニケーション」では80.8%が肯定的な意見であり、ここまでの3項目は8割以上が良い評価をしていた。
- 最も評価が低かったのは「大学に改善を言いやすい環境」であり、肯定的な意見は65.8%であった。6割以上が良い評価をしているということは決して低い数字ではないものの、他の項目と比べると評価の低さが目立っていた。

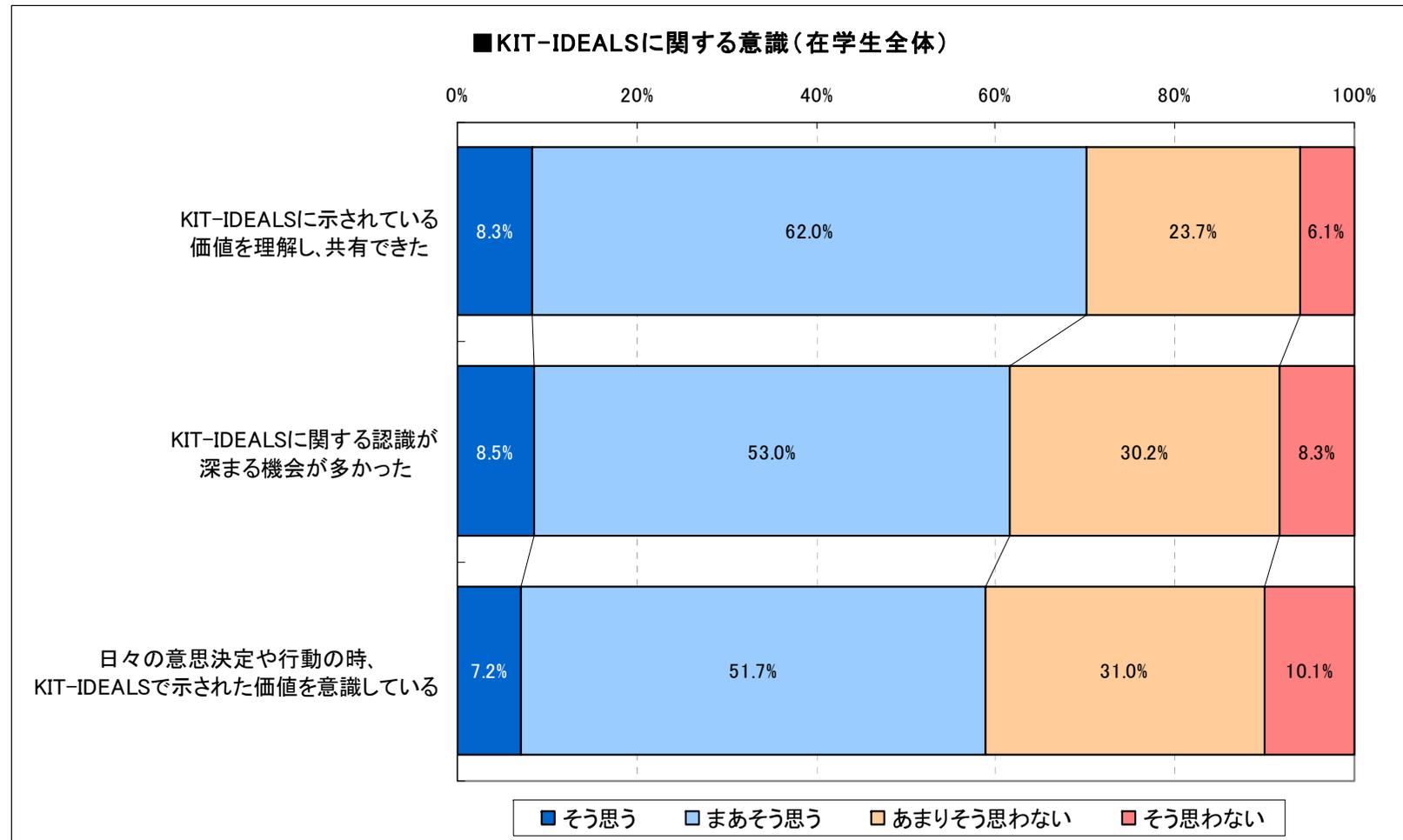


良い評価が8割以上

<8-1> KIT-IDEALSに関する意識

■KIT-IDEALSに関する意識

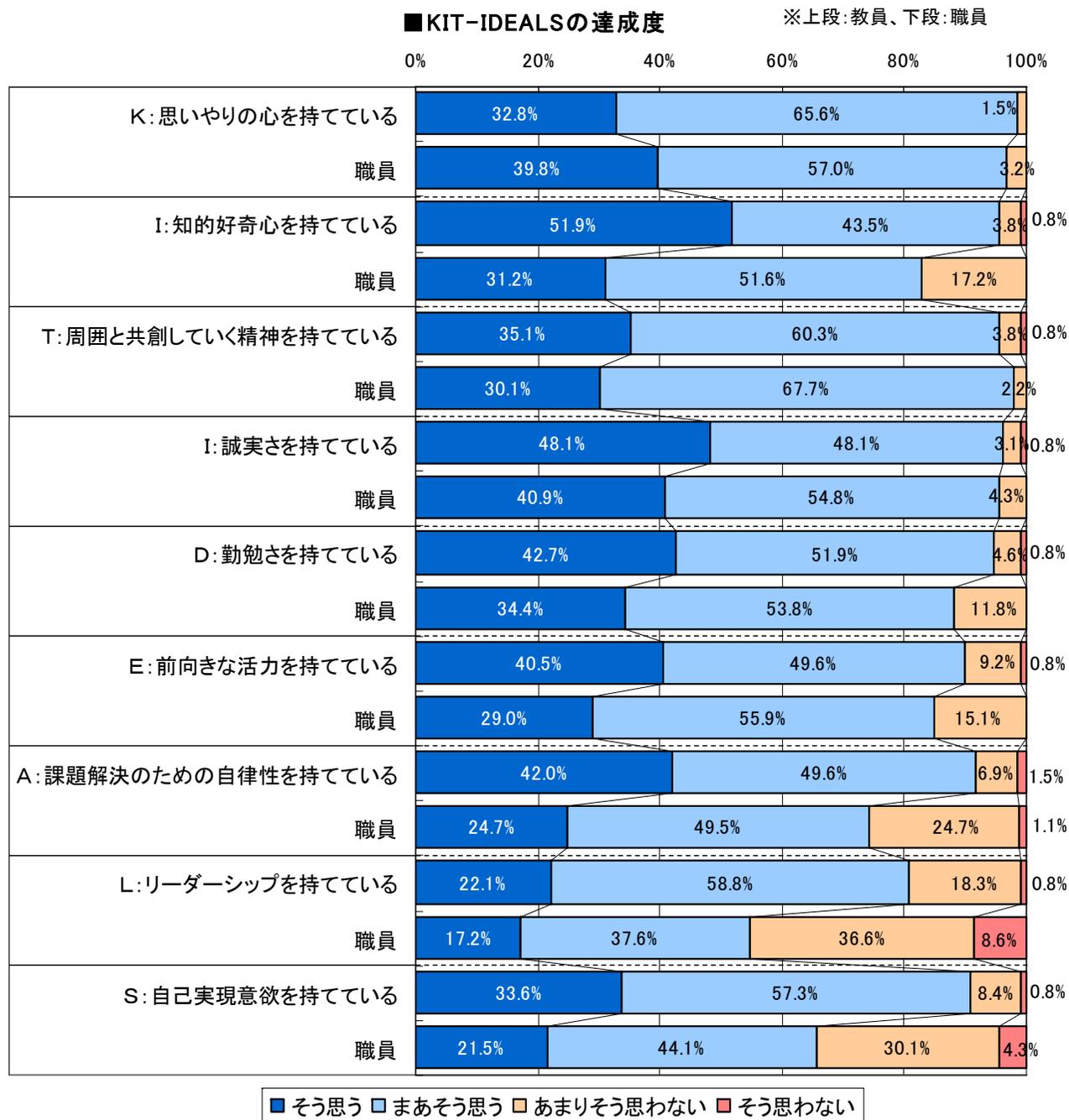
- 在学生のKIT-IDEALSに関する意識に関しては、「KIT-IDEALSに示されている価値を理解し、共有できた」で「そう思う」が8.3%、「まあそう思う」が62.0%であり、合わせると70.3%が肯定的な意見であった。
- 次いで、「KIT-IDEALSに関する認識が深まる機会が多かった」では61.5%、「日々の意思決定や行動の時、KIT-IDEALSで示された価値を意識している」では58.9%が肯定的な意見であった。



<8-2>教職員のKIT-IDEALSの達成度

■教職員のKIT-IDEALSの達成度

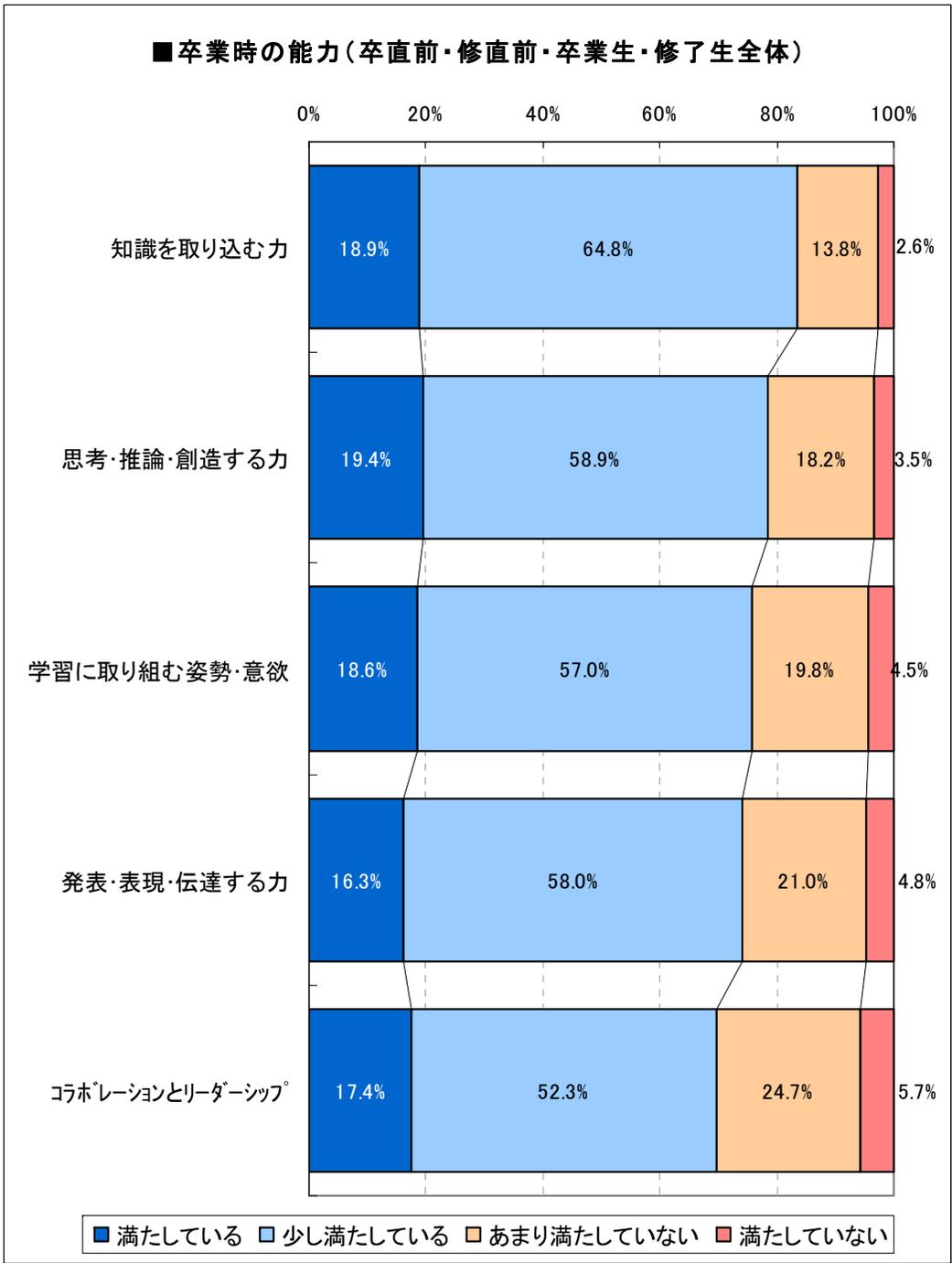
- 「KIT-IDEALS」の達成度は「教員」「職員」のみに聞いている。
- 肯定的な意見の合計で比較すると、「教員」はすべての項目で8割を超えており達成度は高かったが、「職員」はやや低めの項目がいくつかあった。
- 「教員」は「L:リーダーシップを持っている」で肯定的な意見が80.9%とやや低かったが、それ以外のすべての項目は9割以上が肯定的な意見であった。
- 「L:リーダーシップを持っている」については「職員」でも低かったが、こちらは肯定的な意見が54.8%と非常に低かった。「職員」はまた、「S:自己実現意欲を持っている」が65.6%、「A:課題解決のための自律性を持っている」が74.2%であり、このあたりに課題を感じているようであった。



<9-1>卒業時の能力

■卒業時の能力の属性別比較

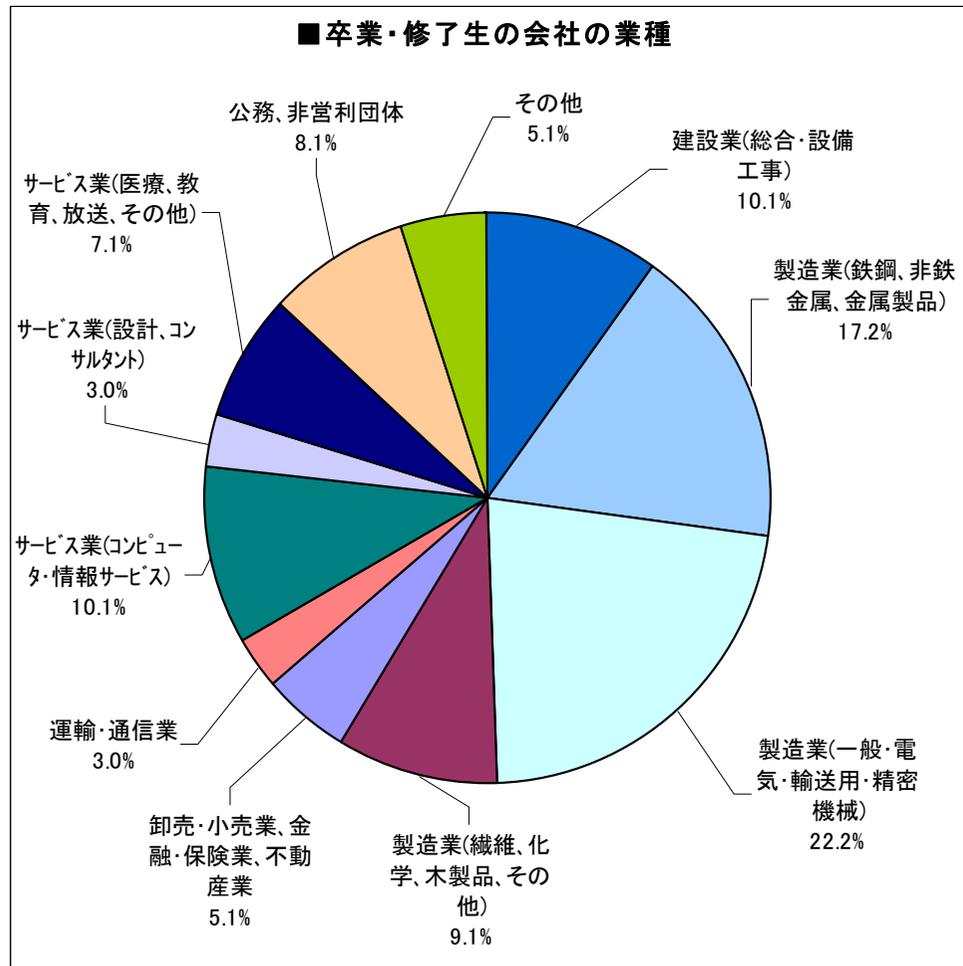
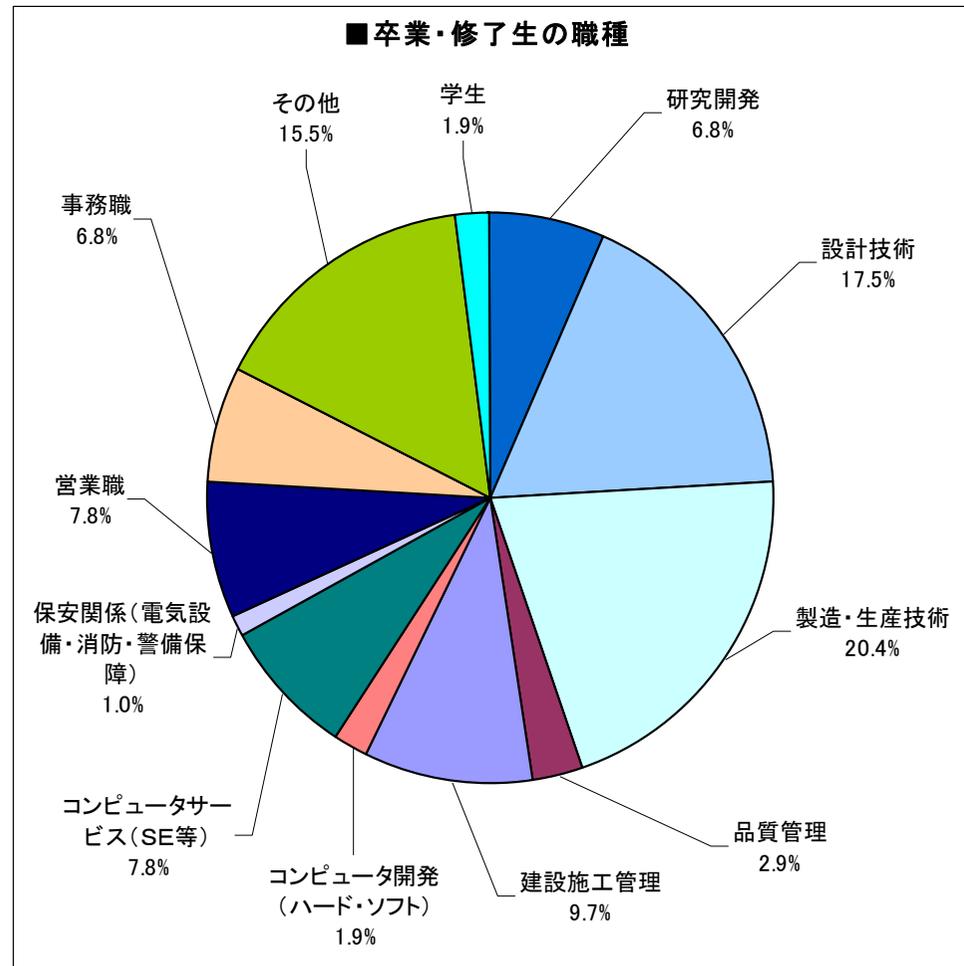
- 卒業時の能力は今回から5つの項目に絞って聞いている。
- 肯定的な意見が最も多かったのは「知識を取り込む力」であり、「満たしている」が18.9%、「少し満たしている」が64.8%であり、合わせると83.7%が満たしているという意見であった。
- 次いで、「思考、推論、創造する力」が78.3%、「学習に取り組む姿勢・意欲」が75.6%と続いていた。
- 一方、最も肯定的な意見が少なかったのは「コラボレーションとリーダーシップ」であったが、肯定的な意見は69.7%であり、決して低い数値ではなかった。



<10-1>卒業・修了生の基本属性

■現在の職種と会社の業種

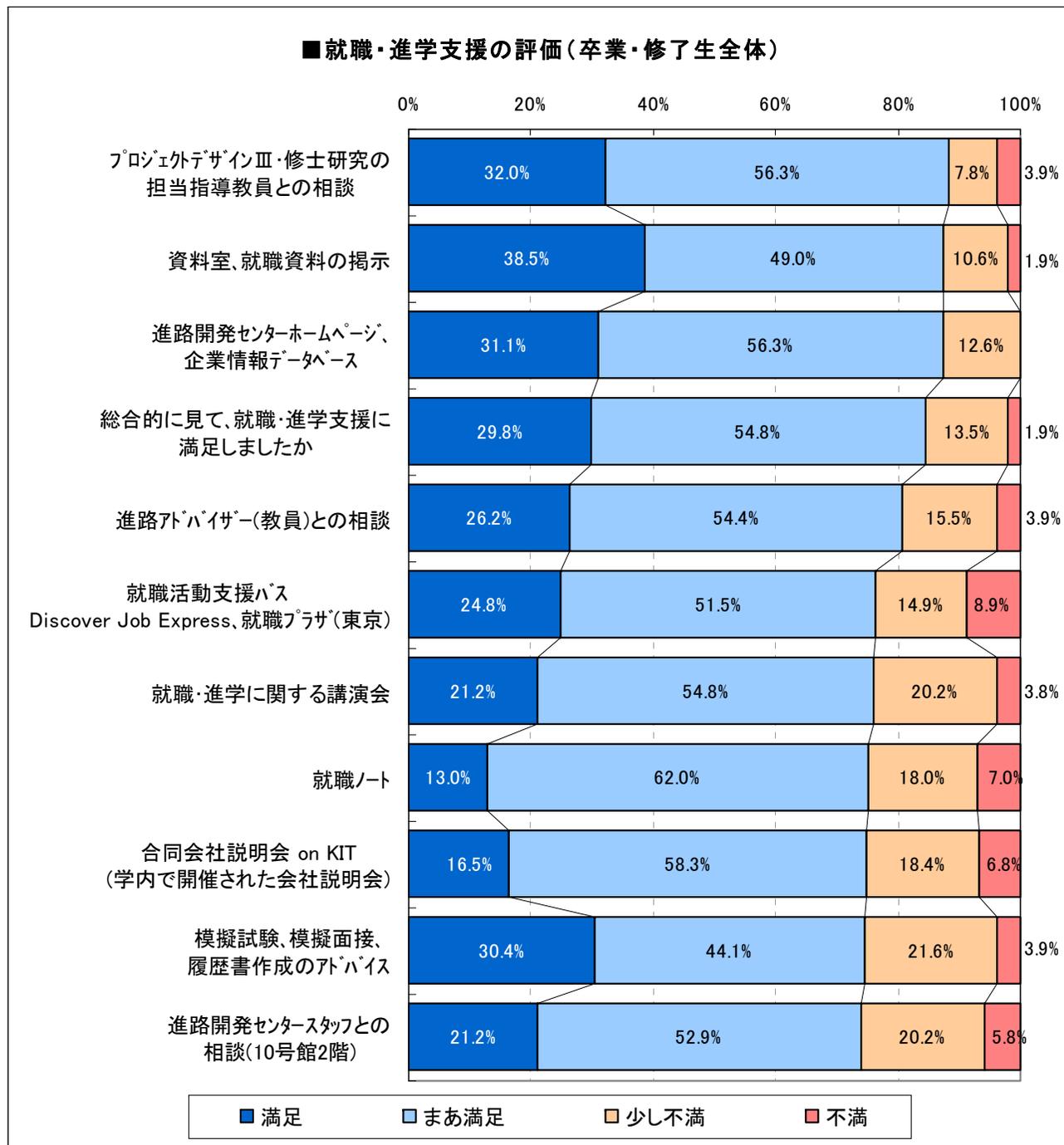
- 卒業・修了生の現在の職種を見たところ、「製造・生産技術」が20.4%で最も多く、「設計技術」が17.5%、「建設施工管理」が9.7%と続いており、「その他」が15.5%となっていた。
- 会社の業種では「製造業（一般・電気・輸送用・精密機械）」が22.2%で最も多く、「製造業（鉄鋼、非鉄金属、金属製品）」が17.2%、「建設業（総合・設備工事）」と「サービス業（コンピュータ・情報サービス）」が10.1%と続いていた。



<10-2>就職・進学支援の評価

■就職・進学支援の評価

- 「卒業・修了生」に就職・進学支援策の満足度を聞いた。
- まず、「総合的に見て、就職・進学支援に満足しましたか」に対しては「満足」が29.8%、「まあ満足」が54.8%であり、合わせると84.6%は「就職・進学支援」に満足しているという回答であった。
- 上記以外の項目では「プロジェクトデザインⅢ・修士研究の担当指導教員との相談」の満足度が最も高く、88.3%が満足しているという回答であった。次いで、「資料室、就職資料の掲示」が87.5%、「進路開発センターホームページ、企業情報データベース」が87.4%と続いていた。
- 一方、最も満足度が低かったのは「進路開発センタースタッフとの相談」であり、満足という回答は74.1%であった。そして、「模擬試験、模擬面接、履歴書作成のアドバイス」(74.5%)、合同会社説明会 on KIT (74.8%)、「就職ノート」(75.0%)が続いていたが、「満足」という回答だけをみると「模擬試験、模擬面接、履歴書作成のアドバイス」が30.4%と多く、強く満足している卒業生が多くいることが分かる。一方で「就職ノート」の「満足」という回答は13.0%とが非常に少なくなっており、評価の差が見られた。

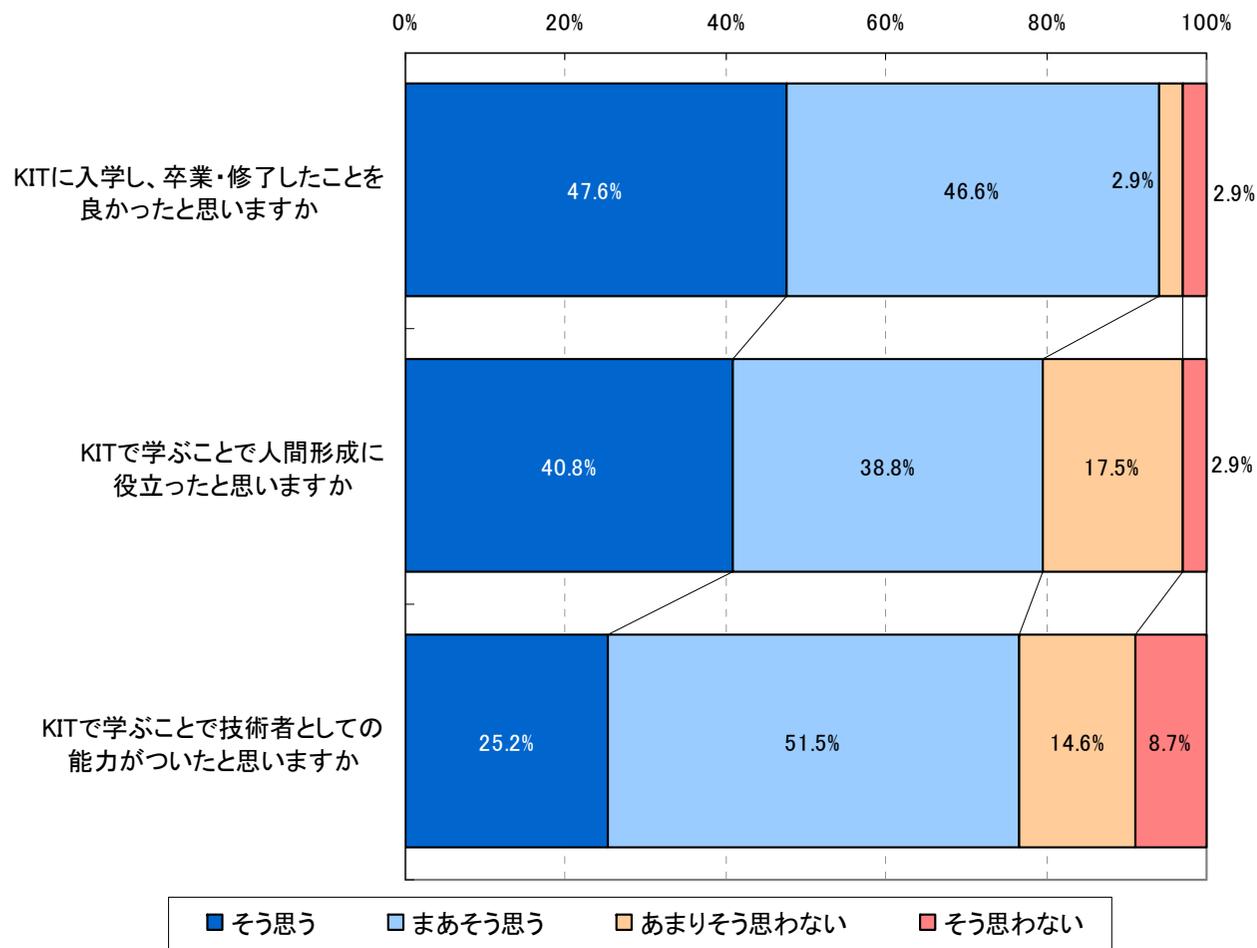


<10-3>卒業後のKITの評価

■卒業後のKITの評価

- 卒業生、修了生に、卒業後に振り返ってKITをどう思うか聞いた。
- 「KITに入学し、卒業・修了したことを良かったと思いますか」では「そう思う」が47.6%、「まあそう思う」が46.6%であり、合わせると94.2%と大多数が良かったという意見であった。
- 次いで「KITで学ぶことで人間形成に役立ったと思いますか」では79.6%、「KITで学ぶことで技術者としての能力がついたと思いますか」では76.7%が肯定的な意見であった。

■卒業後に振り返ってのKITの評価(卒業・修了生全体)



<11-1>新入生のプロフィール

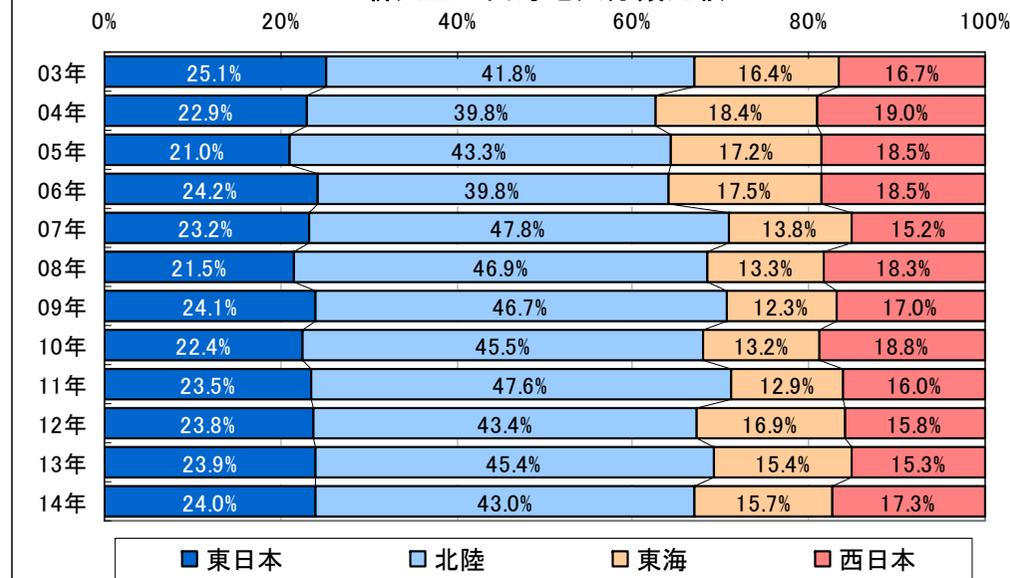
■新入生の学部・学科、出身地

- 新入生の所属学部は「工学部」が53.2%、「情報フロンティア学部」が16.5%、「環境・建築学部」が20.7%、「バイオ・化学部」が9.5%となっていた。
- 出身地域は「北陸」が43.0%と最も多く、次いで「東日本」(24.0%)、「西日本」(17.3%)、「東海」(15.7%)の順だった。前回より「西日本」がわずかに増加し、「北陸」が減少していた。
- 出身地詳細分類を見ると、「北陸」が最も多く、次に「東海」と「甲信越」がほぼ同じ割合、そして、「関西」が続いていた。

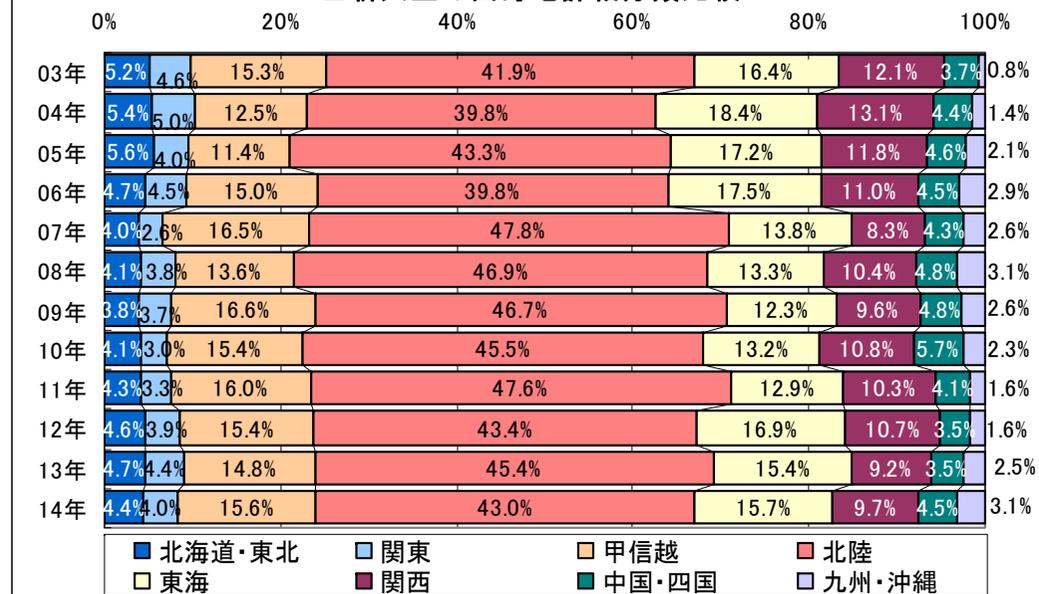
■学部・学科割合

学部	学科	回答者数	割合	回答者数	割合
工学部	機械工学科	859	53.2%	217	13.4%
	航空システム工学科			59	3.7%
	ロボティクス学科			104	6.4%
	電気電子工学科			208	12.9%
	電子情報通信工学科			65	4.0%
	情報工学科			206	12.8%
情報フロンティア学部	メディア情報学科	267	16.5%	132	8.2%
	経営情報学科			72	4.5%
	心理情報学科			63	3.9%
環境・建築学部	建築デザイン学科	334	20.7%	128	7.9%
	建築学科			127	7.9%
	環境土木工学科			79	4.9%
バイオ・化学部	応用化学科	153	9.5%	61	3.8%
	応用バイオ学科			92	5.7%
無回答		1	0.1%	1	0.1%
合計		1,614	100.0%	1,614	100.0%

■新入生の出身地大分類比較



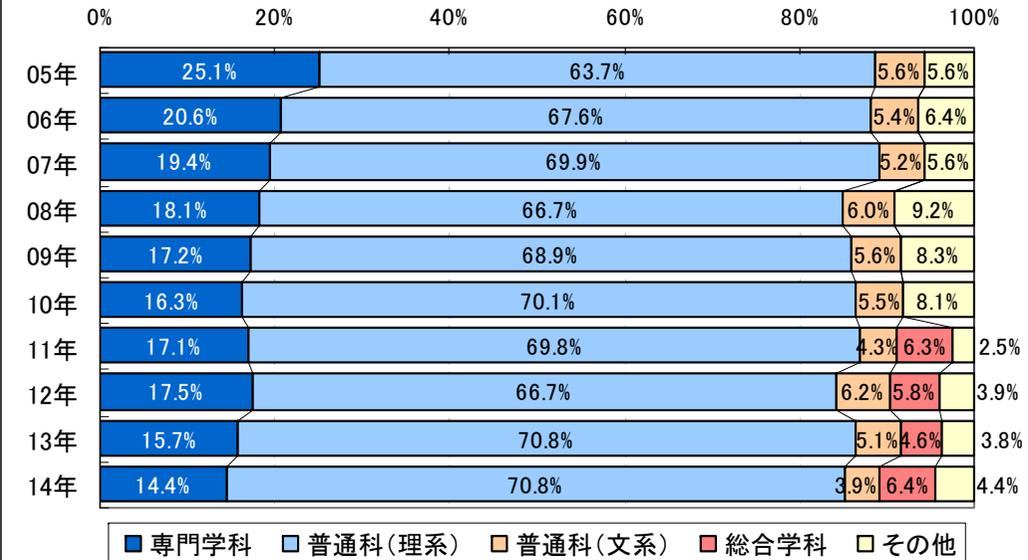
■新入生の出身地詳細分類比較



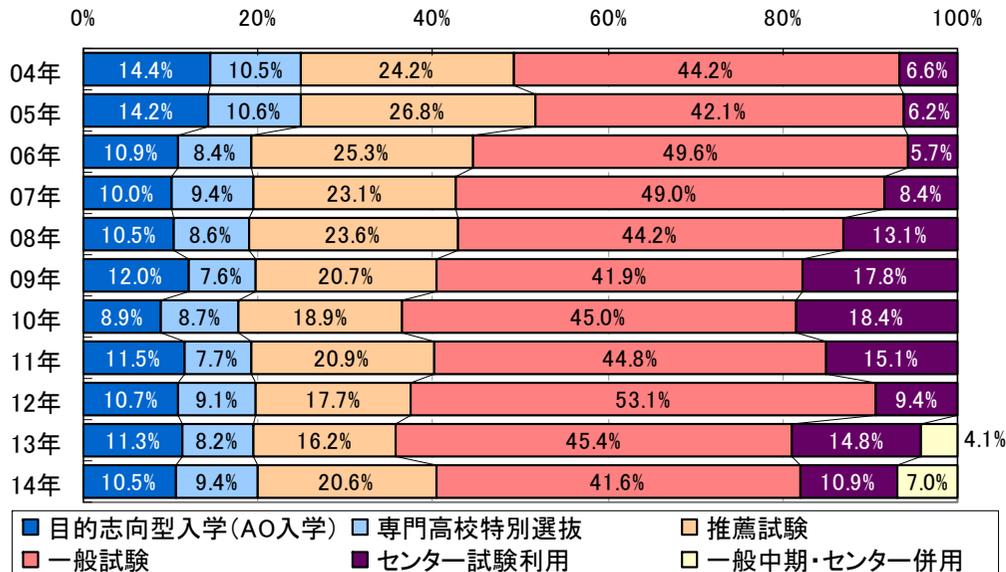
■ 新入生入試の種類、高校課程、現浪

- 入試の種類では「一般試験」が41.6%であり、「推薦試験」(20.6%)、「センター試験利用」(10.9%)、「目的志向型入学(AO入学)」(10.5%)と続いており、「推薦試験」と「一般中期・センター併用」の割合は前回より増加し、「一般試験」と「センター試験利用」は減少していた。
- 出身校の課程に関しては「普通科(理系)」は前回と同じ70.8%であり、「専門学校」がわずかに減少し、「総合学科」が増加していた。
- 入学時の現浪比較では「現役入学」が90.6%であり、経年変化はほとんど見られなかった。

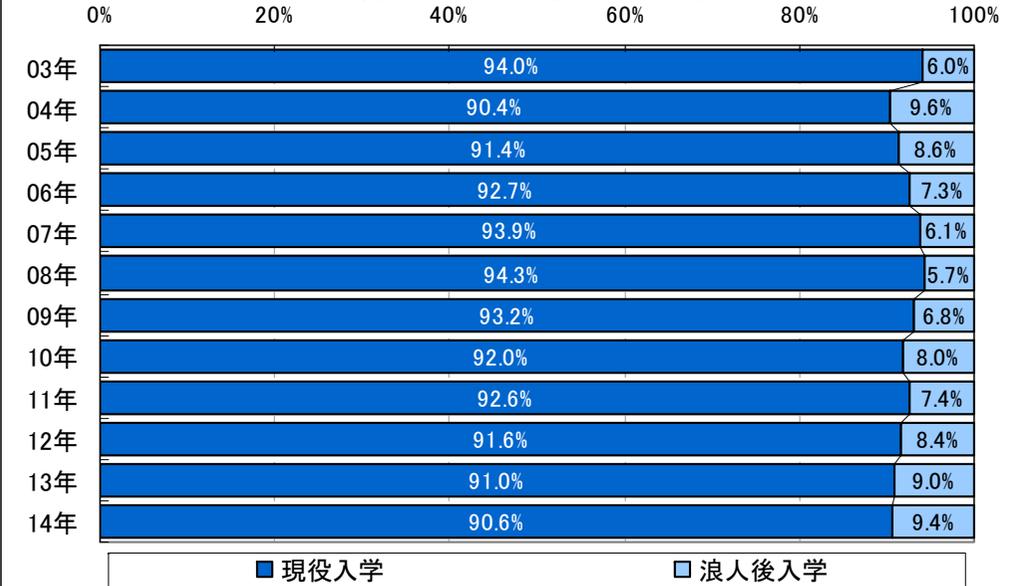
■ 新入生の出身高校課程比較



■ 入試の種類

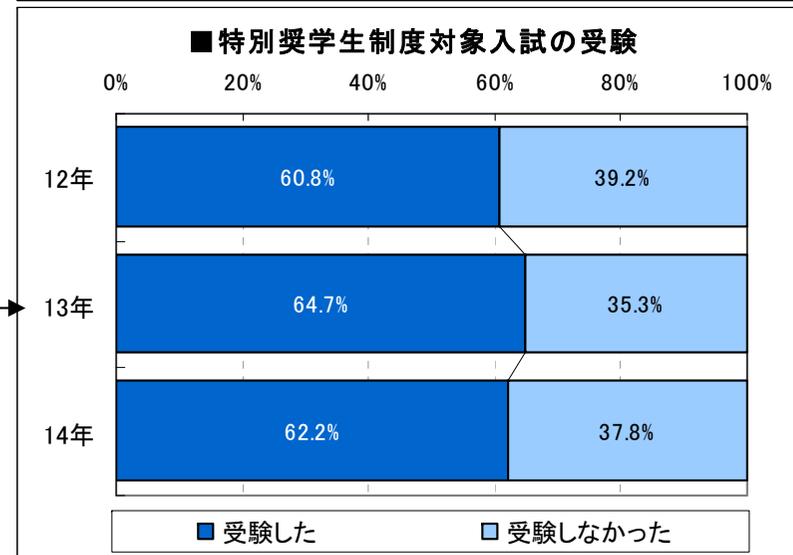
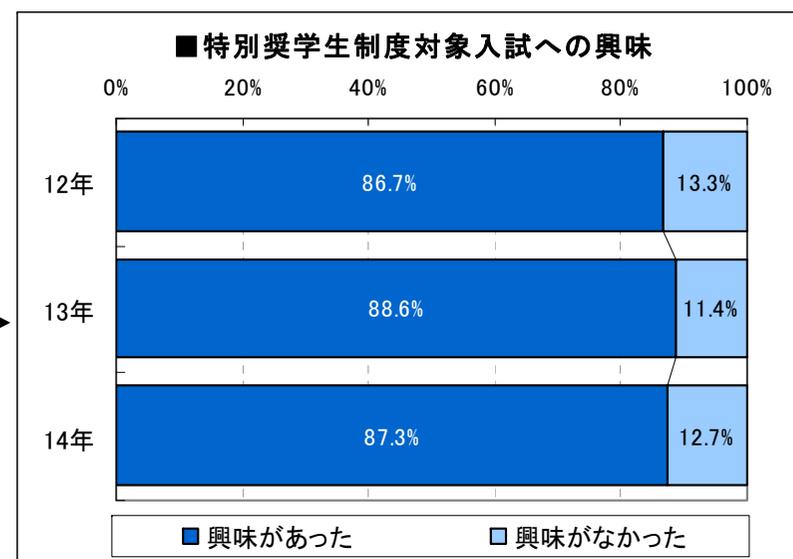
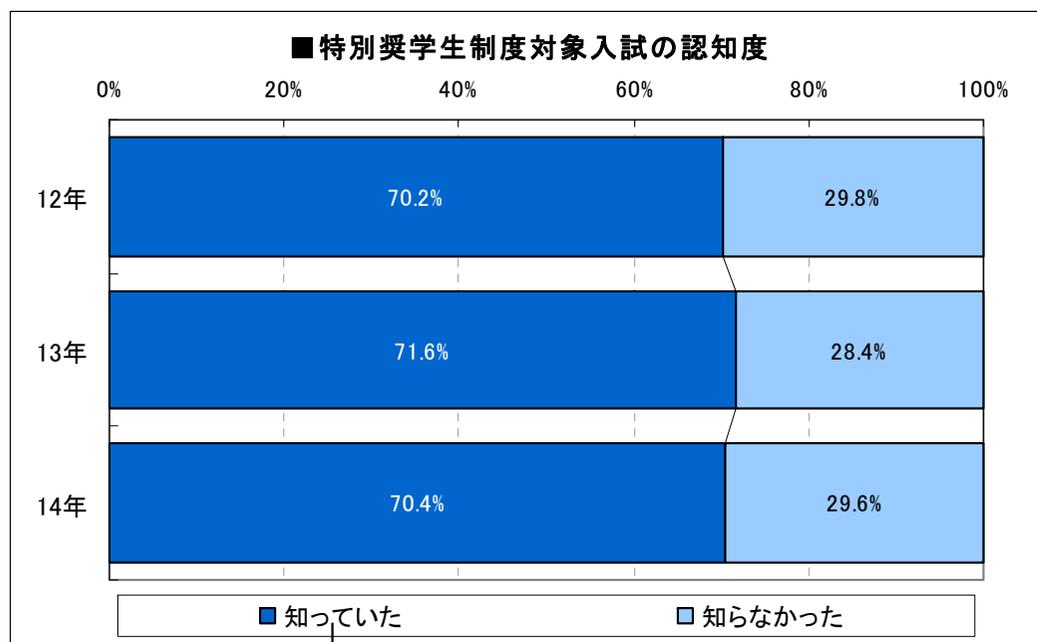


■ 新入生の入学時の現浪比較



■特別奨学生制度対象入試の受験

- 「特別奨学生制度」に関しては、「知っていた」が70.4%であり、前回よりわずかに減少していた。
- 「特別奨学金制度」を「知っていた」と答えた学生に「制度への興味」を聞いたところ、87.3%が「興味があった」と答えていたが、前回よりわずかに減少していた。
- 上記と同様に「特別奨学金制度」を「知っていた」と答えた学生に「特別奨学生制度対象入試の受験の有無」を聞くと、62.2%が「受験した」と答えており、前回より2.5ポイント減少していた。



■過去4年間の出身地一覧

■11年 出身地一覧

都道府県	人数	割合	大分類	詳細分類	
北海道	19	1.2%	東日本	北海道・東北	
青森県	4	0.2%			
岩手県	2	0.1%			
宮城県	5	0.3%			
秋田県	10	0.6%			
山形県	18	1.1%			
福島県	10	0.6%			
茨城県	10	0.6%			
栃木県	4	0.2%			
群馬県	19	1.2%			
埼玉県	3	0.2%	関東		
千葉県	4	0.2%			
東京都	6	0.4%			
神奈川県	6	0.4%			
新潟県	152	9.5%			
山梨県	9	0.6%			
長野県	94	5.8%			
富山県	229	14.3%			
石川県	408	25.4%			
福井県	122	7.6%			
岐阜県	60	3.7%	北陸		
静岡県	59	3.7%			
愛知県	49	3.0%			
三重県	38	2.4%			
滋賀県	55	3.4%			
京都府	19	1.2%			
大阪府	25	1.6%			
兵庫県	55	3.4%			
奈良県	6	0.4%			
和歌山県	5	0.3%			
鳥取県	4	0.2%	東海		
島根県	9	0.6%			
岡山県	12	0.7%			
広島県	14	0.9%			
山口県	3	0.2%			
徳島県	9	0.6%			
香川県	8	0.5%			
愛媛県	5	0.3%			
高知県	1	0.1%			
福岡県	11	0.7%			
佐賀県	0	0.0%	西日本		
長崎県	11	0.7%			
熊本県	1	0.1%			
大分県	0	0.0%			
宮崎県	1	0.1%			
鹿児島	0	0.0%			
沖縄県	2	0.1%			
不明	11	0.7%			
合計	1607	100.0%		1607	100.0%

■12年 出身地一覧

都道府県	人数	割合	大分類	詳細分類	
北海道	19	1.1%	東日本	北海道・東北	
青森県	8	0.5%			
岩手県	7	0.4%			
宮城県	7	0.4%			
秋田県	8	0.5%			
山形県	20	1.1%			
福島県	10	0.6%			
茨城県	12	0.7%			
栃木県	8	0.5%			
群馬県	23	1.3%			
埼玉県	6	0.3%	関東		
千葉県	5	0.3%			
東京都	7	0.4%			
神奈川県	6	0.3%			
新潟県	160	9.2%			
山梨県	6	0.3%			
長野県	99	5.7%			
富山県	222	12.7%			
石川県	419	24.0%			
福井県	108	6.2%			
岐阜県	81	4.6%	北陸		
静岡県	97	5.6%			
愛知県	78	4.5%			
三重県	36	2.1%			
滋賀県	53	3.0%			
京都府	31	1.8%			
大阪府	27	1.5%			
兵庫県	56	3.2%			
奈良県	8	0.5%			
和歌山県	9	0.5%			
鳥取県	7	0.4%	東海		
島根県	3	0.2%			
岡山県	22	1.3%			
広島県	15	0.9%			
山口県	4	0.2%			
徳島県	3	0.2%			
香川県	1	0.1%			
愛媛県	5	0.3%			
高知県	1	0.1%			
福岡県	14	0.8%			
佐賀県	2	0.1%	西日本		
長崎県	1	0.1%			
熊本県	2	0.1%			
大分県	2	0.1%			
宮崎県	2	0.1%			
鹿児島	1	0.1%			
沖縄県	4	0.2%			
不明	20	1.1%			
合計	1745	100.0%		1745	100.0%

■13年 出身地一覧

都道府県	人数	割合	大分類	詳細分類	
北海道	24	1.3%	東日本	北海道・東北	
青森県	9	0.5%			
岩手県	6	0.3%			
宮城県	9	0.5%			
秋田県	15	0.8%			
山形県	19	1.0%			
福島県	6	0.3%			
茨城県	17	0.9%			
栃木県	13	0.7%			
群馬県	25	1.3%			
埼玉県	4	0.2%	関東		
千葉県	5	0.3%			
東京都	7	0.4%			
神奈川県	12	0.6%			
新潟県	151	8.0%			
山梨県	13	0.7%			
長野県	112	5.9%			
富山県	258	13.7%			
石川県	481	25.5%			
福井県	108	5.7%			
岐阜県	61	3.2%	北陸		
静岡県	92	4.9%			
愛知県	75	4.0%			
三重県	60	3.2%			
滋賀県	40	2.1%			
京都府	34	1.8%			
大阪府	24	1.3%			
兵庫県	57	3.0%			
奈良県	7	0.4%			
和歌山県	10	0.5%			
鳥取県	11	0.6%	東海		
島根県	4	0.2%			
岡山県	13	0.7%			
広島県	12	0.6%			
山口県	6	0.3%			
徳島県	4	0.2%			
香川県	3	0.2%			
愛媛県	5	0.3%			
高知県	8	0.4%			
福岡県	15	0.8%			
佐賀県	3	0.2%	西日本		
長崎県	5	0.3%			
熊本県	2	0.1%			
大分県	2	0.1%			
宮崎県	5	0.3%			
鹿児島	4	0.2%			
沖縄県	11	0.6%			
不明	19	1.0%			
合計	1886	100.0%		1886	100.0%

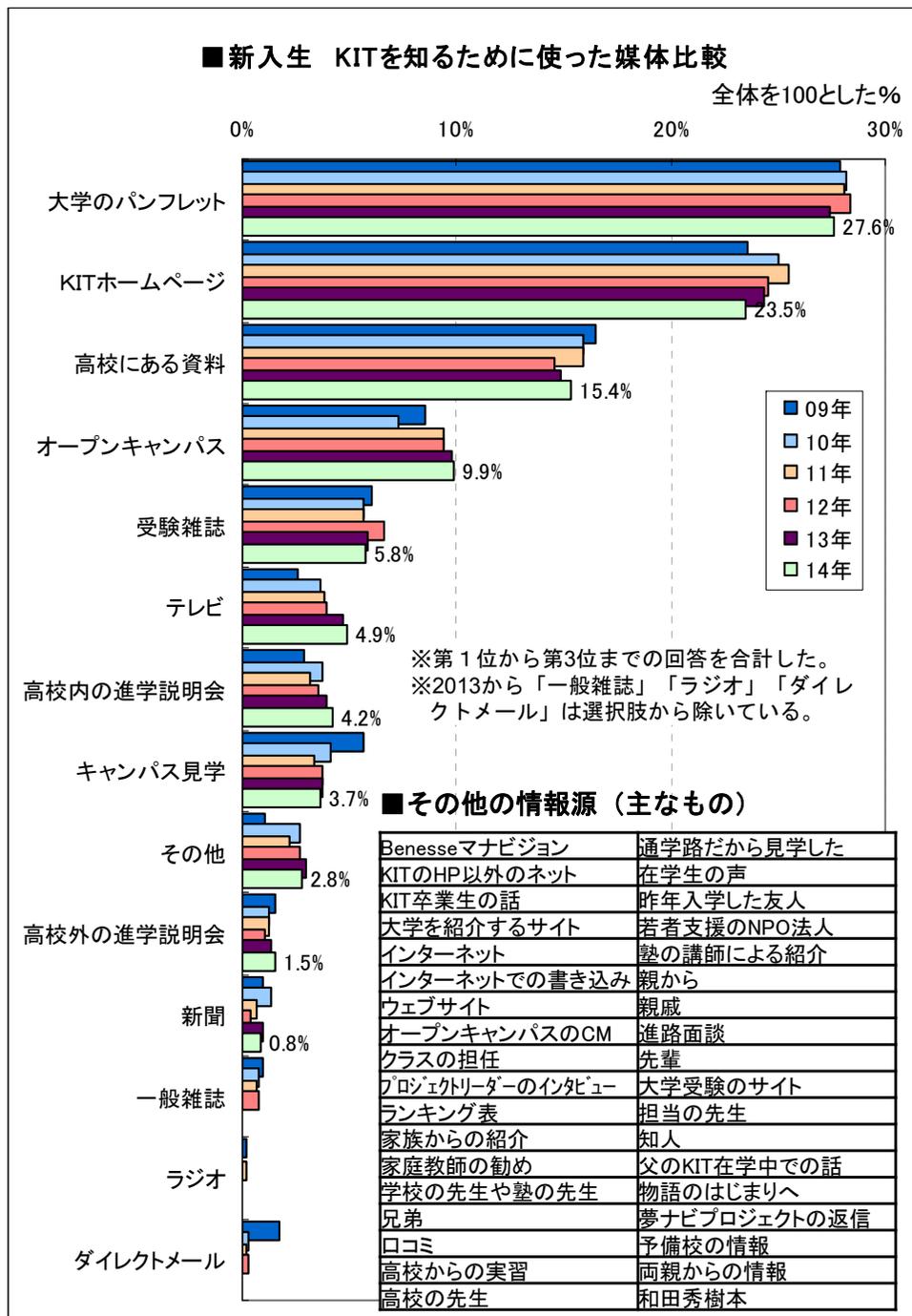
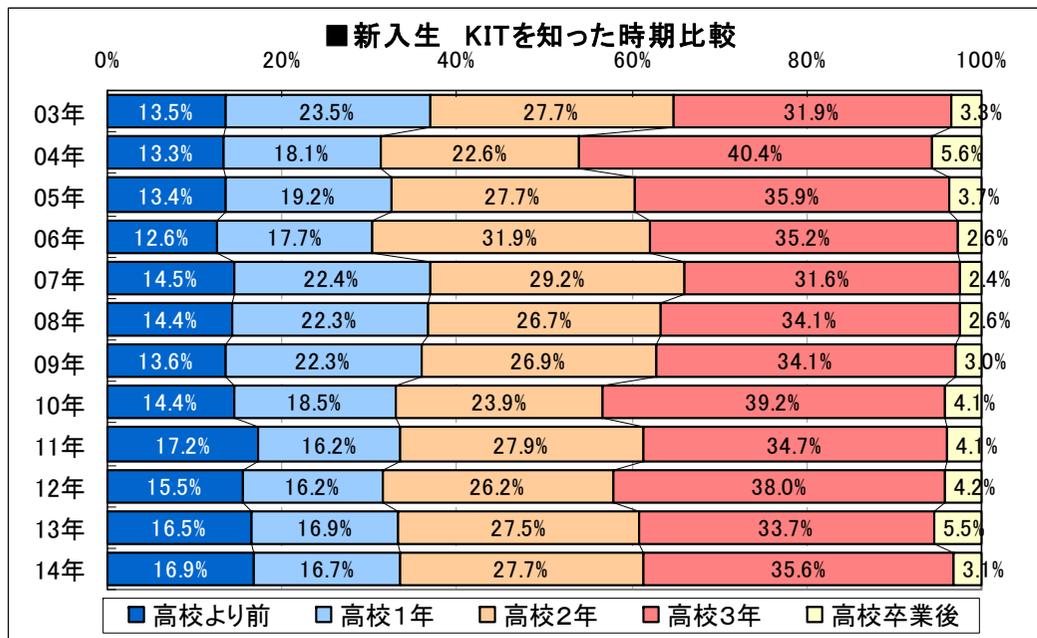
■14年 出身地一覧

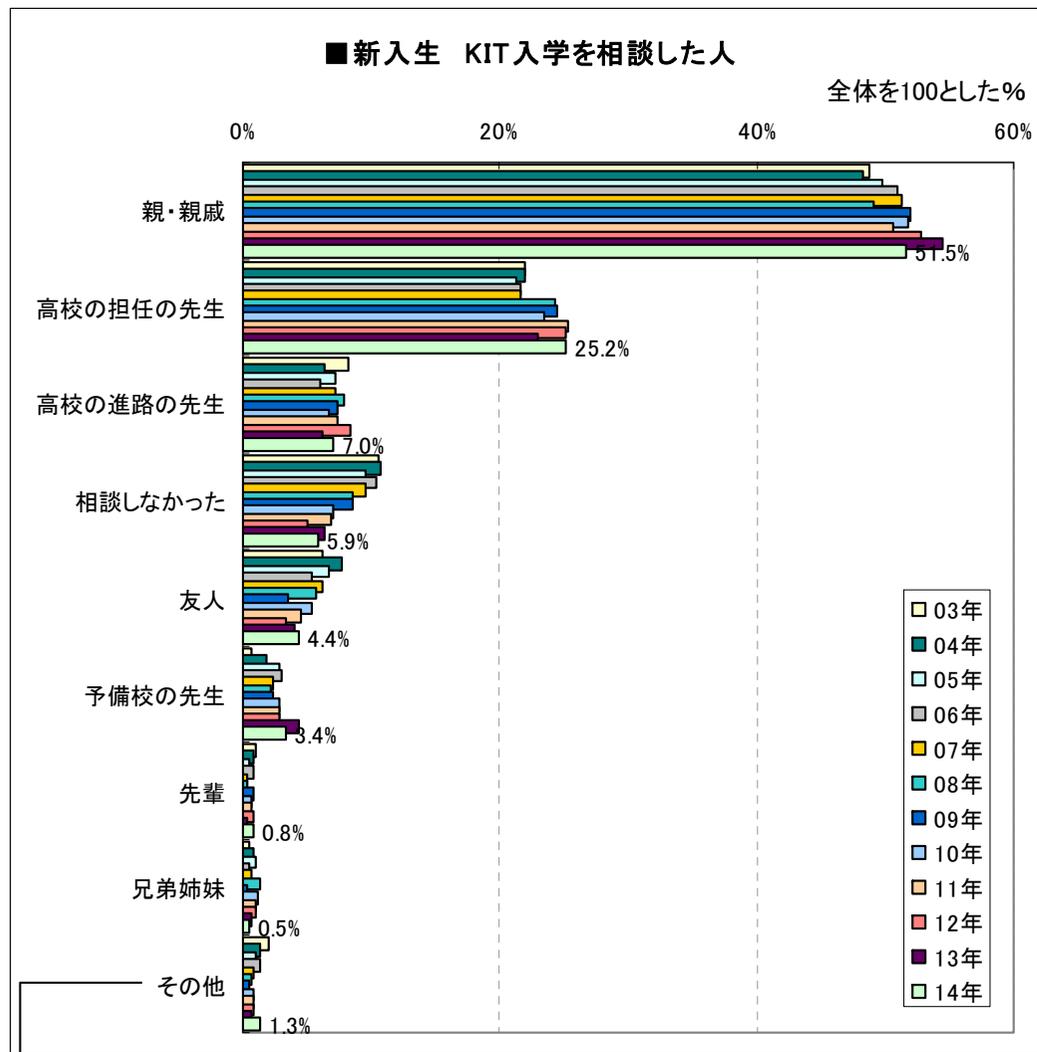
都道府県	人数	割合	大分類	詳細分類	
北海道	15	0.8%	東日本	北海道・東北	
青森県	3	0.2%			
岩手県	4	0.2%			
宮城県	14	0.7%			
秋田県	5	0.3%			
山形県	23	1.2%			
福島県	7	0.4%			
茨城県	9	0.5%			
栃木県	11	0.6%			
群馬県	18	1.0%			
埼玉県	5	0.3%	関東		
千葉県	8	0.4%			
東京都	8	0.4%			
神奈川県	5	0.3%			
新潟県	124	6.6%			
山梨県	10	0.5%			
長野県	117	6.2%			
富山県	198	10.5%			
石川県	399	21.2%			
福井県	93	4.9%			
岐阜県	57	3.0%	北陸		
静岡県	80	4.2%			
愛知県	67	3.6%			
三重県	48	2.5%			
滋賀県	39	2.1%			
京都府	19	1.0%			
大阪府	22	1.2%			
兵庫県	59	3.1%			
奈良県	7	0.4%			
和歌山県	9	0.5%			
鳥取県	7	0.4%	東海		
島根県	6	0.3%			
岡山県	18	1.0%			
広島県	12	0.6%			
山口県	8	0.4%			
徳島県	8	0.4%			
香川県	10	0.5%			
愛媛県	2	0.1%			
高知県	1	0.1%			
福岡県	26	1.4%			
佐賀県	4	0.2%	西日本		
長崎県	3	0.2%			
熊本県	3	0.2%			
大分県	2	0.1%			
宮崎県	5	0.3%			
鹿児島	0	0.0%			
沖縄県	7	0.4%			
不明	9	0.5%			
合計	1,614	85.6%		1,614	100.0%

<11-3>KITの認知経路などに関して

■KITを知った時期と利用した媒体

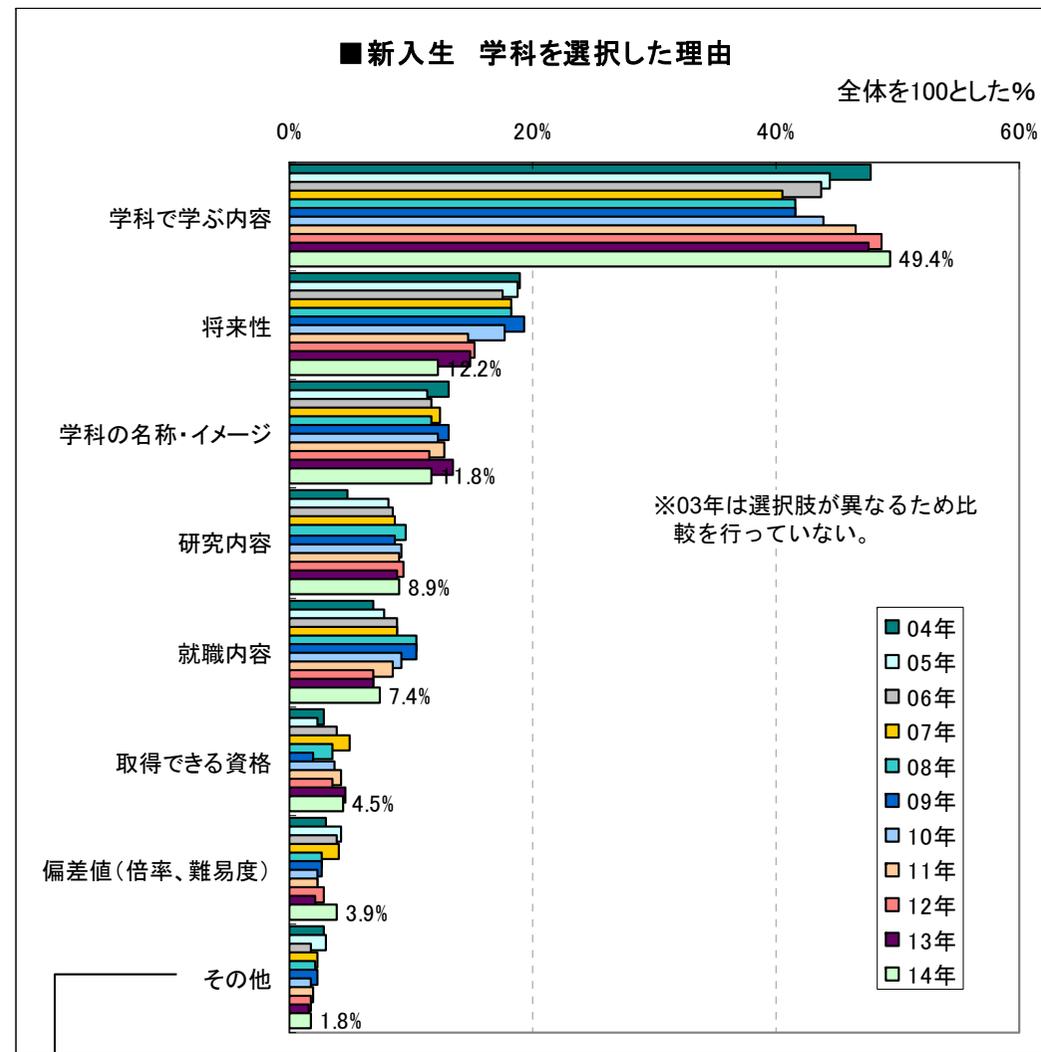
- KITを知った時期としては「高校3年」が最も多く、35.6%であった。次いで「高校2年」が27.7%、「高校より前」が16.9%、「高校1年」が16.7%であり、前回とほぼ同じであった。
- KITを知るために使った媒体としては「大学のパンフレット」が27.6%と最も多く、「KITホームページ」が23.5%、「高校にある資料」が15.4%と続いており、以前と比べて大きな変化は見られなかったが、11年あたりから継続的に「KITホームページ」が減少し、「テレビ」が増加する傾向が見られた。
- 次のページのグラフに示した「KIT入学を相談した人」では、「親・親戚」が51.5%と最も多かったが、前回より減少していた。続く「高校の担任の先生」「高校の進路の先生」はやや増加していた。
- 「学科を選択した理由」では「学科で学ぶ内容」を選んだ新生が49.4%と最も多く、以前と比較すると今回は最高となっていた。一方、2番目の「将来性」は、これまでで最も少なくなっていた。





■ その他の相談相手

インターネットの掲示板。	高校の工業職員室の先生方
クラブ活動の先生	高校の生物の先生
クラブ顧問	高校の担任・進路でない先生
家族(特に父)	高校の理系の先生方
家庭教師	若者支援のNPO法人
家庭教師の先生	塾の先生
高校で仲の良かった先生	部活の顧問
高校の科の科長	物理の先生

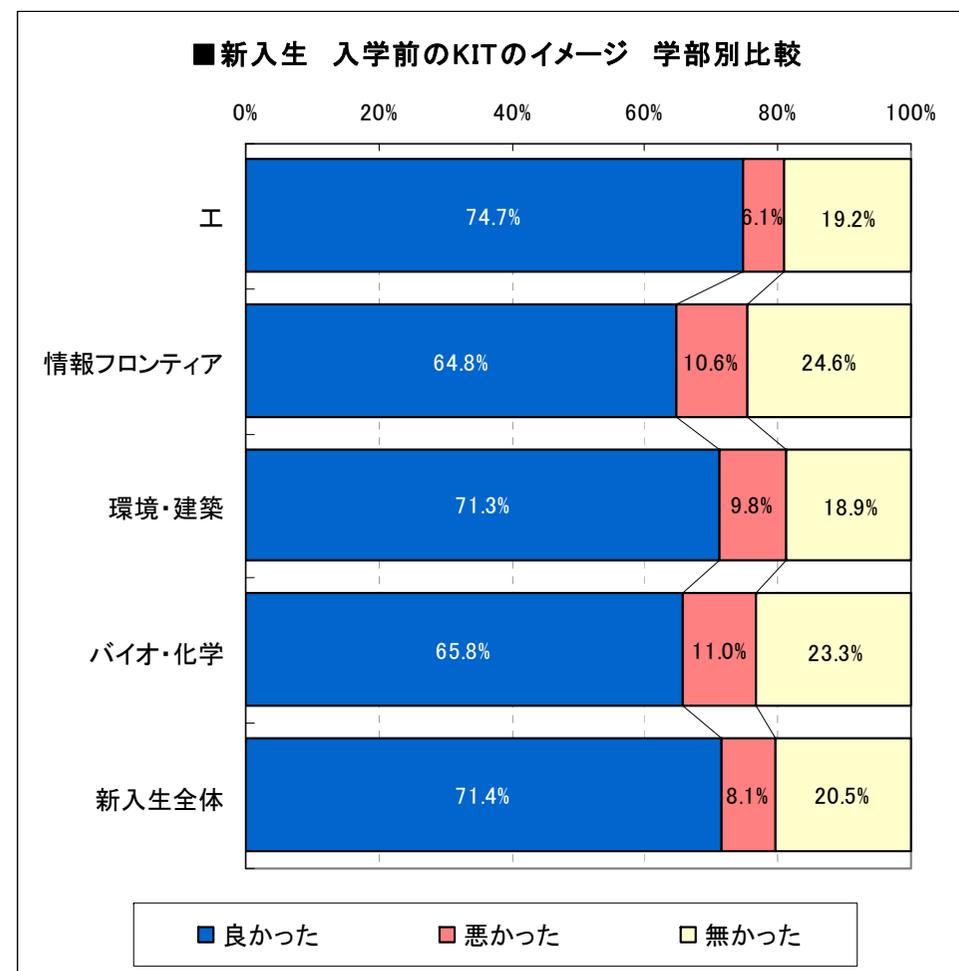
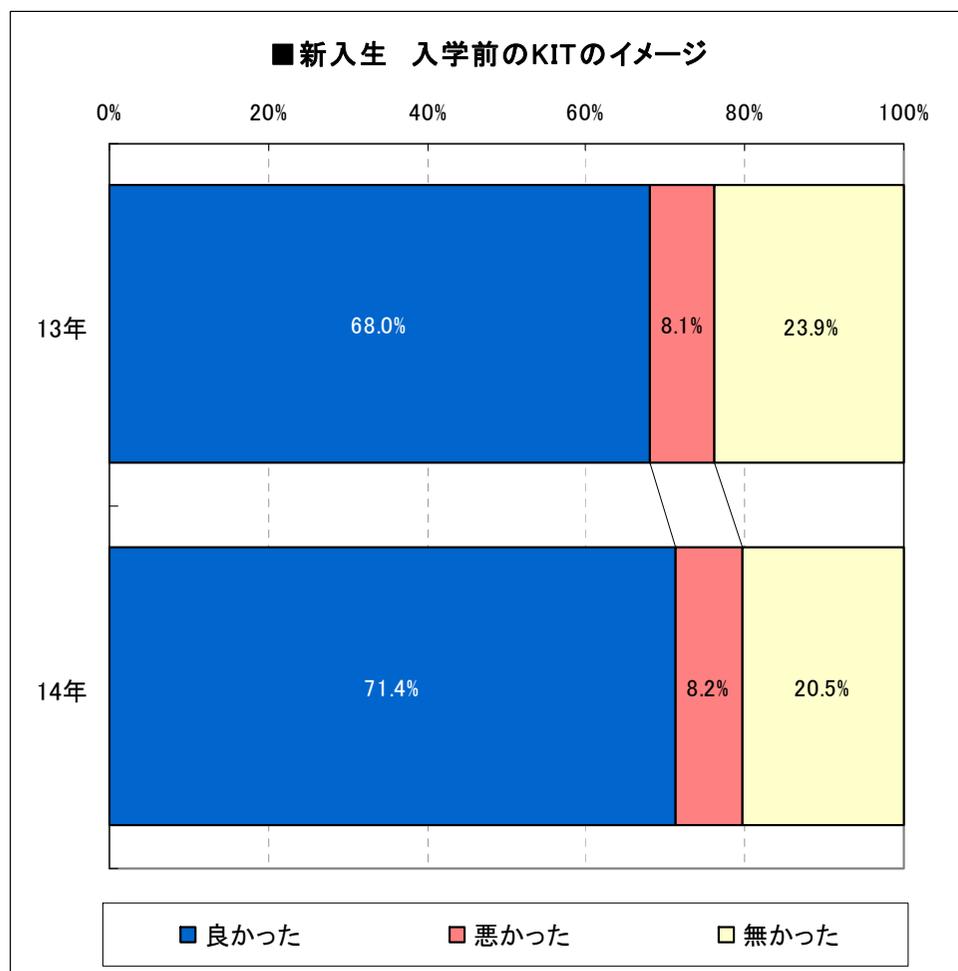


■ その他の学科選択理由

おもしろそうだから	受かったのがそこ
化学が得意だったため	就職率
課学活動夢考房がおもしろそう	将来の夢のため
建築が好きで深く学びたかった	兄に勉強を教えてもらえるから
広い分野でできると思った	先生との懇談
高校で学んできたことだから	創作に役立ちそうだから
高校と同じ学科であるため	大学院に行くため
高速道路が好きで、興味を持った	第一に落ちたから
施設の充実	評判
やりたいことが見つけやすい感じがした	夢考房プロジェクト

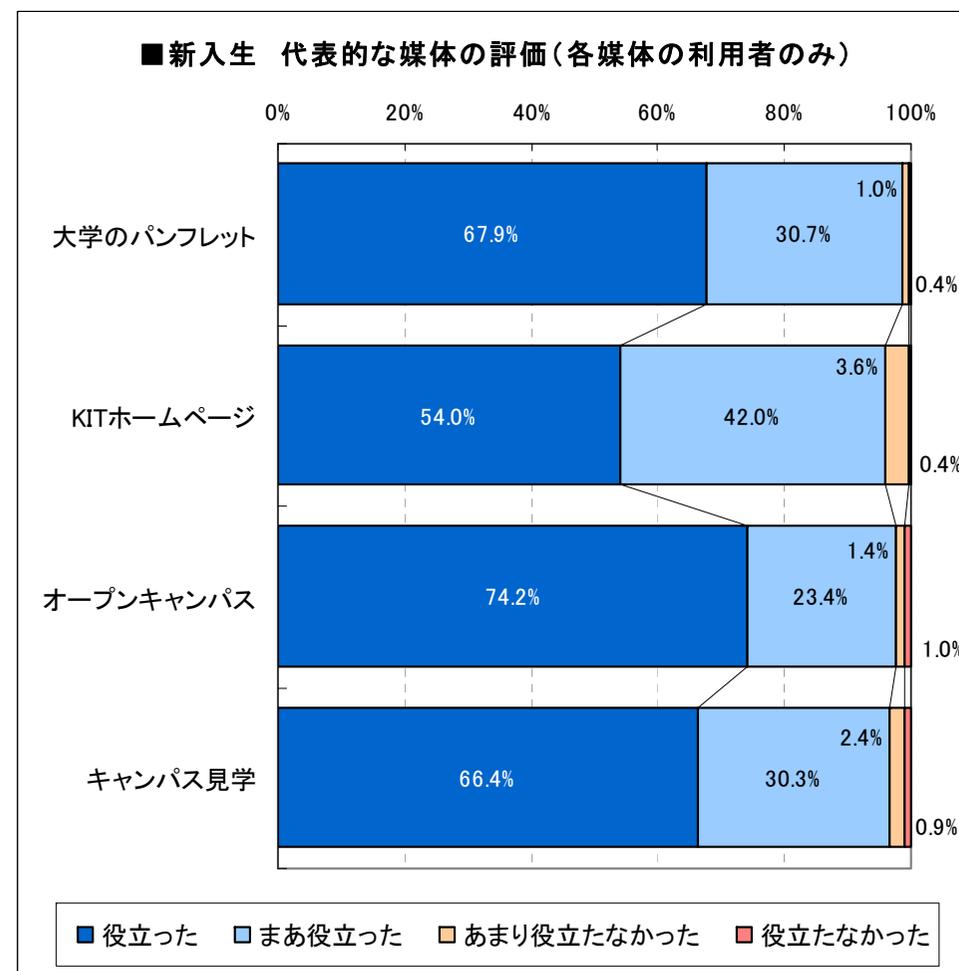
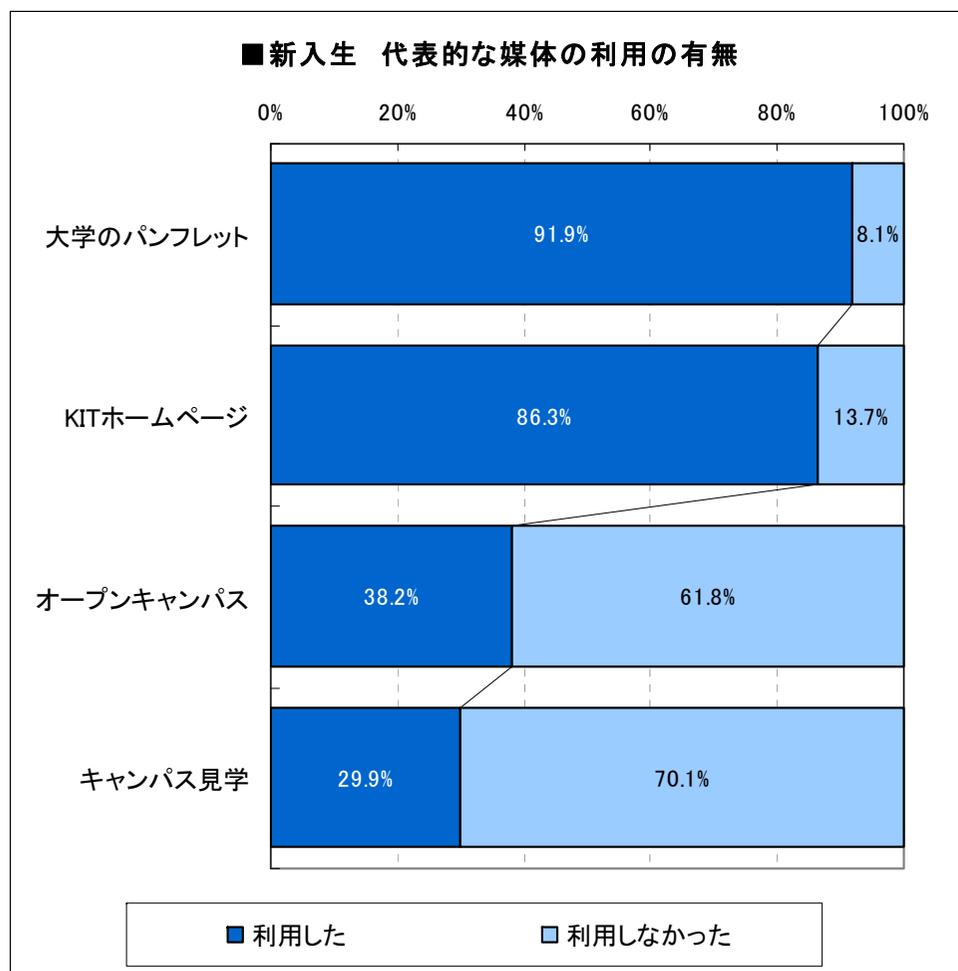
■入学前のKITのイメージ

- 入学前のKITのイメージに関しては、「良かった」が71.4%、「悪かった」が8.2%であり、良いイメージの多さが目立っていた。13年と比較すると、「良かった」が3.4ポイント増加しており、イメージは良くなっていると言える。そして、「無かった」は23.9%から20.5%へと減少しており、イメージの浸透が進んでいるとも言える。
- 学部別の比較では、「良かった」は「工」が74.7%で最も多く、「環境・建築」(71.3%)、「バイオ・化学」(65.8%)、「情報フロンティア」(64.8%)の順となっていた。そして、「悪かった」の割合は「良かった」の順のほぼ逆となっており、「情報フロンティア」と「バイオ・化学」が10%を超えていた。「無かった」の割合も「情報フロンティア」と「バイオ・化学」が多かった。



■ 代表的な媒体の評価

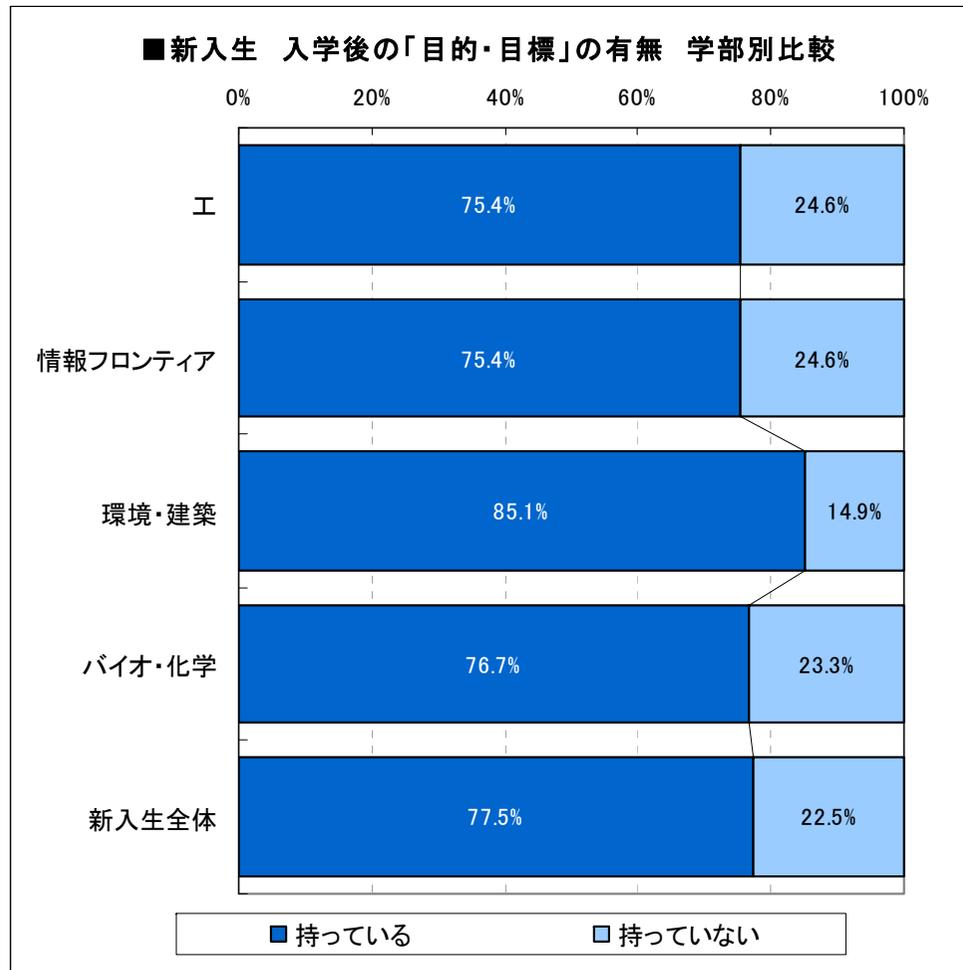
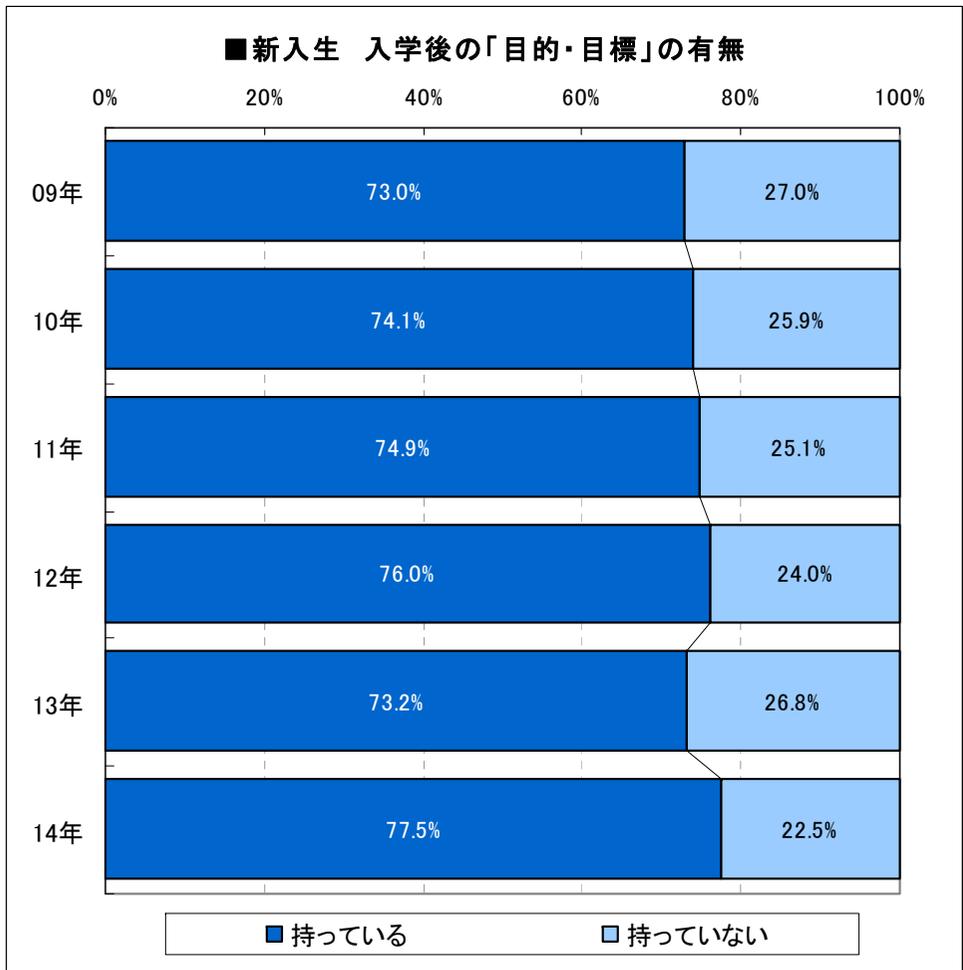
- KITの代表的な4つの広報媒体の評価を聞いたところ、「大学のパンフレット」の利用経験者が91.9%と最も多く、次ぐ「KITホームページ」(86.3%)と共に多くの新入生が利用していることが分かった。
- 上記に次いで「オープンキャンパス」が38.2%、「キャンパス見学」が29.9%であり、これらの利用率は1/3程度となっていた。
- 各媒体の利用者に、各々の評価を聞いたところ、いずれも9割以上が役に立ったという回答をしており、評価は非常に高かった。
- 媒体の評価を「役に立った」の割合だけで比較すると、「オープンキャンパス」が74.2%で最も多く、最も低かった「KITホームページ」(54.0%)と比べると20.2ポイントの差がついていた。



<11-4>入学後の目的・目標、期待に関して

■入学後の目的・目標の有無

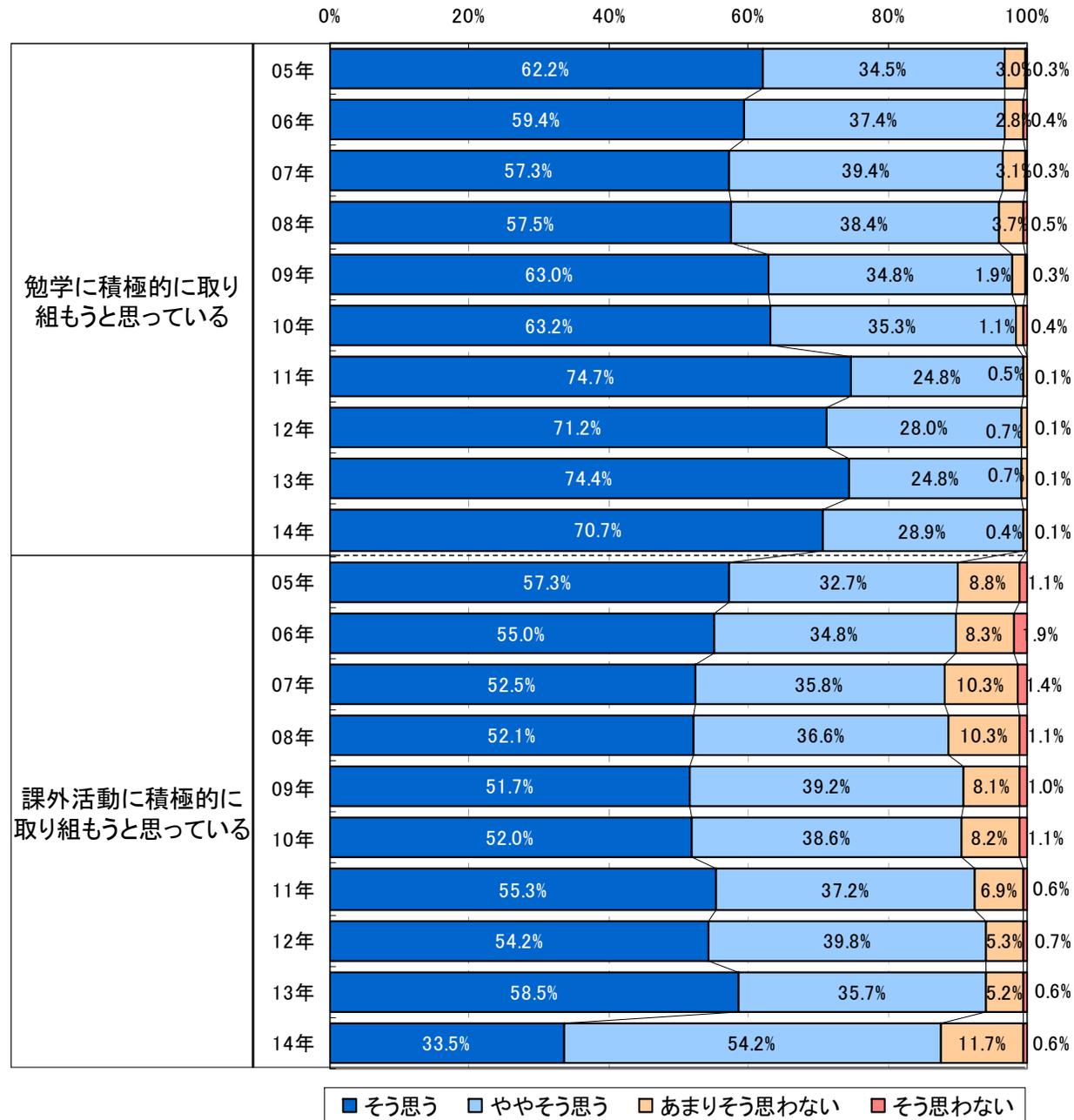
- 「大学に入ってからこれがやりたいという目的・目標を持っていますか？」という問いには、「持っている」が77.5%であり、前回は4.3ポイント上回っていた。そして、「持っている」の割合は12年から13年にかけてはわずかに低下していたが、14年は前を上回って、これまでで最も高くなっていた。
- 「目的・目標」の有無を学部別に比較したところ、「環境・建築」で「持っている」が85.1%と最も高かったが、その他の学部ではほとんど差が見られず、「バイオ・化学」で76.7%、「工」と「情報フロンティア」が75.4%という結果であった。



■KITへの期待、心構え

- KITへの期待、心構えに対する設問文で、「勉学に積極的に取り組もうと思っている」は13年まで「勉強に積極的に取り組もうと思っている」と聞いており、同様に「課外活動に積極的に取り組もうと思っている」は「勉強以外に積極的に取り組めるものを探そうと思っている」と聞いており、今回からニュアンスが少し変わっている。
- 「勉学に積極的に取り組もうと思っている」では70.7%が「そう思う」、28.9%が「ややそう思う」であり、ほとんど全員が勉学に積極的な姿勢を持っていた。ただし、「そう思う」だけで比較すると、13年を3.7ポイント下回っていた。
- 「課外活動に積極的に取り組もうと思っている」では肯定的な意見が87.7%であり、前回の94.2%を6.5ポイント下回っていた。また、「そう思う」だけで比較すると前回は25.0ポイントと大きく下回っていた。これは設問が変わったことが影響しているとも考えられるが、非常に大きな差となっていた。

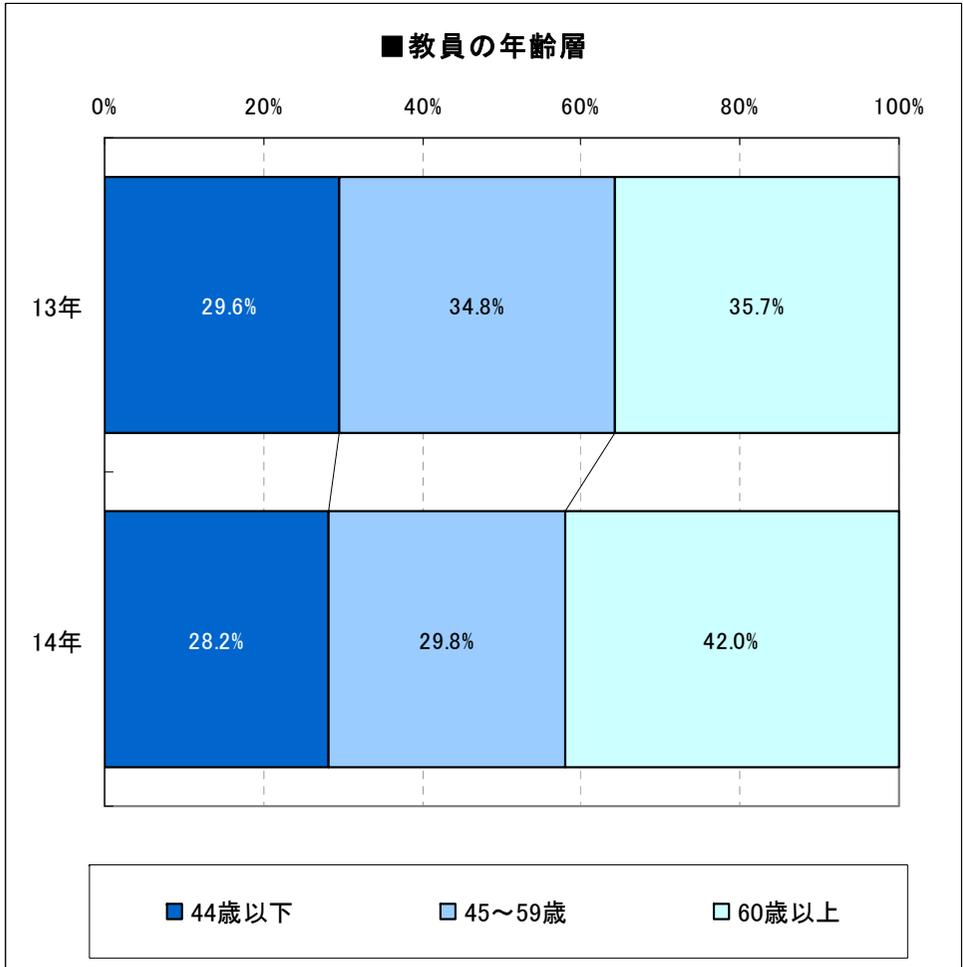
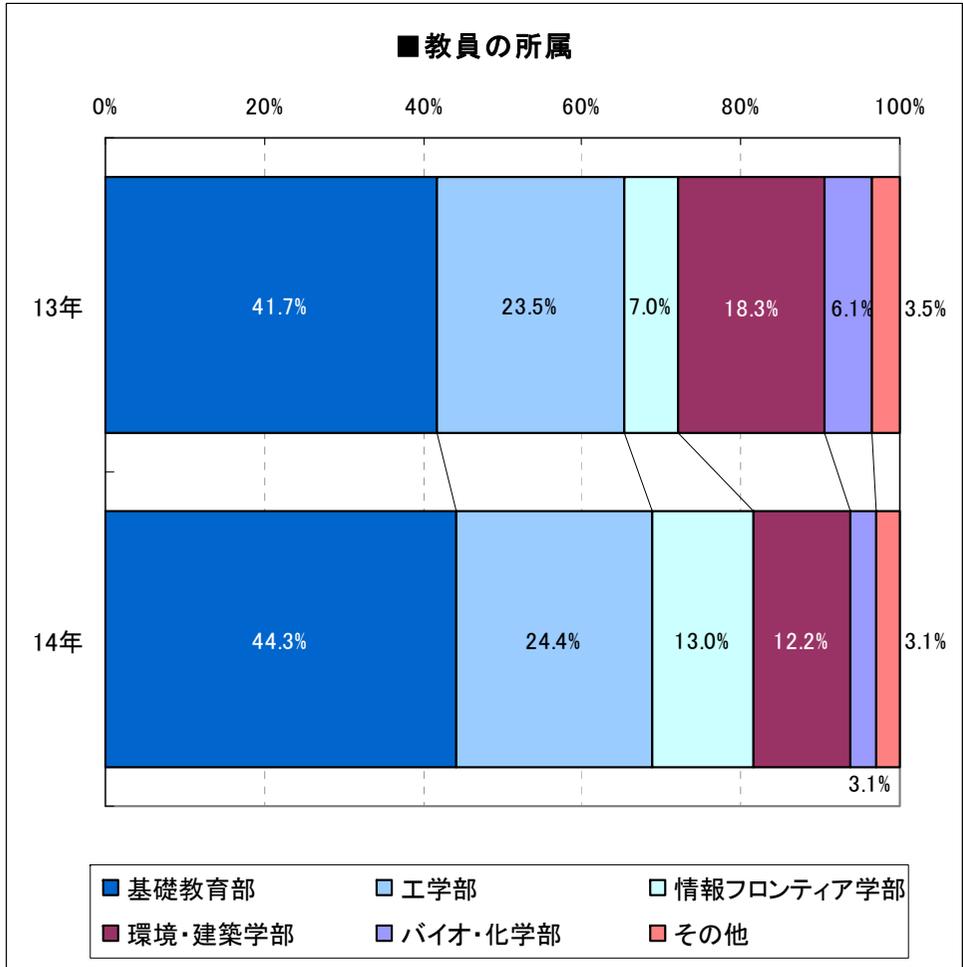
■新入生 KITへの期待、心構え



<12-1>教職員の基本属性

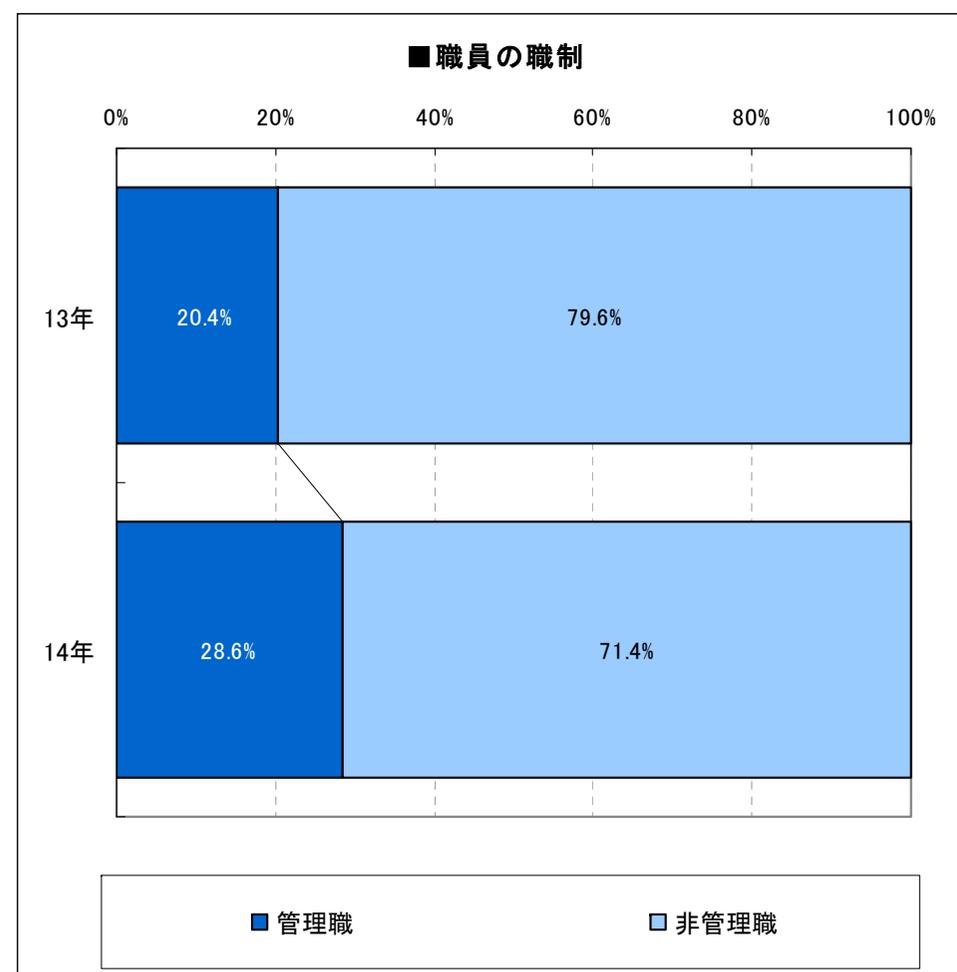
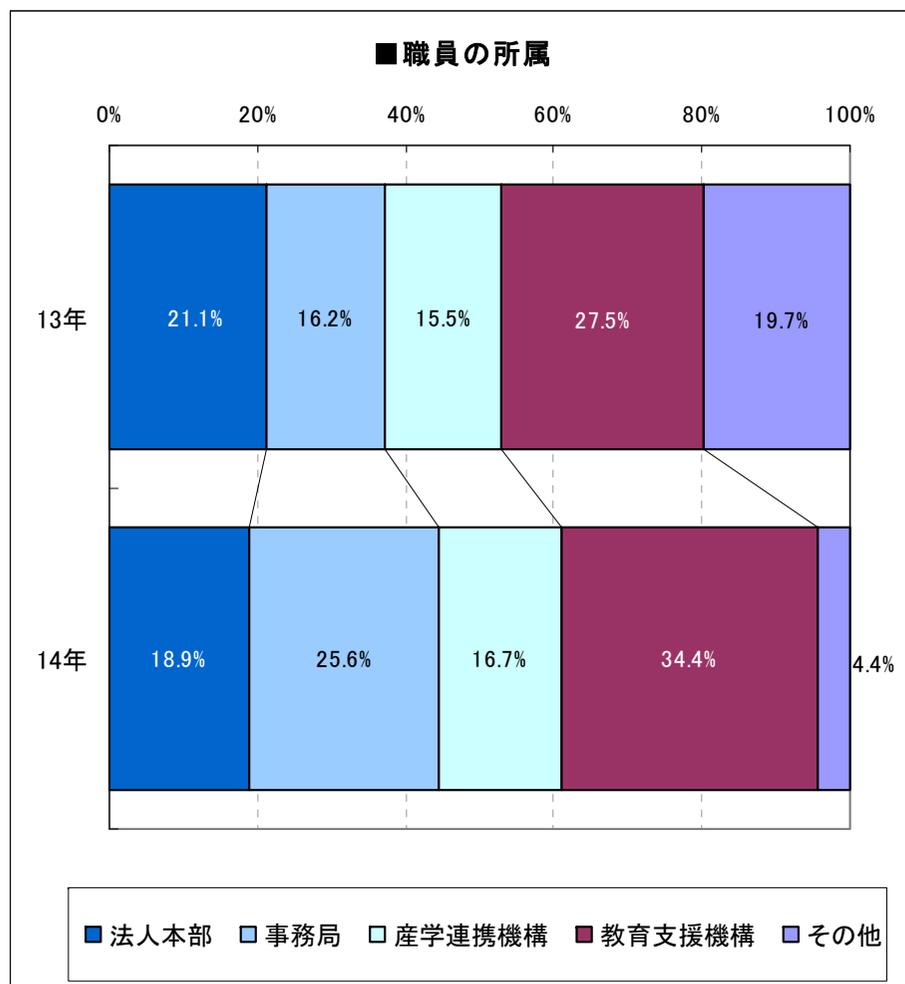
■教員の基本属性

- 「教員の所属」は「基礎教育部」が44.3%と最も多く、次いで「工学部」が24.4%、「情報フロンティア学部」が13.0%、「環境・建築学部」が12.2%、「バイオ・化学部」が3.1%と続いていた。前回との比較では、「情報フロンティア学部」が6.0ポイント増加しており、「環境・建築学部」の6.1ポイントの減少と共に目立っていた。
- 「教員の年齢層」は、「44歳以下」が28.2%、「45歳～59歳」が29.8%、「60歳以上」が42.0%であり、前回と比較すると、「60歳以上」は6.3ポイント増加していたが、「44歳以下」は1.4ポイント、「45～59歳」は5.0ポイントと、いずれも減少していた。



■ 職員の基本属性

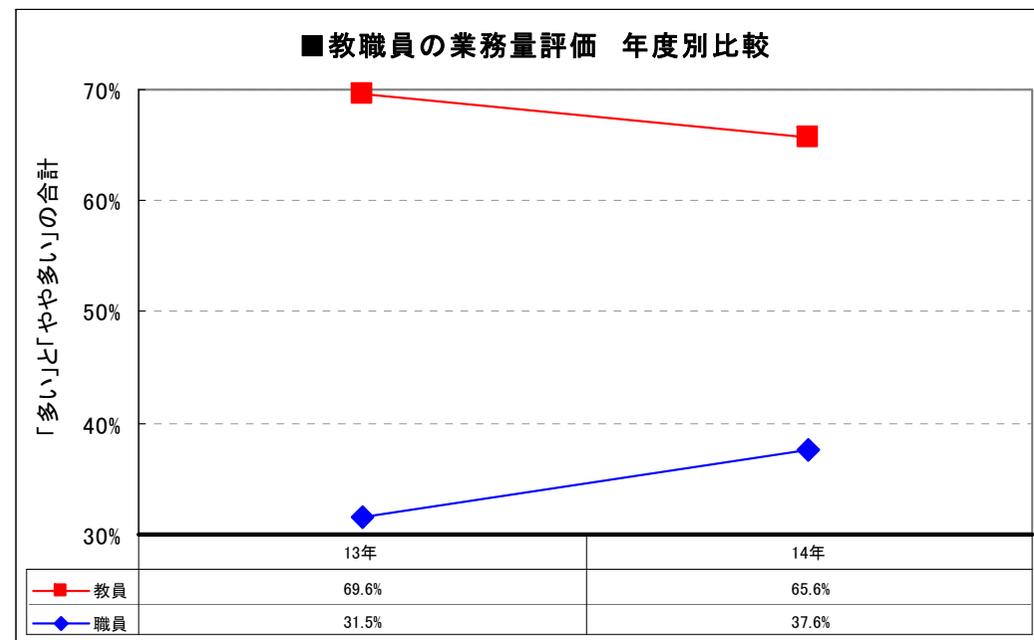
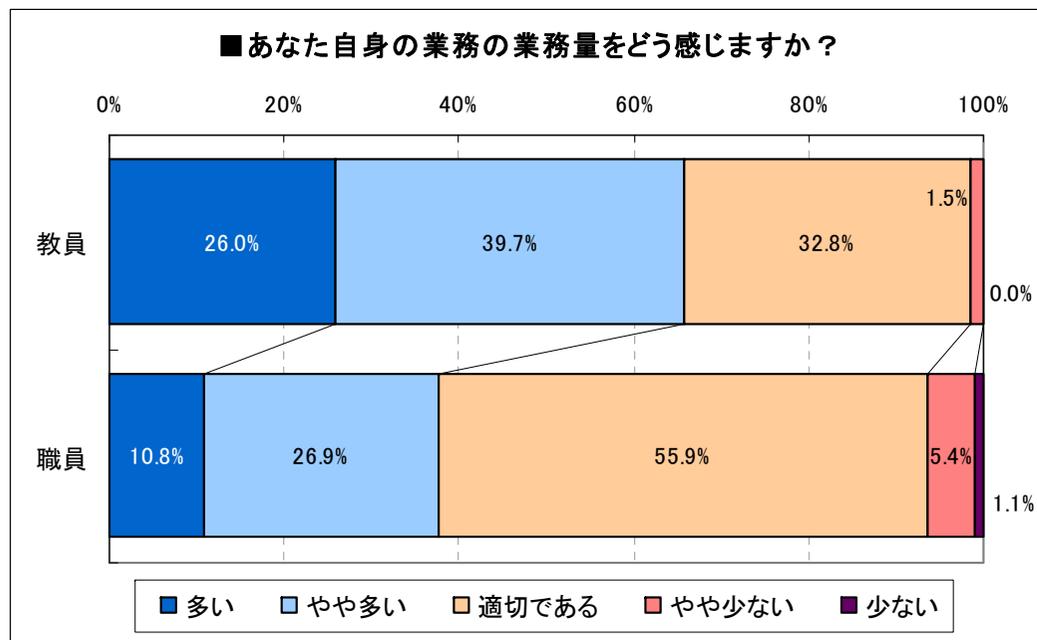
- 「職員の所属」では「教育支援機構」が34.4%と最も多く、次いで「事務局」が25.6%、「法人本部」が18.9%、「産学連携機構」が16.7%と続いていた。前回と比較すると「その他」は19.7%から4.4%へと15.3ポイント減少していたが、「教育支援機構」が6.9ポイント、「事務局」が9.4ポイントと大きく増加していた。
- 職員の「職制」では「管理職」が28.6%、「非管理職」が71.4%であり、前回と比較すると「管理職」が8.2ポイント増加していた。



<12-2>業務の状況に関して

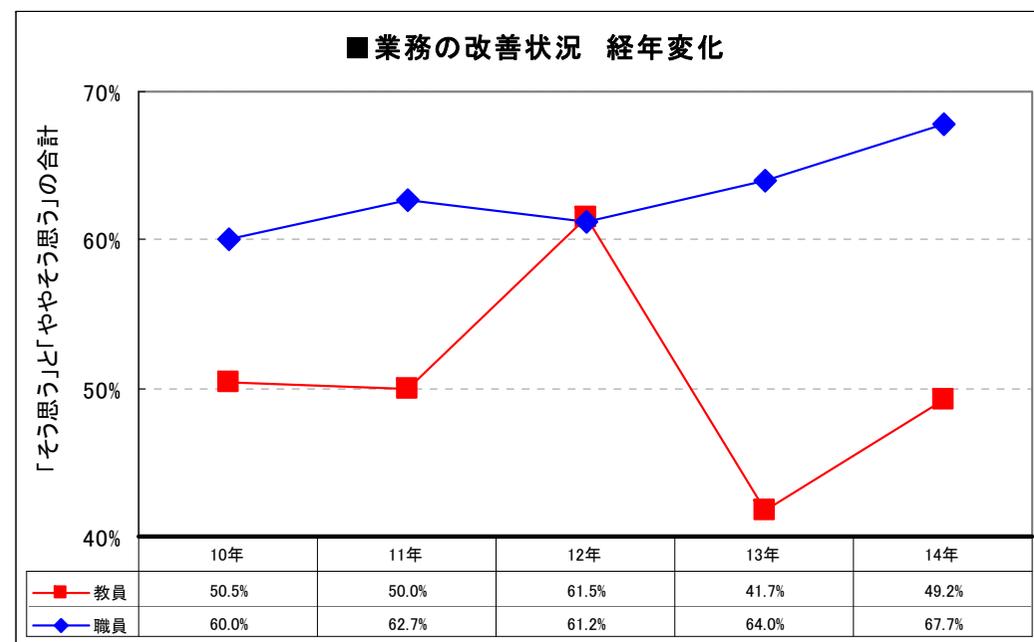
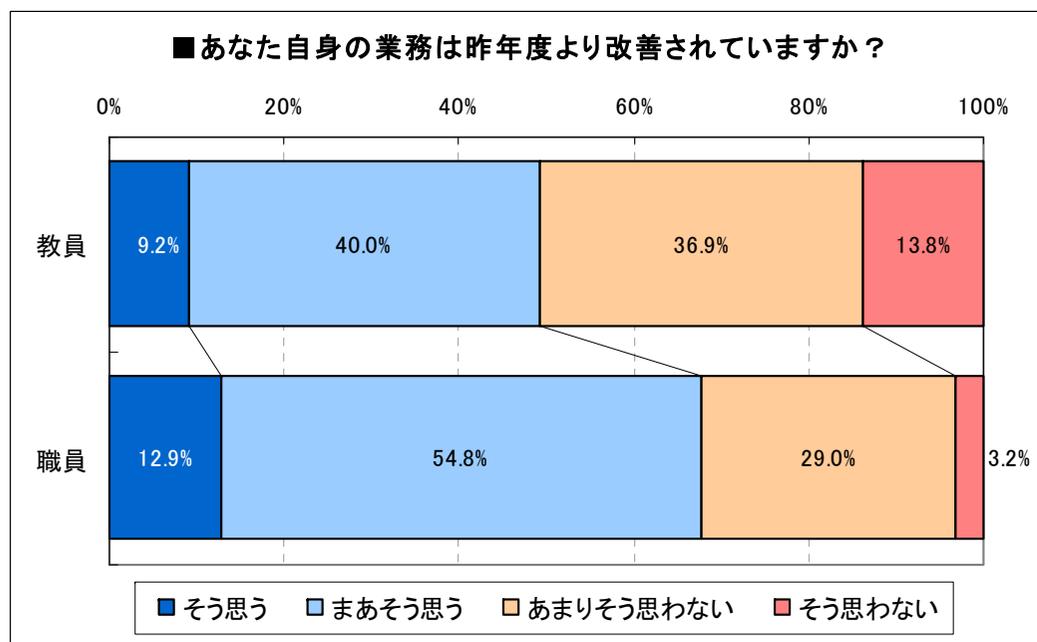
■自分自身の業務量

- 「あなた自身の業務量をどう感じますか？」は「教員」と「職員」に聞いているが、「教員」では「多い」が26.0%を占めており、「やや多い」の39.7%と合わせると65.7%が業務が多いと感じており、「適切である」は32.8%にとどまっていた。
- 「職員」では「多い」が10.8%、「やや多い」が26.9%で、合わせると37.7%であり、「教員」を28.0ポイント下回っていた。そして、「適切である」は55.9%と、半数を上回っていた。
- 「教員」「職員」の経年変化は、横軸に年度をとって変化を見ているが、「教員」では業務量が多いという意見は前回と比べてわずかに減少し、「職員」では増加するという結果となっていた。



■ 自分自身の業務改善状況

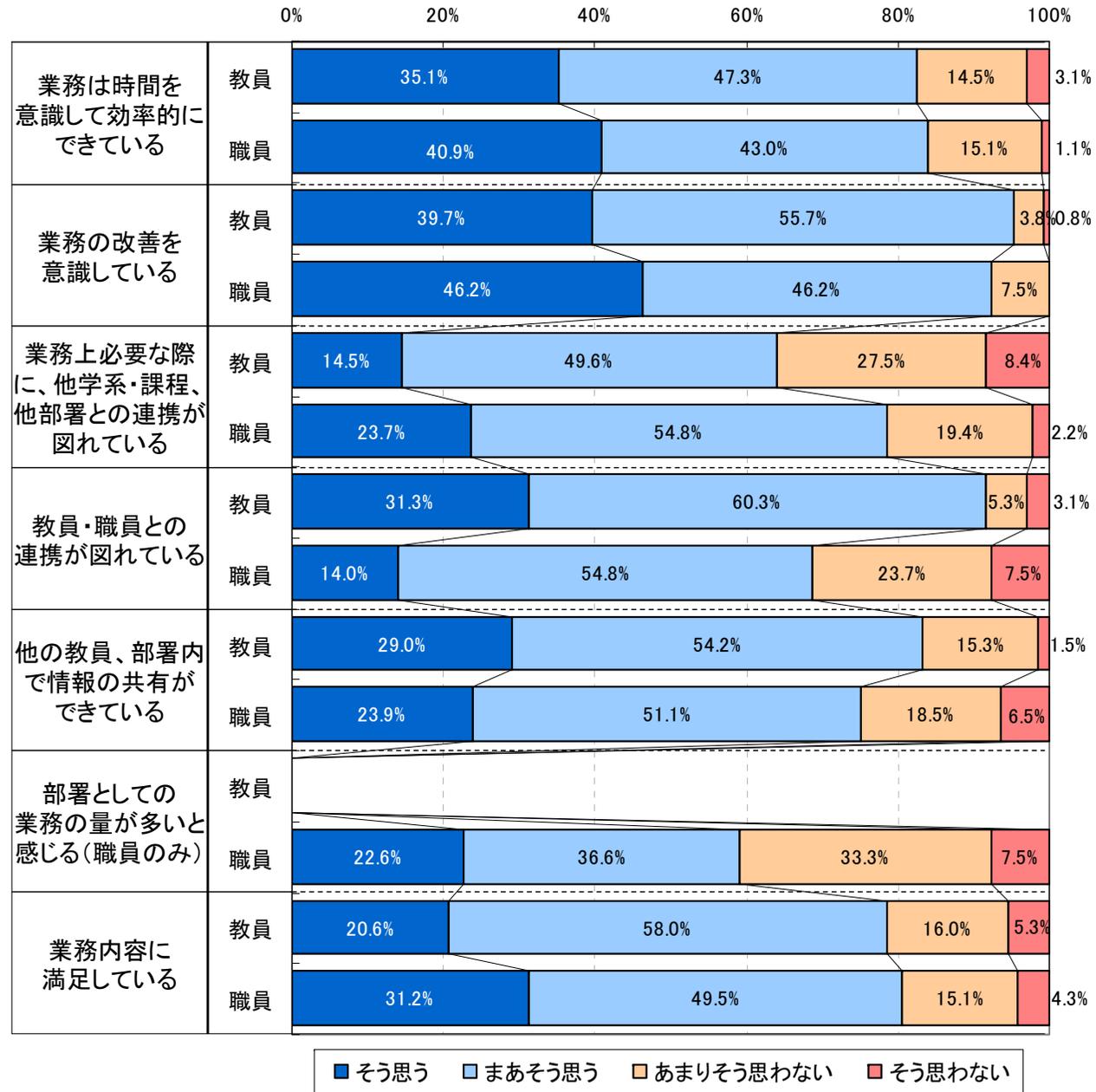
- 「あなた自身の業務は昨年度より改善されていますか？」という問いに対しては、「教員」で「そう思う」が9.2%、「まあそう思う」が40.0%であり、合わせると49.2%は改善が進んでいると感じているようであった。同様に「職員」では「そう思う」が12.9%、「まあそう思う」が54.8%であり、合わせると67.7%となり、「教員」を18.5ポイント上回っていた。
- 経年変化を見ると、「職員」は12年に少し低下しているが、継続的に肯定的な意見の増加が続いており、改善が進んでいる様子がうかがえた。一方、「教員」では12年には肯定的な意見が「職員」と同程度になっていたが、それ以降は低い状態が続いており、今回も13年よりは肯定的な意見が増加したものの、改善が進んでいるという意見は多くはなかった。



■自分自身の業務状況

- 教員・職員に「自分自身の業務状況」に関して7つの質問をした。
- まず、「業務内容に満足している」に対しては、「教員」では「そう思う」が20.6%、「まあそう思う」が58.0%であり、合わせると78.6%が満足しているという回答であった。一方、「職員」では「そう思う」が31.2%、「まあそう思う」が49.5%で、合わせると80.7%が満足していると答えていた。「教員」を2.1ポイント上回っており、「そう思う」だけで比べても「職員」の満足度の高さが確認できた。
- 「教員」「職員」共に肯定的な意見が多かったのは「業務の改善を意識している」であり、「教員」では95.4%、「職員」では92.4%が肯定的な意見であった。そして、「業務は時間を意識して効率的にできている」でも、「教員」「職員」ともに8割以上が肯定的な意見であり、意識の高さがうかがえた。
- 「教員」と「職員」の差が大きかったのは「業務上必要な際に、他学系・課程、他部署との連携が図れている」「他の教員、部署内で情報の共有ができていない」の3項目であったが、「業務上必要な際に、他学系・課程、他部署との連携が図れている」は「職員」の方が肯定的な意見が多く、「教員・職員との連携が図れている」「他の教員、部署内で情報の共有ができていない」の2項目では「教員」の方が高かった。
- 特に「教員・職員との連携が図れている」は「教員」と「職員」の差が大きく、両者の意識の差が見られた。

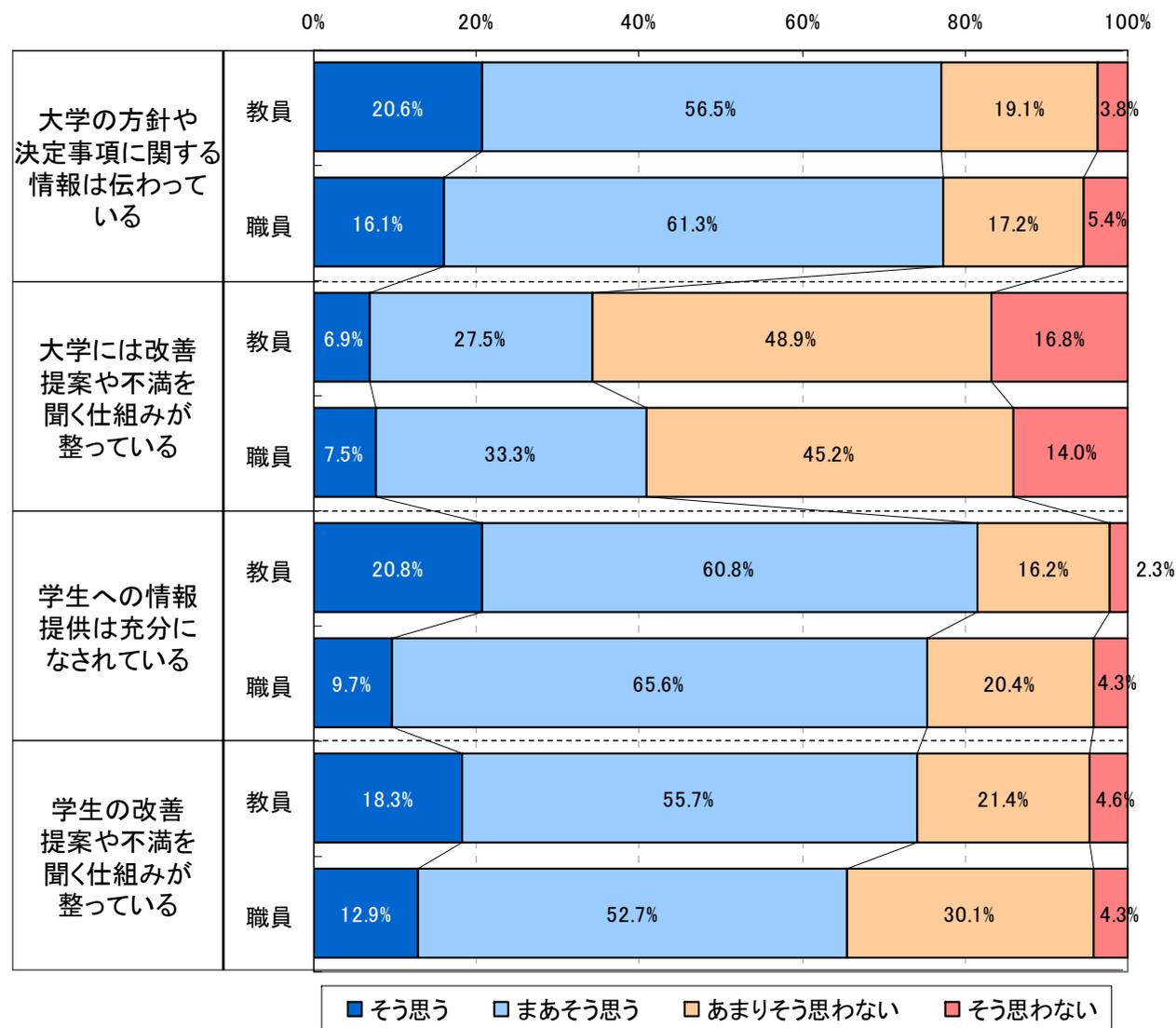
■自分自身の業務状況



■大学全体の業務改善の進捗状況

- 大学の改善への取組状況は4項目に関して聞いた。
- 「教員」「職員」共に肯定的な意見が多かったのは「大学の方針や決定事項に関する情報は伝わっている」であり、いずれも8割近くが肯定的な意見であった。
- 一方、両者共に低かったのは「大学には改善提案や不満を聞く仕組みが整っている」であり、肯定的な意見は「教員」で34.4%、「職員」で40.8%にとどまっており、いずれも約6割が不満を感じているようであった。
- 「学生への情報提供は充分になされている」と「学生の改善提案や不満を聞く仕組みが整っている」は低い評価ではなかったが、いずれも「教員」の方が高く評価していた。特に「学生への情報提供は充分になされている」では、「教員」の81.6%が肯定的な意見であり、4項目の中で最も高い評価であった。

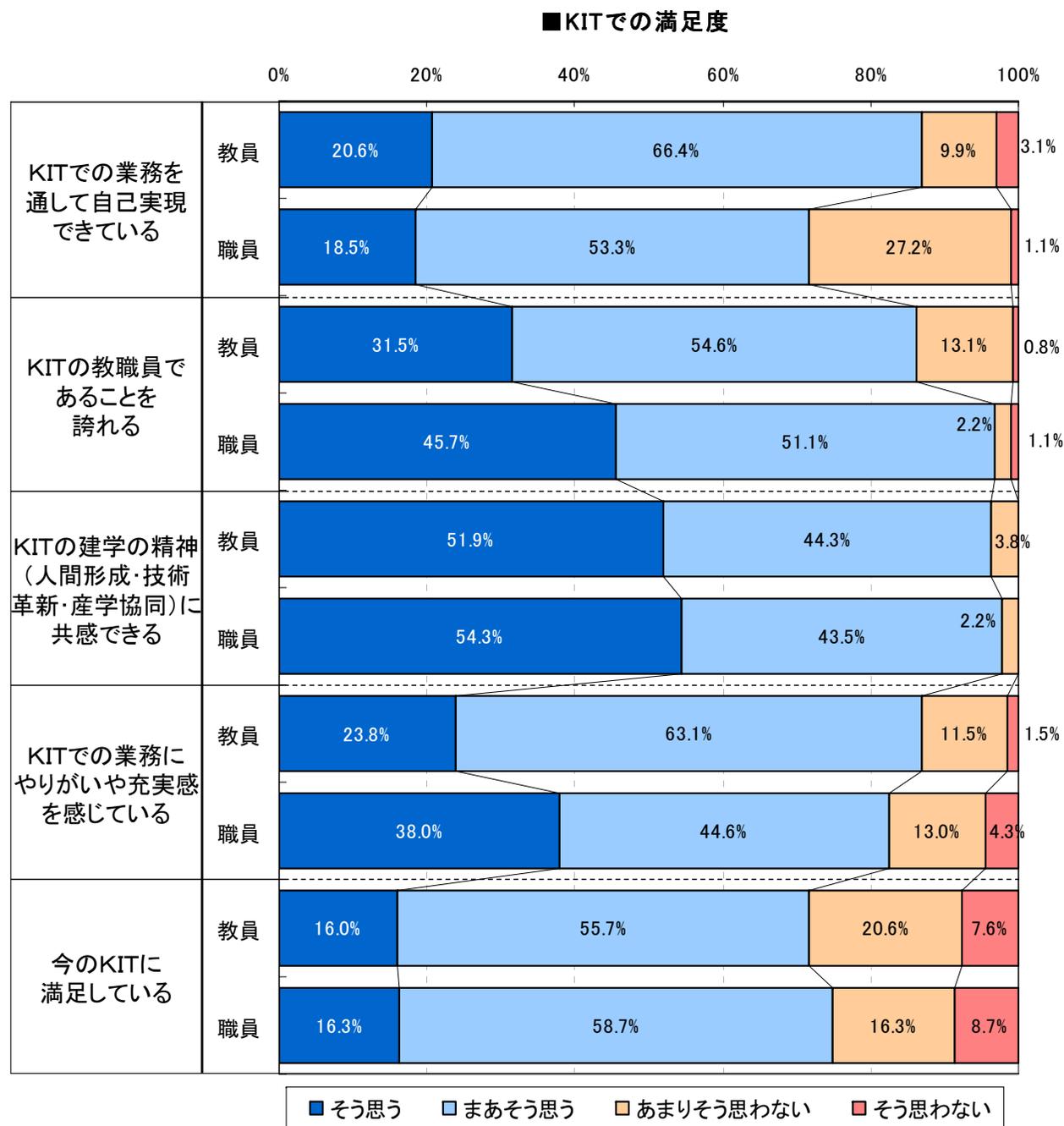
■大学の改善への取組状況



<12-3> KITでの満足度

■KITでの満足度

- KITでの満足度については5つの項目を聞いている。
- 総合的な評価である「今のKITに満足している」では、「教員」の16.0%が「そう思う」、55.7%が「まあそう思う」であり、合わせると71.7%が満足しているという回答であった。そして、「職員」では「そう思う」が16.3%、「まあそう思う」が58.7%であり、満足しているという回答は75.0%であり、「教員」を3.3ポイント上回っていた。
- 「教員」「職員」ともに肯定的な意見が多かったのは「KITの建学の精神に共感できる」であり、両者共に95%以上が肯定的な意見であった。一方、「KITの教職員であることを誇れる」では、「職員」の96.8%は肯定的な意見であったが、「教員」では86.1%にとどまっており、両者の意識の差が見られた。
- 「KITでの業務を通して自己実現できている」「KITでの業務にやりがいや充実感を感じている」の2項目ではいずれも「教員」の方が肯定的な意見が多かった。「KITでの業務を通して自己実現できている」では15.2ポイント、「KITでの業務にやりがいや充実感を感じている」では4.3ポイントの差がついており、「教員」の方が充実しているようであった。ただし、後者の「やりがいや充実感」に関して、「そう思う」という回答だけを見ると「職員」では38.0%であり、「教員」の23.8%を大きく上回っていた。



継続的な改善活動のために!

在学生・卒業生・教職員

2014 KIT総合アンケート調査結果[報告書]

■発行日	平成26年10月27日
■発行者	学校法人 金沢工業大学
■調査票設計・分析	有限会社 アイ・ポイント
■編集	金沢工業大学企画部CS室

無断複製厳禁